HONDA

N-WGN
N-WGN Custom

OWNER'S GUIDE

オーナーズガイド

このオーナーズガイドは基本的な操作、安全に関する情報、万一の場合に必要となる情報が掲載された簡易取扱説明書です。

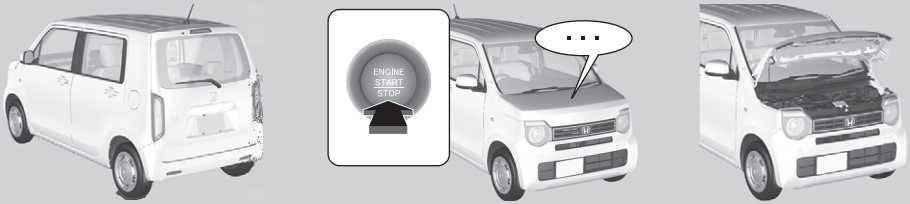
基本的な操作の例

時計設定、エンジン始動方法、セレクトレバーの使いかた、給油のしかたなどです。
詳しくは目次をご確認ください。



万一の場合に必要となる情報例

パンクしたとき、エンジンが始動しないとき、オーバーヒートしたときなどの情報です。
詳しくは、目次の“万一の場合には”をご確認ください。



さらに、詳しい取扱情報は詳細取扱説明書に掲載されていますので、車両にお乗りになる際には、詳細取扱説明書もお読みください。

■取扱説明書のご案内

Honda ホームページにて、詳細取扱説明書を電子データ形式（HTML 版/PDF 版）で、ご提供しています。
取扱説明書の提供ページで、モデル名と年式を選択し、閲覧をしてください。

取扱説明書の提供ページ
https://www.honda.co.jp/ownersmanual/HondaMotor/auto/

なお、Honda ホームページからは、検索ボックスに『取説』と入力することで、この提供ページを検索できます。

QR コード読み取り機能付のスマートフォンやタブレット PC をお持ちの場合は、左の QR コードをご利用ください。
ご利用にあたっては、お持ちのスマートフォンやタブレット PC 取扱説明書をご確認ください。

また、紙書籍版の詳細取扱説明書は、Honda 販売店にて、ご購入いただけます。
ご購入を希望される方は、 Honda 販売店にご相談ください。

本書の構成

本書は下記の章構成で編集されています。

はじめに

1　安全なドライブ
安全運転のために必要な重要情報が記載されています。
運転を始める前によくお読みいただき、運転者と同乗者の安全を確保してください。

2　計器の見かた
運転中に使用するスイッチや警告灯・表示灯、メーター類に関する情報を記載しています。

3　各部の操作
運転に必要な各部の操作方法について記載しています。

4　オーディオ
アンテナの取り扱いについて記載しています。

5　運転
運転操作、給油などについて記載しています。

6　メンテナンス
基本的なメンテナンスについて記載しています。

7　万一の場合には
万一の場合の対応方法について記載しています。

8　こんなときは
困ったときの対処方法について Q & A 形式で記載しています。

9　仕様
仕様に関する情報が記載されています。

索引

検索のしかた

本書に記載の内容を探すにあたって、下記の検索方法を設けています。

1　ビジュアル目次
車両のイメージイラストに装備名称とその装備の説明ページ番号を記載しています。
名称が分からない装備を調べるときや、装備の取付位置から内容を調べたいときにご利用ください。

2　目次
本書の各章と記載内容をページ番号順に記載しています。
本書の記載内容から調べたいときにご利用ください。各章の記載内容については、上記「本書の構成」をご覧ください。

3　索引
装備名称や本書の記載内容を数字・アルファベット・五十音順に記載しています。
装備名称や記載内容から調べたいときにご利用ください。

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠危険

指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告

指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意

指示にしたがわないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

下記の表示を使って記載しています。

アドバイス
お車が故障や破損することを防ぐためのアドバイスや、環境への配慮のために守っていただきたいこと。

サービス診断記録装置について

この車には、システムを制御するためのコンピューターが搭載されており、次の内容をデータとして記録します。

- エアバッグシステムの故障診断情報
- エアバッグの作動に関する情報
- 動力伝達機構の状態
- 運転状態

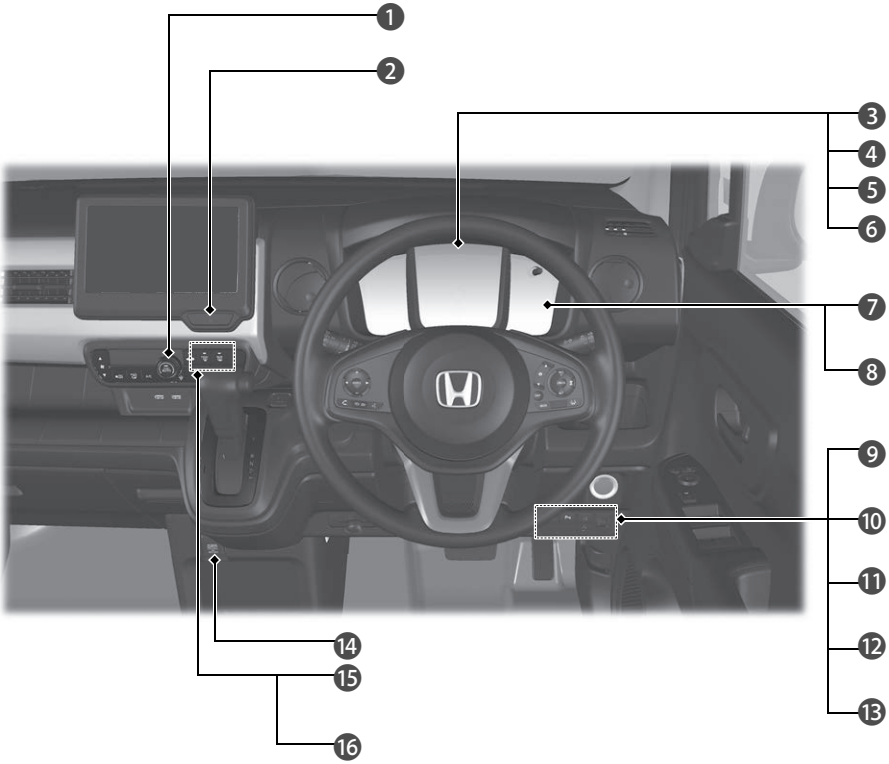
HondaおよびHondaが委託した第三者は、記録されたデータを技術的な診断やHondaの車両の研究開発のために、取得、利用することがあります。
なお、会話等の音声や映像は記録されません。

データの開示について

Hondaおよび Hondaが委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示、提供することはありません。

- お車の所有者または使用者の同意がある場合
- 裁判所命令等、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う等、使用者や車が特定できないように加工したデータを、研究機関等に提供する場合

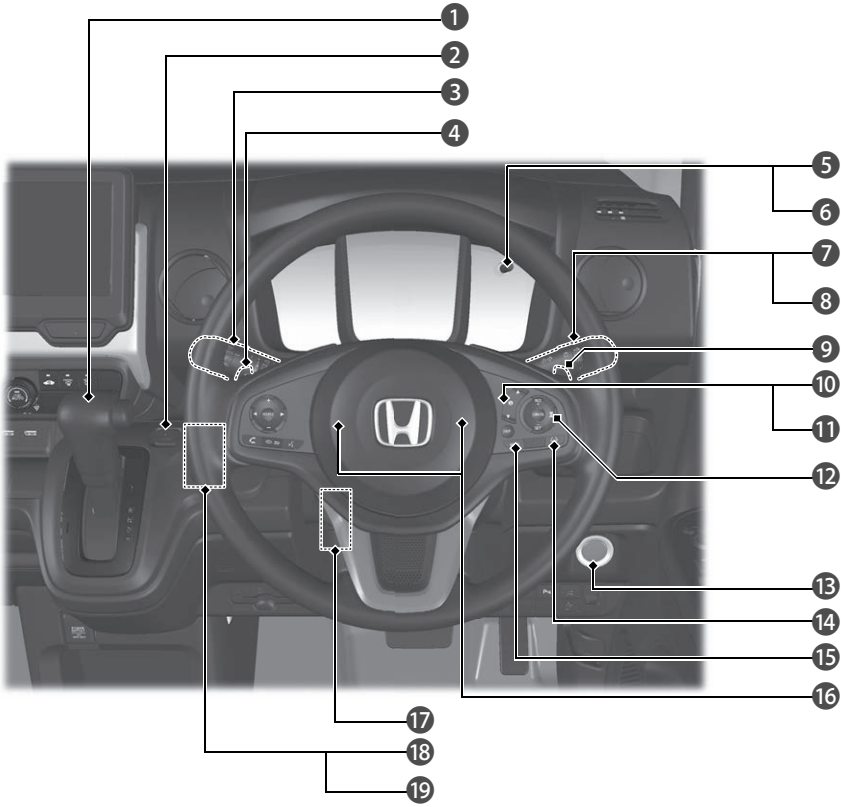
ビジュアル目次



1. オートエアコン (P. 115)
2. 非常点滅表示灯(ハザードスイッチ)
3. メーター (P. 72)
4. 警告灯 (P. 43)
5. 表示灯 (P. 55)
6. 時計 (P. 77)
7. インフォメーション ディスプレイ* (P. 73)
8. マルチインフォメーション ディスプレイ* (P. 74)
9. (VSA OFF)スイッチ (P. 129)
10. (路外逸脱抑制) スイッチ* (P. 169)
11. (CMBS OFF)スイッチ* (P. 135)
12. ヘッドライトレベリング ダイヤル (P. 93)
13. パーキングセンサーシステムスイッチ* (P. 193)
14. アクセサリーソケット (P. 112)
15. リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラー* スイッチ (P. 99)
16. デフロスタースイッチ

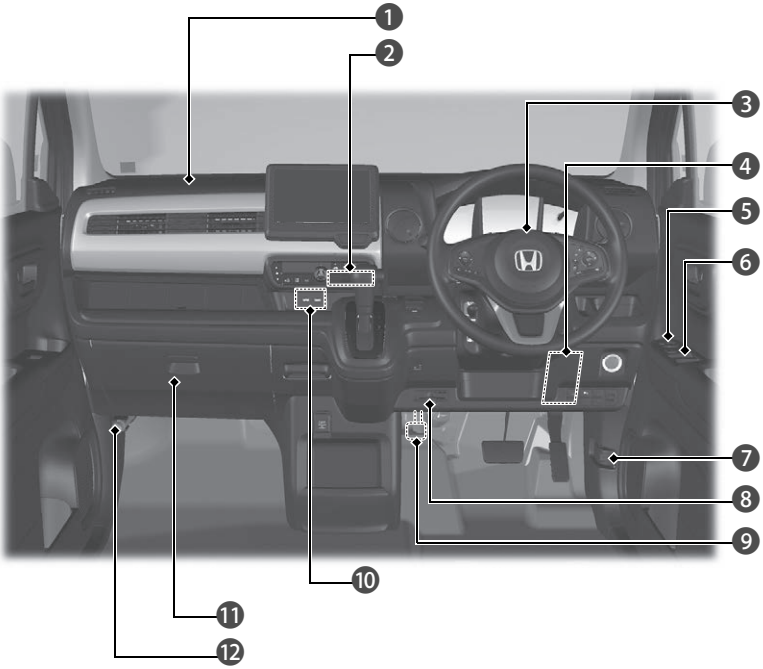
参照ページの記載がない装備については詳細取扱説明書(HTML 版)を参照してください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。



❶ セレクトレバー (P. 122)
❷ ECON スイッチ (P. 127)
❸ ワイパー/ ウォッシャースイッチ (P. 98)
❹ シフトスイッチ(シフトダウン)* (P. 125)
❺ ノブ* (P. 75, P. 100)
❻ TRIP/CLOCK ノブ* (P. 73, P. 79)
❼ ライト / 方向指示器(ウィンカー) スイッチ (P. 92)
❽ フォグライトスイッチ* (P. 93)
❾ シフトスイッチ(シフトアップ)* (P. 125)
❿ インフォメーション(i)スイッチ (▲ / ▼) (P. 74)
⓫ TRIP スイッチ (P. 75)
⓬ ディスタンススイッチ* (P. 156)
⓭ ENGINE START/STOP スイッチ (P. 91)
⓮ (LKAS)スイッチ* (P. 163)
⓯ MAIN スイッチ* (P. 148)
⓰ ホーンスイッチ (周辺)
⓱ ハンドル位置調節レバー (P. 100)
⓲ パーキングブレーキスイッチ* (P. 181)
⓳ オートマチックブレーキホールドスイッチ* (P. 186)

参照ページの記載がない装備については詳細取扱説明書(HTML 版)を参照してください。
この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

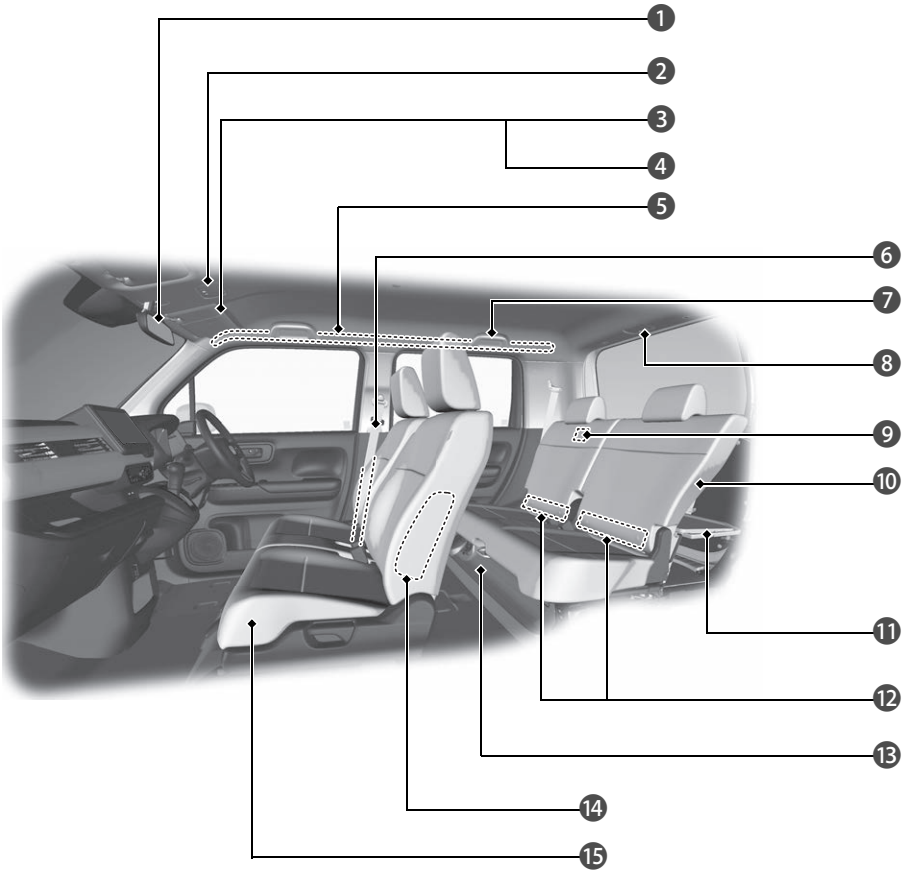


1. SRS エアバッグシステム(助手席用) (P. 19)
2. シートヒータースイッチ* (P. 113)
3. SRS エアバッグシステム(運転席用) (P. 19)
4. 室内のヒューズボックス (P. 243)
5. ドアミラー調節スイッチ (P. 101)
6. パワーウィンドースイッチ (P. 89)
7. ボンネット解除ノブ (P. 203)
8. ETC 車載器*※
9. パーキングブレーキ* (P. 184)
10. USB ジャック(充電専用)* (P. 116)
11. グローブボックス (P. 110)
12. 発炎筒 (P. 220)

※:ETC 車載器については、別冊の取扱説明書を参照してください。

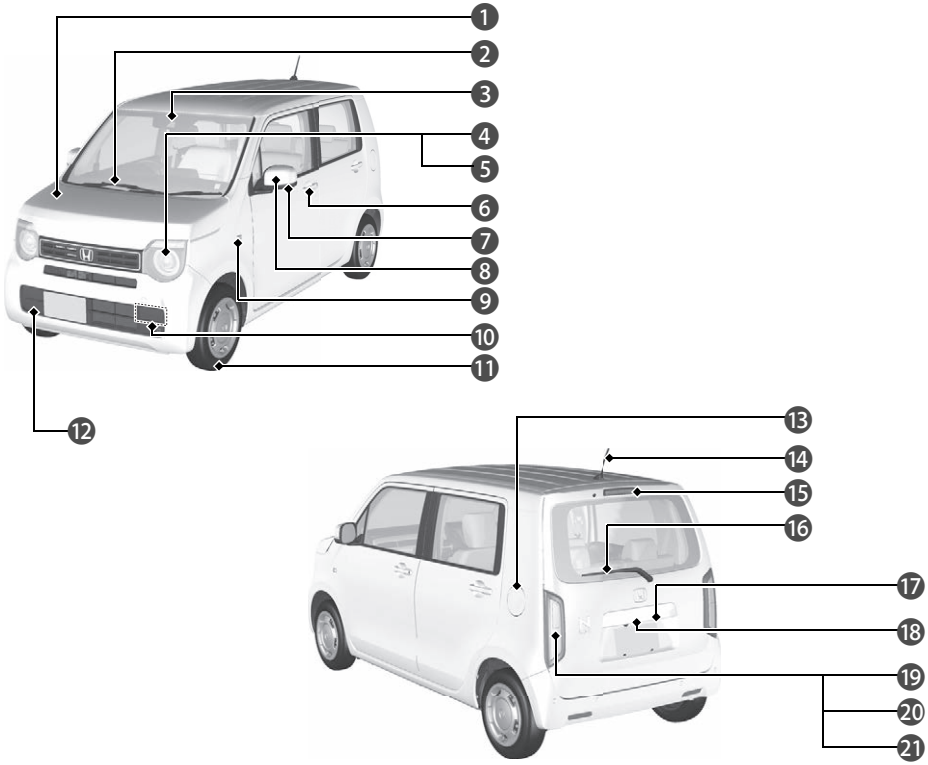
参照ページの記載がない装備については詳細取扱説明書(HTML 版)を参照してください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。



1. ルームミラー (P. 101)
2. 室内灯 (P. 110)
3. サンバイザー
4. バニティミラー
5. サイドカーテンエアバッグシステム (P. 24)
6. シートベルト (P. 13)
7. グラブレール
8. 室内灯 (P. 110)
9. コンビニフック (P. 113)
10. リヤシート (P. 104)
11. フロアボード (P. 111)
12. ISOFIX/i-Size 取付装置 (P. 35)
13. リヤシートアンダートレイ (P. 110)
14. サイドエアバッグシステム (P. 22)
15. フロントシート (P. 102)

参照ページの記載がない装備については詳細取扱説明書(HTML 版)を参照してください。



1. エンジンルーム内のメンテナンス (P. 202)
2. ワイパー (P. 98, P. 211)
3. フロントセンサーカメラ* (P. 178)
4. ヘッドライト (P. 93, P. 206)
5. ウィンカー (P. 207)
6. ドアの施錠 / 解錠 (P. 80)
7. ウィンカー* (P. 208)
8. ドアミラー (P. 101)
9. ウィンカー* (P. 208)
10. フォグライト* (P. 93, P. 208)
11. タイヤ (P. 214, P. 221)
12. レーダーセンサー* (P. 179)
13. 給油のしかた (P. 194)
14. マイクロアンテナ* (P. 116)
15. ハイマウントストップランプ (P. 210)
16. リヤワイパー (P. 99, P. 213)
17. テールゲートの開閉 (P. 86)
18. 番号灯 (P. 210)
19. 制動灯 / 尾灯 (P. 208)
20. ウィンカー (P. 209)
21. 後退灯 (P. 209)

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

目次

■はじめに …… 1
本書の構成 …… 1
検索のしかた …… 1
安全に関する表示 …… 2
その他の表示 …… 2
サービス診断記録装置について … 3
データの開示について …… 3
■安全なドライブ …… 12
安全なドライブのために …… 12
安全のための確認事項 …… 12
シートベルト …… 13
シートベルトについて …… 13
シートベルトの着用 …… 16
シートベルトの点検 …… 18
シートベルトのアンカーポイント …… 18
エアバッグ …… 19
エアバッグの種類 …… 19
SRS エアバッグ …… 19
サイドエアバッグ …… 22
サイドカーテンエアバッグ …… 24
エアバッグシステム警告灯 …… 26
エアバッグのお手入れ …… 27
お子さまの安全 …… 28
お子さまの安全を守るために … 28
乳幼児の安全 …… 29
大きなお子さまの安全 …… 38
排気ガスの危険性 …… 40
一酸化炭素について …… 40
■計器の見かた …… 41
警告灯と表示灯 …… 41
警告灯 …… 43
表示灯 …… 55
マルチインフォメーションディスプレイ* のメッセージ …… 59
メーターとインフォメーションディスプレイ …… 72
インフォメーションディスプレイ* …… 73
マルチインフォメーションディスプレイ* …… 74
エコアシストシステム …… 76
■各部の操作 …… 77
時刻の設定 …… 77
時計の時刻を合わせる …… 77
ドアの施錠と解錠 …… 80
キー …… 80
Honda スマートキーの微弱電波 …… 81
車外でのドアの施錠 / 解錠 …… 82
車内での施錠 / 解錠 …… 85
チャイルドプルーフ …… 85
テールゲート …… 86
テールゲート開閉時の注意 …… 86
セキュリティシステム …… 87
イモビライザーシステム …… 87
セキュリティアラームシステム …… 87
ウィンドーの開閉 …… 89
パワーウィンドーの開閉 …… 89
ハンドルまわりのスイッチ操作 … 91
ENGINE START/STOP スイッチ …… 91
ライトの使いかた …… 92
ヘッドライトレベリングダイヤル …… 93
オートハイビーム* …… 94
ワイパー / ウォッシャー …… 98
リヤデフロスター／ヒーテッドドアミラー* スイッチ …… 99
イルミネーションコントロール …… 100
ハンドルの調節 …… 100
ミラー類の調節 …… 101
ルームミラー …… 101
ドアミラー …… 101
シートの調節 …… 102
フロントシート …… 102
リヤシート …… 104
リフレッシュモード …… 106
ヘッドレスト …… 108
アームレスト …… 110
室内灯 …… 110

室内装備品 …… 110
エアコン …… 114
エアコンの吹き出し口 …… 114
オートエアコンの使いかた … 115
オートエアコンのセンサー … 115
■オーディオ …… 116
オーディオ装置 …… 116
USB ジャック* …… 116
マイクロアンテナ* …… 116
■運転 …… 117
運転の前に …… 117
運転の準備 …… 117
運転操作 …… 119
エンジンの始動 …… 119
走行時の注意点 …… 121
無段変速オートマチックについて …… 121
シフト操作 …… 122
アイドリングストップシステム …… 126
ECON スイッチ …… 127
VSA（ビークルスタビリティアシスト） …… 128
アジャイルハンドリングアシスト …… 129
4WD（四輪駆動機構）* …… 129
ホンダセンシング* …… 130
各機能を作動させるためのスイッチと表示 …… 131
衝突軽減ブレーキ（CMBS） …… 132
誤発進抑制機能 …… 138
後方誤発進抑制機能 …… 140
歩行者事故低減ステアリング …… 142
渋滞追従機能付 ACC（アダプティブクルーズコントロール） …… 147
LKAS（車線維持支援システム） …… 161
路外逸脱抑制機能 …… 167
先行車発進お知らせ機能 …… 172
標識認識機能 …… 174
フロントセンサーカメラ …… 178
レーダーセンサー …… 179
ソナーセンサー …… 180
ブレーキ操作 …… 181
ブレーキシステム …… 181
ABS（アンチロックブレーキシステム） …… 189
電子制御ブレーキアシスト … 189
エマージェンシーストップシグナル …… 190
駐停車操作 …… 191
駐車する …… 191
パーキングセンサーシステム* …… 192
給油 …… 194
給油のしかた …… 194
ターボ車* について …… 197
取り扱い …… 197
■メンテナンス …… 198
メンテナンスの前に …… 198
点検整備について …… 198
メンテナンスを安全に行うために …… 199
オイルメンテナンス表示* …… 200
オイルメンテナンス情報の表示 …… 200
エンジンルーム内のメンテナンス …… 202
エンジンルーム内のメンテナンス項目 …… 202
ボンネットを開ける …… 203
推奨エンジンオイル …… 204
ウィンドウォッシャー液の補給 …… 205
電球の交換 …… 206
ヘッドライト電球 …… 206
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯電球 …… 207
車幅灯電球 …… 207
フォグライト電球* …… 208

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯電球 …… 208
制動灯 / 尾灯電球 …… 208
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯電球、後退灯電球 … 209
ハイマウントストップランプ電球 …… 210
番号灯電球 …… 210
ワイパーブレードラバーの点検と整備 …… 211
ワイパーブレードラバーの点検 …… 211
フロントワイパーブレードラバーの交換 …… 211
リヤワイパーブレードラバーの交換 …… 213
タイヤの点検と整備 …… 214
タイヤの点検 …… 214
タイヤとホイールの交換 …… 215
タイヤのローテーション …… 216
冬期のタイヤ …… 217
Honda スマートキーの取り扱いと電池交換 …… 217
清掃 …… 218
アクセサリーと改造 …… 219
アクセサリー …… 219
改造や部品交換について …… 219
■万一の場合には …… 220
発炎筒 …… 220
パンクしたとき …… 221
パンクしたタイヤの応急修理 …… 221
ジャッキの取り扱い …… 230
ジャッキのかけかた …… 230
エンジンが始動しない …… 232
エンジンの状態の確認 …… 232
Honda スマートキーの電池が切れたとき …… 233
緊急時のエンジン停止方法 … 234
ジャンプスタート …… 235
ジャンプスタートの方法 …… 235
セレクトレバーが動かない …… 238
オーバーヒート …… 239
オーバーヒートしたときの対処方法 …… 239
ヒューズ …… 241
ヒューズの設置場所 …… 241
ヒューズの点検と交換 …… 245
けん引 …… 246
非常時のけん引 …… 246
フューエルリッドが解錠できないとき …… 249
テールゲートが開かないとき … 250
■こんなときは …… 251
■仕様 …… 254
N-WGN …… 254
N-WGN Custom …… 256
■索引 …… 258

1 安全なドライブ

この章には、安全運転のために必要な重要情報が記載されています。
運転を始める前によくお読みいただき、運転者と同乗者の安全を確保してください。

安全なドライブのために

安全のための確認事項

安全なドライブのために、走行前に下記の項目を確認してください。

- 乗員全員が正しくシートベルトを着用しているか？
  ▶ 運転者と乗員が正しくシートベルトを着用していることを確認してください。
  ➔ **シートベルトの着用** P.16
- お子さまの安全を守るために、チャイルドシートやシートベルトを着用しているか？
  ▶ お子さまが同乗する場合は、お子さまの年齢や身長・体重に応じてチャイルドシートやシートベルトなどで安全を確保するようにしてください。
  ➔ **お子さまの安全** P.28
- 車から離れるときは、お子さまや介護を必要とされる方、ペットを車内に残していないか？
  ▶ 炎天下などでは車内が高温になることがあります。車内にお子さまや介護を必要とされる方、ペットを残したままにしないようにしてください。

シートベルト

シートベルトについて

シートベルトは、シートに体を固定することで安全を確保するための安全装置です。

■三点式シートベルト

体の動きに合わせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。
すべての席に三点式シートベルトが装備されています。

■シートベルトの着用

シートベルトの着用にあたっては、以下の点に注意してください。

- 運転者は正しい運転姿勢で、シートベルトを必ず着用
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用
- 1 本のシートベルトを 2 人以上で使用しない
- ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけない

⚠警告

シートベルトは乗員全員が必ず正しく着用する。
シートベルトを正しく着用しないと、エアバッグが装備されていても、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

乗車中は正しい姿勢を保つ。
正しい姿勢ですわらないと、衝突したときに傷害を受ける危険性が高くなります。

シートベルトを着用した状態で事故にあったときは、Honda 販売店で点検を受け、ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

シートベルトがロックした場合、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ベルトをゆっくり引き出してください。

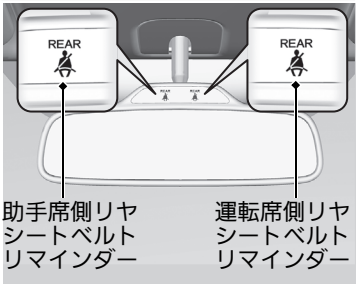
■ シートベルトリマインダー





■フロントシート

パワーモードを ON モードにしたときや走行したとき、運転席または助手席のシートベルトを着用するまでシートベルトリマインダーが作動し、ブザーと警告灯でお知らせします。
マルチインフォメーションディスプレイ* にも警告が表示されます。



■リヤシート

パワーモードをONモードにしたときや、パワーモードが ON モードのときに、後席ドアを開閉すると、リヤシートベルトを着用するまで警告灯がルームミラーに点灯します。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ シートベルトプリテンショナー

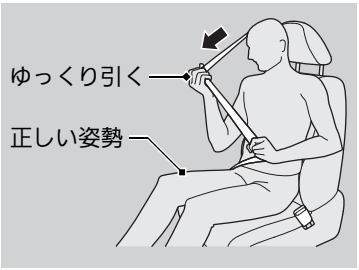
フロントシートおよびリヤシートにはシートベルトプリテンショナーを装備しています。シートベルトプリテンショナーは、一定以上の前方向や側面からの衝撃を受けると自動的にシートベルトを引き込み、拘束します。

⚠注意

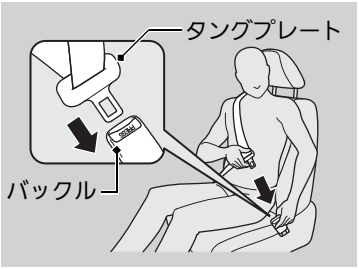
シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしない。
誤作動や故障の原因となります。

シートベルトプリテンショナーは、一度作動すると使用できません。
衝突によりシートベルトプリテンショナーが作動するとエアバッグシステム警告灯が点灯します。
衝突したときは、Honda 販売店で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

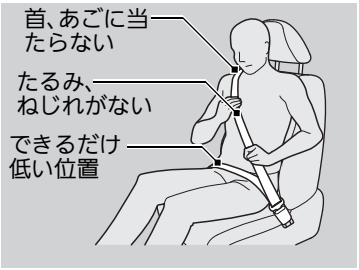
シートベルトの着用



1. 正しい姿勢でシートにすわる。
2. シートベルトをゆっくり引き出す。



3. タングプレートをバックルに差し込む。
   ▶ このとき、ベルトにねじれや引っかかりがないようにしてください。



4. シートベルトが正しく着用できているか確認する。
   ▶ 肩ベルトは鎖骨の中心を通るように合わせ、首やあごに当たらないようにしてください。
   ▶ 腰ベルトは腰骨のできるだけ低い位置に合わせてください。
   ▶ ベルトにたるみやねじれがないようにしてください。
5. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

⚠警告

シートベルト着用時にアームレストに引っかけない。
万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠注意

肩ベルトは腕の下に通したり、首の後ろに回さない。
シートベルトを正しく着用しないと、本来の機能を果たさず衝突時などに、けがをするおそれがあります。

ベルトがくび、あご、顔などに当たらないように着用してください。

シートベルトを外すには、バックルの赤色の PRESS を押してください。
そのとき、ベルトが完全に収納されるようベルトに手を添えてください。

シートベルトを十分に機能させるため、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。

シートベルトの分解、改造はしないでください。正常に作動しないおそれがあります。

■ 妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

妊娠中のかたが運転または同乗するときは、ご自身と赤ちゃんを守るために、常に三点式シートベルトを着用してください。



⚠注意

妊娠中のシートベルト着用は、医師に確認する。
万一のとき、腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがあります。

妊娠中のかたは以下の点を注意してください。万一の衝突時にフロントエアバッグによって、ご自身と赤ちゃんが傷害を受ける危険性が軽減されます。

- 運転するときは上体を起こして、運転に支障のない範囲でシートをなるべく後ろに下げる
- 助手席にすわる場合も、シートはできるだけ後ろに下げる

シートベルトの点検

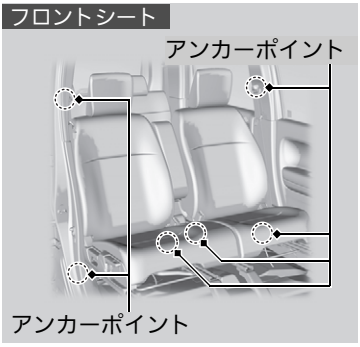
シートベルトを安全にお使いいただくために、定期的な点検を行ってください。
点検の確認ポイントは下記のとおりです。

- すべてのベルトをいっぱいまで引き出し、ほつれ、破れ、焼けこげ、すり切れがないか？
- バックルが確実に固定されるか？
- ベルトがスムーズに巻き取られるか？

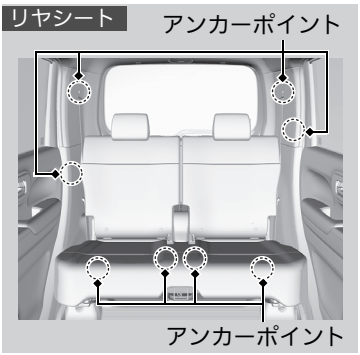
ベルトがスムーズに巻き取られない場合、ベルトが汚れていないことを確認してください。
ベルトが汚れているとスムーズに巻き取られない場合があります。まず、ベルトに汚れがないか確認してください。汚れを落とすと動きが元に戻ることがあります。

ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

シートベルトのアンカーポイント



シートベルトを交換する場合、図の中で示されるアンカーポイントを使用してください。
フロントシートには三点式シートベルトが使われています。



リヤシートには三点式シートベルトが使われています。

エアバッグ

エアバッグの種類

- **SRS エアバッグ:** フロントシートの前方向エアバッグ
- **サイドエアバッグ:** フロントシートの横方向エアバッグ
- **サイドカーテンエアバッグ:** 窓側の天井部両側についたエアバッグ

⚠警告

エアバッグ装備車でもシートベルトは必ず使用する。
エアバッグは、衝撃を緩和するためのシステムで、シートベルトの補助拘束具です。エアバッグ装備車であっても、必ず正しくシートベルトを着用してください。シートベルトを着用しないと、衝突時にエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

⚠注意

エアバッグが膨らんだ直後は、構成部品に触れない。
エアバッグの構成部品が熱くなっているため、やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

エアバッグは非常に速い速度で膨らみます。
エアバッグとの接触により、すり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

SRS エアバッグ

運転席と助手席についています。前方向からの衝突により、SRS エアバッグが膨らんで運転者と助手席の同乗者の頭と胸部への衝撃を緩和します。

SRS: サプリメンタルレストレイントシステム（Supplemental Restraint System）の略で、シートベルトの補助拘束の意味。

■ 格納場所

運転席側はハンドルの中央、助手席側はダッシュボードに SRS エアバッグが格納されています。どちらも「SRS AIRBAG」と表示されています。

■ 作動のしくみ

SRSエアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で前方向から衝突したときです。このとき、センサーが衝突による急激な減速を検知し、コントロールユニットのはたらきにより運転席と助手席の SRS エアバッグが膨らみます。

■SRS エアバッグの作動

前方向から衝突すると、シートベルトが乗員の下半身と胴体を拘束し、SRSエアバッグが頭と胸部を保護します。

運転者の視界を妨げたり、ハンドル操作の邪魔にならないように、SRSエアバッグは膨らんだあとすぐにしぼみます。

SRS エアバッグは、次のような場合に作動します。
- 20～30km/h以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に真正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき
- 車両の前方左右約 30 度以内の方向から強い衝撃を受けたとき

衝撃を吸収できるもの(車やガードレールのように変形するもの)に衝突した場合、作動するときの車速は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、SRS エアバッグが作動することがあります。
- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、SRS エアバッグが作動しないことがあります。
- 電柱、立ち木などへの衝突
- トラックなどへの潜り込み
- 部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小と SRS エアバッグの作動は必ずしも一致しません。

シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。
- 横方向からの衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、SRS エアバッグが作動することがあります。

⚠警告

インストルメントパネルに手をついたり頭や胸を近づけた状態で乗車しない。
SRS エアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

ハンドルやインストルメントパネル上面に、ステッカーを貼ったり、ものを置いたりしない。
SRS エアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだときに置いたものが飛んで運転者や同乗者がけがをする原因になります。

⚠注意

SRS エアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

車体が衝撃を十分に吸収できた場合、システムは作動しません。

サイドエアバッグ

側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、運転者と助手席の同乗者の胸部への衝撃を緩和します。

⚠注意

ドアやその周辺にアクセサリーなどを取り付けたり、ものを置いたりしない。
正常に作動しなかったり、作動時にこれらのものが飛ぶことがあります。

サイドエアバッグ収納部に衝撃や無理な力を加えない。

サイドエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。
サイドエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

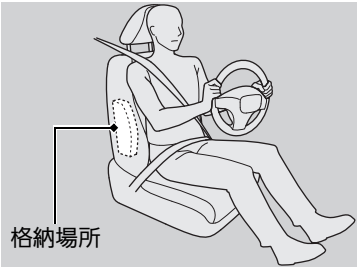
サイドエアバッグがシートカバーによっては、正常に機能できなくなります。
フロントシートへのシートカバー装着にあたっては Honda 販売店にご相談ください。

⚠注意

ドアに寄りかからない。
サイドエアバッグの格納部に手や顔を必要以上に近づけない。
後席の同乗者は、フロントシートの背もたれを抱えない。
サイドエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け傷害を受けるおそれがあります。

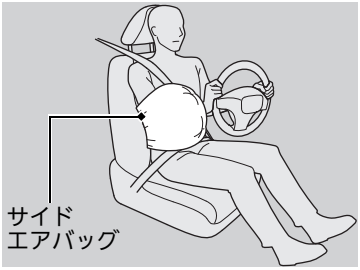
サイドエアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

■ 格納場所



運転席、助手席ともにシートの背もたれ外側に格納されています。
どちらも「SIDE AIRBAG」と表示されています。

■ 作動のしくみ



センサーが一定以上の衝撃で側面方向から衝突を検知し、コントロールユニットのはたらきにより検知した側のサイドエアバッグが膨らみます。

■作動条件

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、サイドエアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、サイドエアバッグが作動しないことがあります。

- 乗員付近以外の側面への衝突

サイドエアバッグは乗員の受ける衝撃の大きさによって作動するようになっていますので、車両の損傷状態の大小とサイドエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

- 正面衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、サイドエアバッグが作動することがあります。

サイドカーテンエアバッグ

窓側の天井部にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、乗員の頭部への衝撃を緩和します。

⚠注意

サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりすることがあるので、以下のことに注意する。

- フロントガラス、ドアガラス、フロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーなどを取り付けない
- グラブレールにものをかけない

サイドカーテンエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。

サイドカーテンエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

⚠注意

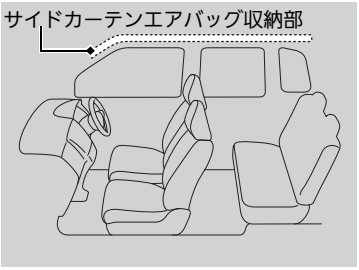
サイドカーテンエアバッグ収納部に衝撃を加えない。

収納部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、Honda 販売店で交換してください。

サイドカーテンエアバッグの分解、取り外しはしない。

不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

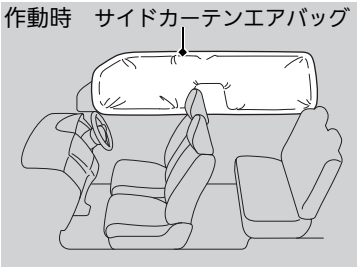
■ 格納場所



運転席側、助手席側ともに窓側の天井部に格納されています。

どちらも「SIDE CURTAIN AIRBAG」と表示されています。

■ 作動のしくみ



サイドカーテンエアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で側面方向から衝突したときです。運転席側または助手席側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

■作動条件

サイドカーテンエアバッグの作動条件は、サイドエアバッグと同じ条件です。

➔ **作動条件** P.23

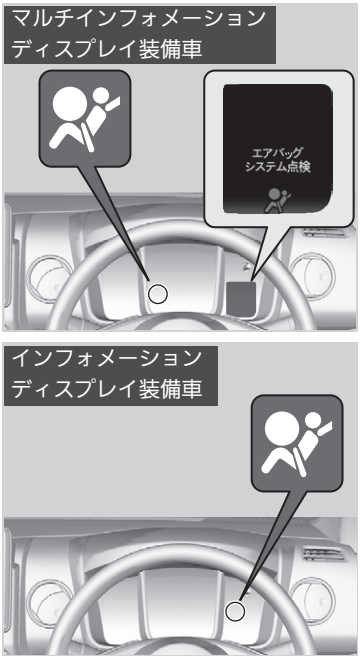
■前方向から衝突したときの作動

前方向からの衝突時、横方向に一定以上の力がかかると、SRS エアバッグが膨らんだあと必要な側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

エアバッグシステム警告灯

エアバッグやシートベルトプリテンショナーの異常などを、警告灯やマルチインフォメーションディスプレイ* で知らせます。

■ エアバッグシステム警告灯



■パワーモードを ON モードにしたとき

パワーモードをONモードにすると、エアバッグシステム警告灯が数秒間点灯し、消灯すれば正常です。

⚠警告

エアバッグシステム警告灯を無視しない。

エアバッグシステム警告灯を無視すると、エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが正しく機能せず、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。エアバッグシステム警告灯が点灯する場合は、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

エアバッグシステム警告灯が点灯状態のときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

パワーモードをONモードにしたときにエアバッグシステム警告灯が点灯しない場合も、エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常がある可能性があります。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

エアバッグのお手入れ

エアバッグシステムは、メンテナンスを必要とせず、部品交換の必要もありません。ただし、以下の場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

■エアバッグが作動し、膨らんだとき

一度作動したエアバッグは、コントロールユニットやその他の関連部品とともに必ず交換する必要があります。
また、シートベルトプリテンショナーも同様に、一度作動した場合は新品と交換する必要があります。

エアバッグ関連部品の再利用はしないでください。

お子さまの安全を守るために

お子さまが乗車するときは、下記の注意点を確認し、お子さまの安全を確保してください。

- お子さまはリヤシートに乗せる
  ▶ お子さまを助手席に乗せると、不意の動作が気になったり、スイッチ類をいたずらしたりするなど運転の妨げになるおそれがあります。
  また、SRS エアバッグが膨らむ際、強い衝撃があります。
- お子さまにも必ずシートベルトを着用させる
  ▶ お子さまを抱えたり、ひざの上に乗せないでください。衝突したときに支えることができません。正しい着用方法でお子さまにもシートベルトをしてください。
- 乳幼児にはチャイルドシートを使用する
  ▶ 乳幼児を乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用します。
- 車外に手や顔、ものを出さない
  ▶ 走行中や一時停止時などに、お子さまが車外に手や顔、ものなどを出さないようにしてください。思わぬ障害物により事故のおそれがあります。
- ドア、ウィンドー、シートなどの操作は必ず大人が行う
  ▶ 思わぬけがの原因となりますので、お子さまにはドア、ウィンドー、シートなどの操作をさせないでください。
- 車を離れるときは、お子さまを連れて出る
  ▶ お子さまだけを車内に残さないでください。特に、炎天下の車内は高温になります。また、お子さまのいたずらにより、車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠警告

チャイルドシートは後席に設置する。
助手席に設置すると SRS エアバッグが作動したときの衝撃で、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。

⚠警告



シート前方の作動可能なエアバッグで保護されたシートには、後ろ向きチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。
お子さまが死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。

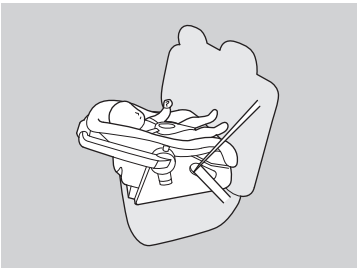
お子さまを助手席に乗せることをおすすめしない理由は下記の通りです。

- お子さまが助手席のシートに正しく乗車できないと、SRS エアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある
- お子さまの体の一部がサイドエアバッグの作動範囲に入ると、サイドエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある

乳幼児の安全

■ 乳児のチャイルドシート

首のすわっていない乳児は、乳児用のチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■後ろ向きのチャイルドシートの設置場所

リヤシートに設置することができます。

▶ 推奨するのは、助手席の真後ろの席への設置です。その場合、助手席には人を乗せず助手席のシートをできるだけ前に出してください。

▶ 設置したチャイルドシートとフロントシートが接触していないことを確認してください。

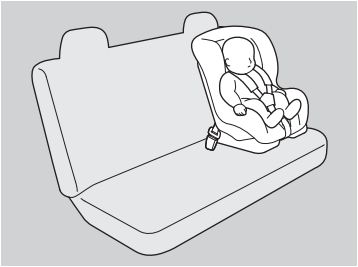
⚠警告

後ろ向きのチャイルドシートを前向きにして使わない。
前向きにして使うと前方から衝突したときに、乳児が重大な傷害を負うおそれがあります。

後ろ向きのチャイルドシートは助手席に設置しない。
助手席の SRS エアバッグが膨らんだときに、チャイルドシートの背面にエアバッグが当たり、乳児が重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

■ 幼児のチャイルドシート

チャイルドシートメーカーが指定する範囲内の幼児は、前向きのチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■前向きのチャイルドシートの設置場所

リヤシートへの設置を推奨します。

⚠警告

助手席に前向きのチャイルドシートを設置しない。

助手席に前向きのチャイルドシートを設置すると、助手席のシートが前に出すぎていたり、衝突したときに幼児の頭が前に投げ出されると SRS エアバッグで強い衝撃を受けるため、重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

やむをえず助手席に前向きのチャイルドシートを設置する場合は、助手席のシートをできるだけ後ろに下げて設置してください。

■ チャイルドシートの選びかた

チャイルドシートを購入するときは、シートベルト固定タイプチャイルドシートまたはISOFIX/i-Size チャイルドシートをお選びください。
シートベルト固定タイプチャイルドシートは、シートベルトを用いて座席に固定します。ISOFIX/i-Sizeチャイルドシートは、リヤシートに付属している下部取付金具とトップテザー取付金具またはサポートレッグで固定するため取り付けが簡単です。

■チャイルドシート選択の条件

チャイルドシートが適切な保護効果を発揮するためには、以下の 3 つの条件を満たしている必要があります。

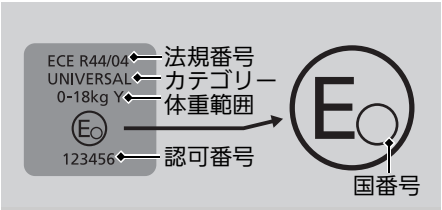
- チャイルドシートが一覧表に案内されているお子さまに合ったタイプとサイズであること
- チャイルドシートが取り付ける車の座席にあったものであること
- チャイルドシートが安全基準に適合したものであること
  UN R44/R129 に適合したチャイルドシートをお勧めします。

■チャイルドシートの規格

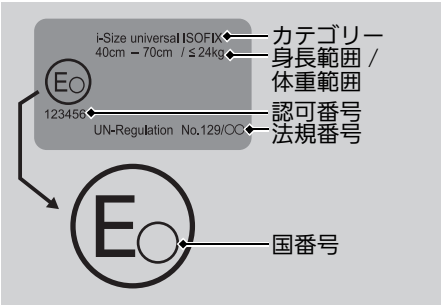
UN基準の認可を受けたシートベルト固定タイプチャイルドシートまたはISOFIX/i-Sizeチャイルドシートには、認可マークが表示されています。チャイルドシートについている認可マークを確認してください。

Honda 純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際しては Honda 販売店にご相談ください。

UN R44 認可表示(例)



UN R129 認可表示(例)



■ シート位置別チャイルドシート情報



U	車両のシートベルトで固定するタイプの汎用（ユニバーサル）チャイルドシートに適している
UF	車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取り付ける汎用（ユニバーサル）チャイルドシートに適している
i-Size	i-Size および ISOFIX チャイルドシートに適している
	前向きチャイルドシートのみに適している
	後ろ向きのチャイルドシート取り付け禁止
	トップテザー取付金具を装備している座席

※1: 汎用（ユニバーサル）チャイルドシートを取り付ける場合、シートスライドを最も後ろの位置に調節すること。

サポートレッグ付きのチャイルドシートは、i-Size チャイルドシートが搭載可能では無い着座位置にも取り付けることができます。

シート位置番号	シートの位置		
	❶	❷	❸
	助手席※1	後席（左側）※1	後席（右側）※1
ベルト固定の汎用（ユニバーサル）チャイルドシートが搭載可能な着座位置（有 / 無）	有 前向き搭載のみ	有	有
i-Size チャイルドシートが搭載可能な着座位置（有 / 無）	無	有	有
推奨チャイルドシートが搭載可能な着座位置（有 / 無）	有 前向き搭載のみ	有	有
搭載可能な横向きチャイルドシート固定具（L1/L2）	無	無	無
搭載可能な最大後ろ向きチャイルドシート固定具（R1/R2X/R2/R3）	無	R3	R3
搭載可能な最大の前向きチャイルドシート固定具（F2X/F2/F3）	無	F3	F3
搭載可能な最大の前向きジュニアシート固定具（B2/B3）	B3	B3	B3

※1：汎用（ユニバーサル）チャイルドシートを取り付ける場合、シートスライドを最も後ろの位置に調節すること。

サポートレッグ付きのチャイルドシートは、i-Sizeチャイルドシートが搭載可能では無い着座位置にも取り付けることができます。

⚠警告

シートベルトは必ず正しく着用する

シートベルトを正しく着用しないと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

チャイルドシートをご購入する際は、ISOFIX サイズ等級に一致したものをお選びください。

固定具	お子さまの大きさ	使用の向き	形状、大きさ
ISO/L1	乳児	左	寝台式
ISO/L2	乳児	右	寝台式
ISO/R1	乳児	後ろ	—
ISO/R2	幼児	後ろ	小型
ISO/R2X	幼児	後ろ	小型
ISO/R3	幼児	後ろ	大型
ISO/F2	幼児	前	低型
ISO/F2X	幼児	前	低型
ISO/F3	幼児	前	全高
ISO/B2	学童	前	狭幅
ISO/B3	学童	前	全幅

■ 推奨チャイルドシート

UN R44 適合チャイルドシート

質量グループ	チャイルドシート	カテゴリー
0 10kg 未満 (0 ～ 9ヶ月)	Honda ISOFIX Neo	準汎用 ISOFIX(後向き)
	スタンダード	汎用シートベルト固定(後向き)
0 + 13kg 未満 (0 ～ 2 歳)	Honda ISOFIX Neo	準汎用 ISOFIX(後向き)
	スタンダード	汎用シートベルト固定(後向き)
I 9 ～ 18kg (9ヶ月～ 4 歳)	Honda ISOFIX Neo	準汎用 ISOFIX(前向き)
	スタンダード	汎用シートベルト固定(前向き)
II、III 15 ～ 36kg (4 ～ 12 歳)	Honda ジュニアシート	汎用シートベルト固定

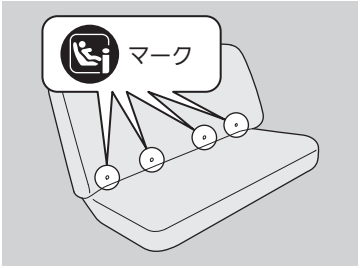
UN R129 適合チャイルドシート

適用範囲	チャイルドシート	カテゴリー
身長 100cm 以下	Honda Baby & Kids i-Size	i-Size ISOFIX (後向き)
身長 71cm 以上かつ月齢 15ヶ月以上～身長 100cm 以下		i-Size ISOFIX (前向き)

推奨チャイルドシートのご購入は Honda 販売店にご相談ください。

■ISOFIX/i-Size チャイルドシートの取り付け

ISOFIX/i-Sizeチャイルドシートは、リヤシートに設置できます。チャイルドシートは、下部取付金具とトップテザー取付金具で固定します。



1. マークの下にあるシートの切れ目から下部取付金具を確認する。
2. リヤシートの背もたれが、手前の位置になっていることを確認する。

➔ **背もたれの調節** P.104



3. チャイルドシートを座席に置き、チャイルドシートの取扱説明書にしたがって下部取付金具に取り付ける。
   ▶ 取り付けの際に、異物やシートベルトなどが下部取付金具にかみ込まないようにしてください。



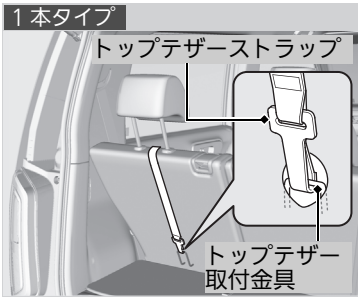
トップテザーストラップ付きチャイルドシート

4. ヘッドレストを調節して最上段で固定する。トップテザーストラップが 1 本タイプの場合はストラップをヘッドレストの下に通し、2本タイプの場合はヘッドレストの外側に通す。
   ▶ このときトップテザーストラップがねじれないように注意してください。

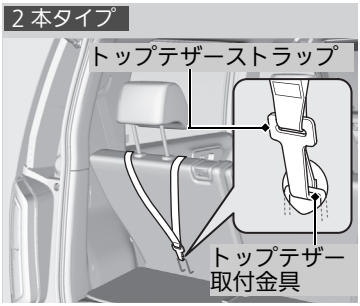
⚠注意

トップテザー取付金具シンボルが無いフックに、トップテザーストラップを使用しないでください。

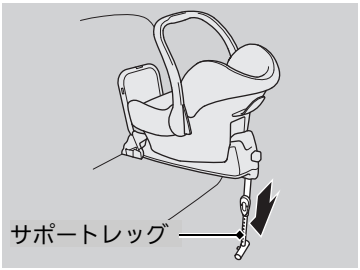
1 本タイプ



2 本タイプ



5. トップテザーストラップをトップテザー取付金具に引っかけ、ストラップを締める。
6. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。



サポートレッグ付きチャイルドシート

4. サポートレッグをチャイルドシートの取扱説明書にしたがってフロアにつくまで伸ばす。
   ▶ サポートレッグを設置するフロア面は水平な面であることを確認してください。
   シートの前後位置によっては、サポートレッグの設置フロア面が水平ではなく安定しない場合があります。その場合は、シート前後位置を調整してください。
   ▶ スライドレールやカバーにサポートレッグが設置しないことを確認してください。
   ▶ 設置したチャイルドシートとフロントシートが接触していないことを確認してください。

⚠注意

下部取付金具周辺に、異物やシートベルトのかみ込みがないか確認する。
異物やシートベルトをかみ込むとチャイルドシートが確実に固定されず、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

リヤシートが確実に固定されているか確認する。
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにシートといっしょにチャイルドシートが動き、傷害を受けるおそれがあります。

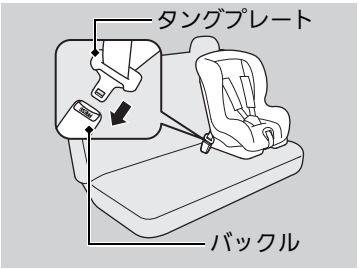
ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。

チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。

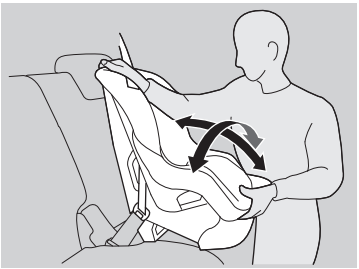
⚠注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

■ シートベルトでの取り付け



1. チャイルドシートを座席に置く。
2. シートベルトをチャイルドシートに通し、タングプレートをバックルに差し込む。
   ▶ このとき、バックルが「カチッ」という音がするまできちんと差し込んでください。



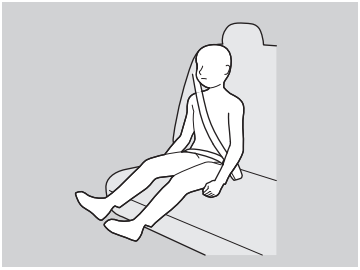
3. チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り付ける。
4. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

⚠注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

大きなお子さまの安全

幼児用のチャイルドシートの使用条件を超えるお子さまは、リヤシートに乗せて三点式シートベルトを着用させてください。お子さまをシートに深くすわらせ、以下の確認項目でひとつでも適合しない場合、ジュニアシートの使用が必要です。



■確認項目

- お子さまのひざがシートの前端で無理なく曲がっているか？
- 肩ベルトがお子さまの首と腕の間にかかっているか？
- 腰ベルトが低い位置にあり、お子さまの太ももに触れているか？
- 乗車中、無理なくすわっていられるか？

⚠警告

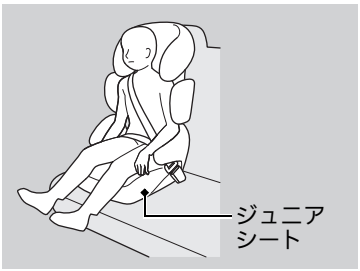
お子さまは助手席に乗せない。

お子さまを助手席に乗せると、SRS エアバッグが膨らんだときに、重大な傷害を負うおそれがあります。

やむをえず、助手席にお子さまを乗せる場合は、できるだけシートを後方に下げ、必要ならばジュニアシートを使用し、適切にシートベルトを着用してすわらせてください。

やむをえずお子さまを助手席に乗せる場合は、次ページの注意事項を厳守してください。

■ ジュニアシートについて



三点式シートベルトを使用できず、ジュニアシートを用いる必要があるお子さまは、ジュニアシートをリヤシートに設置して使用してください。

安全のため、お子さまがジュニアシートの使用に適した範囲に入っているか確認してください。

■ やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合

正しい姿勢ですわる、走行中にシートベルトを着用するなどの規則をお子さまが守ることができ、お子さまを助手席に乗せても安全と判断した場合、下記の項目を守ってお子さまを乗車させてください。

- 取扱説明書をよく読み、シートベルトに関する指示と安全に関して十分に理解する
- 助手席を一番後ろまで下げる
- 上体を起こし、シートに深く腰かけるように指示する
- お子さまのシートベルトが正しい位置で、しっかり固定されているか確認する

排気ガスの危険性

一酸化炭素について

車の排気ガスには一酸化炭素が含まれています。車をきちんと保守していれば、一酸化炭素が車内に入ることはありません。
以下の場合は、排気ガスのもれがないか Honda 販売店で点検を受けてください。

■点検が必要な場合

- 排気音に異常を感じたとき
- 車が衝突し、排気システムが損傷した可能性があるとき

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

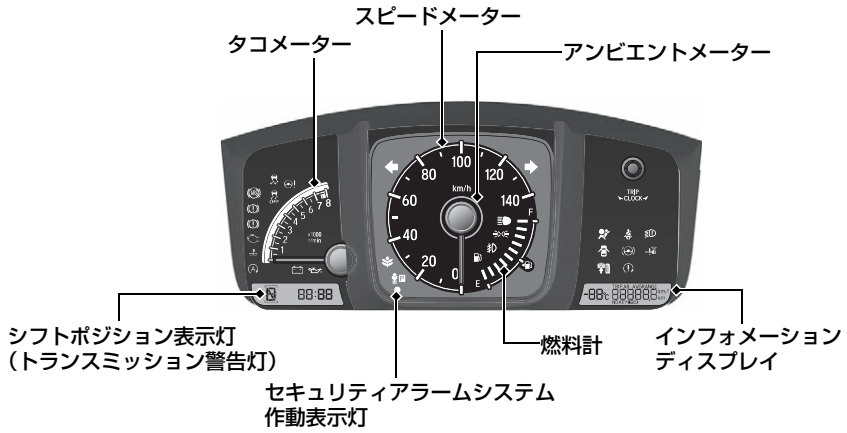
ガレージなどの密閉された場所は、一酸化炭素が急に充満するおそれがあります。
ガレージのドアを閉めたままエンジンを始動しないでください。ドアが開いている場合でも、ガレージから車を出す直前にエンジンを始動してください。

この章では、運転中に使用するスイッチや警告灯・表示灯、メーター類に関する情報を記載しています。

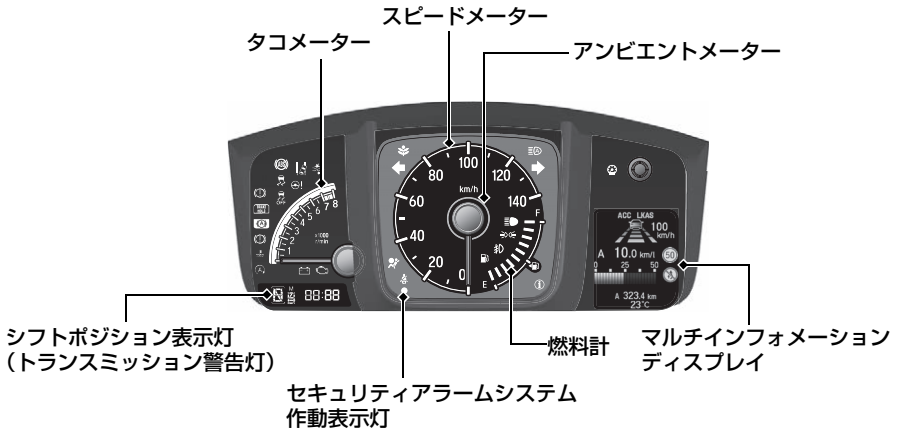
警告灯と表示灯

警告灯 (P. 43)/ 表示灯 (P. 55)/ メーター (P. 72)/ インフォメーションディスプレイ* (P. 73)/ マルチインフォメーションディスプレイ* (P. 74)

インフォメーションディスプレイ装備車



マルチインフォメーションディスプレイ装備車



この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

	ブレーキ警告灯(レッド)	P.43
	ブレーキシステム警告灯(オレンジ)	P.44
	油圧警告灯*	P.45
	PGM-FI 警告灯	P.46
	充電警告灯	P.46
	トランスミッション警告灯	P.46
	シートベルト非着用警告灯	P.47
	リヤシートベルト非着用警告灯	P.47
	Honda スマートキーシステム警告灯*	P.47
	燃料残量警告灯	P.48
	ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯	P.48
	エアバッグシステム警告灯	P.48
	VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯	P.49
	VSA OFF 警告灯	P.49
	CMBS(衝突軽減ブレーキ)警告灯*	P.50
	ドア / テールゲート開閉警告灯*	P.52
	EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯	P.52
	シフトポジション P 移動警告灯*	P.52
	Honda スマートキー電池消耗警告灯*	P.52
	Honda スマートキー持ち去り警告灯*	P.52
	オートライトコントロール警告灯*	P.53
	スターティングシステム警告灯*	P.53
	路外逸脱抑制機能警告灯*	P.53
	方向指示器表示灯 / 非常点滅表示灯	P.55
	ハイビーム表示灯	P.55
	ライト点灯表示灯	P.55
	フォグライト点灯表示灯*	
	インフォメーション表示灯*	P.56
	シフトポジション表示灯	P.57
	シフトインジケーター/M(7 速マニュアルシフトモード)表示灯*	
	ブレーキ踏み込み不足表示灯*	P.57
	ハンドル操作表示灯*	P.58
	ECON 表示灯	
	オートハイビーム表示灯*	P.58
	オートマチックブレーキホールドシステム表示灯*	P.58
	オートマチックブレーキホールド表示灯*	P.58
	渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)警告灯*(オレンジ)	P.48
ACC	渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)表示灯*(グリーン)	P.57
LKAS	LKAS(車線維持支援システム)警告灯*(オレンジ)	P.48
LKAS	LKAS(車線維持支援システム)表示灯*(グリーン)	P.57
	高水温警告灯*(レッド)	P.49
	低水温表示灯(ブルー)	P.55
○	イモビライザーシステム表示灯	P.56
○	セキュリティアラームシステム作動表示灯	P.57
	アイドリングストップシステム警告灯(オレンジ)	P.52
	アイドリングストップ表示灯(グリーン)	P.57

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

警告灯

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ※1
	ブレーキ警告灯（レッド）	• パーキングブレーキをかけると点灯 • ブレーキフルード量が低下したときに点灯 • ブレーキシステムが異常のときに点灯 電子制御パーキングブレーキ装備車 • 電子制御パーキングブレーキが異常のときに点滅	• 走行中に点灯したりパーキングブレーキを解除しても点灯するときは、ブレーキフルードを点検し、下限より減っている場合はただちにHonda販売店で点検を受けてください。 • ブレーキペダルに抵抗がない場合は、ただちに安全な場所に車を停めてください。必要に応じて、ギヤを落とします。 • ABS警告灯と同時に点灯した場合も、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 電子制御パーキングブレーキシステム非装備車 • ブレーキシステム警告灯（オレンジ）と同時に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店で点検を受けてください。 電子制御パーキングブレーキ装備車 • ブレーキシステム警告灯（オレンジ）の点灯と同時に点滅した場合は、パーキングブレーキが作動しないことがあります。パーキングブレーキを使用せずに、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。 • パーキングブレーキが故障して作動しません。	  

※1: マルチインフォメーションディスプレイ装備車

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ※1
	ブレーキシステム警告灯（オレンジ）	• ブレーキに関係するシステムが異常のときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。	 
		電子制御パーキングブレーキ装備車 • 電子制御パーキングブレーキシステム、オートマチックブレーキホールドシステムが異常のときに点灯	• 点灯したときは、パーキングブレーキを使用せずに、ただちにHonda 販売店で点検を受けてください。 • ブレーキ警告灯（レッド）が同時に点灯または点滅し続けているときは、ただちに安全な場所に停車しHonda 販売店へご連絡ください。 ▶車両が動き出さないように、セレクトレバーを P にしてください。 • ブレーキ警告灯（レッド）だけが消灯したときは、パーキングブレーキを使用せずに、ただちにHonda 販売店で点検を受けてください。 • ブレーキ警告灯（レッド）が同時に点灯しているときは、パーキングブレーキが作動しています。 • ブレーキ警告灯（レッド）が同時に点滅しているときは、システムの点検中でパーキングブレーキが作動していない可能性があります。	 

※1：マルチインフォメーションディスプレイ装備車

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ※1
	ブレーキシステム警告灯（オレンジ）	渋滞追従機能付 ACC 装備車 • カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。	—
	油圧警告灯*	• エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯	• **走行中に点灯** = ただちに安全な場所に停車し、対処してください。 **点灯したらすぐにすること** 1. ただちに車を水平で安全な場所に停車する。 2. 非常点滅表示灯を点滅させる。 **車を停車してからすること** 1. エンジンを停止し、3分間ほど放置する。 2. ボンネットを開け、エンジンオイルの量を確認する。 ▶ 必要に応じて、エンジンオイルを補給してください。 3. エンジンを始動し、油圧警告灯を確認する。 ▶ 消灯した:運転を再開してください。 ▶ 10秒以内に消灯しない:エンジンを停止して、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。 アドバイス 油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンが破損するおそれがあります。	—

※1: マルチインフォメーションディスプレイ装備車

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ※1
	PGM-FI 警告灯	• エンジンの排気ガス制御システムに異常があると点灯 • エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅	**点灯したときは** • 高速走行を避けて、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。 • PGM-FI 警告灯が点灯したまま運転すると、排気ガス制御システムとエンジンを損傷する場合があります。 **点滅したときは** • 枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10 分以上エンジンを停止して冷えるまでお待ちください。 • エンジン再始動後、警告灯が再び点滅するときは、50km/h以下の速度で最寄りのHonda 販売店まで走行し点検を受けてください。	
	充電警告灯	• バッテリーが充電されていないと点灯	• **走行中に点灯** =電気の消費量を減らすため、エアコンやリヤデフロスターなどをOFFにし、対処してください。 一時的に停車する場合は、エンジンを停止しないでください。 エンジンを始動すると、バッテリーが急速に放電します。	
	トランスミッション警告灯（シフトポジション表示灯）	• トランスミッションが異常のときに点滅	• 運転中に点滅した場合は、急発進、急加速を避けて、ただちにHonda 販売店で点検を受けてください。	

※1: マルチインフォメーションディスプレイ装備車

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ※1
	シートベルト非着用警告灯	• 運転席および助手席のシートベルトを着用しないと点灯	• シートベルトを正しく着用していても警告灯が点灯する場合は、センサーの誤検知などの要因が考えられます。	
	リヤシートベルト非着用警告灯	• パワーモードを ON モードにしたときに、リヤシートベルトを着用していないと点灯し、約 30 秒経過すると消灯 • パワーモードが ON モードのときに、後席ドアを開閉すると警告灯が点灯し、リヤシートベルトを着用すると消灯 • 警告灯は点灯後、約 30 秒で消灯	• リヤシートベルトを着用すると警告灯が消灯します。	—
	Honda スマートキーシステム警告灯*	• Honda スマートキーシステムが異常のときに点灯	• 下記のような場合、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • 運転中に点灯した • エンジン始動後も消灯しない • パワーモードが OFF モードのときに数秒間点灯した • パワーモードを OFF モードにしたときに数秒間点灯した	—

※1: マルチインフォメーションディスプレイ装備車

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ※1
	燃料残量警告灯	• 燃料の残量が少なくなると点灯 • 点灯するのは、タンクに残っている残量がおよそ 4.0 リットル(2WD 車)、3.7 リットル(4WD車)になったときです。 • 燃料計に異常があるときは点滅	• 点灯したら早めに給油してください。 • 点滅したときは、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。	
ACC	渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)警告灯*(オレンジ)	• 渋滞追従機能付 ACC システムが異常のときに点灯 • カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	
LKAS	LKAS(車線維持支援システム)警告灯*(オレンジ)	• LKAS が異常のときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。	
(ABS)	ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯	• ABS が異常のときに点灯	• 点灯したときは、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されていますが、ABSは作動しません。 ➡ **ABS(アンチロックブレーキシステム)** P.189	

	エアバッグシステム警告灯	• 下記のとき点灯
		  • エアバッグシステムの異常
		  • プリテンショナーシステムの異常
			• 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	

※1: マルチインフォメーションディスプレイ装備車

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ※1
	VSA（ビークルスタビリティアシスト）警告灯	• VSA が作動しているときは点滅 • VSAシステム、ヒルスタートアシストシステム、ブレーキアシストシステム、発進補助ブレーキ機能のいずれかが異常のときに点灯	• 運転中に点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。 ➔ **VSA（ビークルスタビリティアシスト）** P.128	 
OFF	VSA OFF 警告灯	• VSA を OFF にすると点灯	—	—
	高水温警告灯*（レッド）	• エンジン冷却水の温度が上がると点滅し、さらに上がると点灯	• エンジン冷却水の温度が低いときは、消灯後ブルーで点灯します。 ➔ **低水温 表示灯（ブルー）** P.55	—
			• **走行中に点滅** = ゆっくり走行してください。	—
			• **走行中に点灯** = ただちに安全な場所に停車し、エンジンを冷やしてください。 ➔ **オーバーヒート** P.239	—

※1: マルチインフォメーションディスプレイ装備車

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ※1
	CMBS（衝突軽減ブレーキ）警告灯*	• CMBS を OFF にしているとき点灯 • CMBS に異常があるとき点灯 • カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯	• OFF にしていないのに点灯する場合は、いくつかの理由が考えられます。 ➔ **衝突軽減ブレーキ（CMBS）** P.132 • 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	 
		• トンネルなど、閉鎖された空間を通過すると警告灯が一時的に点灯することがあります。 • フロントロアグリルが汚れてレーダーセンサーが前の車両を検知しにくいとき点灯	• 常時点灯する場合は、安全な場所に停車してフロントロアグリルの汚れをふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 • 復帰するまでに時間がかかることがあります。 ➔ **レーダーセンサー** P.179 ➔ **衝突軽減ブレーキ（CMBS）** P.132	
		• フロントガラス上部にあるカメラ内部の温度が高温になると点灯	• エアコンで室内温度を下げるなどしてカメラ内部の温度を下げてください。温度が下がるとシステムは復帰します。	

※1: マルチインフォメーションディスプレイ装備車

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ※1
	CMBS（衝突軽減ブレーキ）警告灯*	• フロントガラス上部にあるカメラ付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるとき点灯 雨、霧、雪など悪天候のときも点灯することがあります	• 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 • 安全な場所に停車してカメラ付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物をふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 ➔ **フロントセンサーカメラ** P.178 ➔ **衝突軽減ブレーキ（CMBS）** P.132	
		• 後方誤発進抑制機能に異常があると点灯	• ただちにHonda販売店で点検を受けてください。 ➔ **後方誤発進抑制機能** P.140	
		• リヤバンパーのソナーに汚れ、氷、霜などの遮蔽物があり、後方誤発進抑制機能が使用できなくなると点灯	• 安全な場所に停車してリヤバンパーの遮蔽物を取り除いてください。 ➔ **ソナーセンサー** P.180 ➔ **後方誤発進抑制機能** P.140	

※1: マルチインフォメーションディスプレイ装備車

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ※1
	ドア / テールゲート開閉警告灯*	• ドア、テールゲートが完全に閉まっていないとき点灯	• ドア、テールゲートを完全に閉めると、警告灯が消灯します。	—
	EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯	• EPS システムが異常のときに点灯	**点灯したらすること** • 安全な場所に停車し、エンジンを再始動する。 • 常時点灯した場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	
	アイドリングストップシステム警告灯(オレンジ)	• アイドリングストップシステムに異常があるときに点滅	• 点滅したときは、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。	
	シフトポジション P 移動警告灯*	• セレクトレバーが P 以外のときに、パワーモードがONモードからアクセサリーモードになると点滅	• パワーモードを OFF モードにしたいときは、セレクトレバーを P にして、ブレーキを踏まずに ENGINE START/STOP を 2 回押してください。	—
		• アイドリングストップ中に、ボンネットなどを開けると点滅	• エンジンを始動させたいときは、通常のエンジンの始動操作をしてください。 ➡ **エンジンの始動** P.119	
	Honda スマートキー電池消耗警告灯*	• Hondaスマートキーの電池残量が少なくなったときに、警告音と同時に点灯	➡ **Hondaスマートキーの取り扱いと電池交換** P.217	—
	Honda スマートキー持ち去り警告灯*	• Honda スマートキーを車外に持ち出し、ドアを閉めたときに、警告音と同時に点滅	• Honda スマートキーを車内に戻してドアを閉めると消灯します。	—

※1: マルチインフォメーションディスプレイ装備車

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ※1
	オートライトコントロール警告灯*	• オートライトコントロールシステムが異常のとき点灯	• 運転中に点灯した場合は、ライトの点灯、消灯は手動で行い、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。	—
	スターティングシステム警告灯*	• スターティングシステムが異常のときに点灯	• ブレーキを踏んだまま、ENGINE START/STOPをエンジンが始動するまで約 15 秒間押し続けてください。消灯しないときや再び点灯した場合は、ただちにHonda 販売店で点検を受けてください。	—
	路外逸脱抑制機能警告灯*	• 路外逸脱抑制機能に異常があるときに点灯 • カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。	
		• トンネルなど、閉鎖された空間を通過すると警告灯が一時的に点灯することがあります。 • フロントロアグリルが汚れてレーダーセンサーが前の車両を検知しにくいとき点灯	• 常時点灯する場合は、安全な場所に停車してフロントロアグリルの汚れをふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 • 復帰するまでに時間がかかることがあります。 ➔ **レーダーセンサー** P.179 ➔ **路外逸脱抑制機能** P.167	
		• フロントガラス上部にあるカメラ内部の温度が高温になると点灯	• エアコンで室内温度を下げるなどしてカメラ内部の温度を下げてください。温度が下がるとシステムは復帰します。	

※1: マルチインフォメーションディスプレイ装備車

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ※1
	路外逸脱抑制機能警告灯*	• フロントガラス上部にあるカメラ付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるとき点灯 雨、霧、雪など悪天候のときも点灯することがあります	• 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 • 安全な場所に停車してカメラ付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物をふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 ➔ **フロントセンサーカメラ** P.178 ➔ **路外逸脱抑制機能** P.167	

※1: マルチインフォメーションディスプレイ装備車

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

表示灯

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ※1
	方向指示器表示灯 / 非常点滅表示灯	• 方向指示器と対応し、左右どちらかが点滅 • 高速で走行中に急ブレーキをかけると、左右同時に点滅	• 点滅しない / 点滅の周期が速いときは、方向指示器の電球が切れています。ただちに電球を交換してください。 ➔ **電球の交換** P.207, 208, 209 ➔ **エマージェンシーストップシグナル** P.190	—
	ハイビーム表示灯	• ヘッドライトが上向きのときに点灯	—	—
	ライト点灯表示灯	• 車幅灯、尾灯などが点灯しているときに点灯	➔ **ライトの使いかた** P.92	—
	低水温表示灯（ブルー）	• エンジン冷却水の温度が低いときに点灯	• 暖機を十分にした状態で、表示灯が点灯したままのときは、温度センサーなどの異常が考えられます。Honda 販売店で点検を受けてください。	—

※1：マルチインフォメーションディスプレイ装備車

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ※1
	インフォメーション表示灯*	• 異常を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、同時に警告音も鳴り、点灯	• メッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたときは、表示灯、警告灯の該当ページを参照して、必要な処置を行ってください。 • メッセージは、警告が解除されるか、インフォメーション(i)スイッチ(▲/▼)を押すまで通常表示に戻りません。 • 点灯しているときにインフォメーション(i)スイッチ(▲/▼)を押すと、メッセージを再表示させることができます。	—
	イモビライザーシステム表示灯	• ENGINE START/STOP を押したとき、イモビライザーシステムがキーの情報を認識できないと点滅	• ENGINE START/STOP を押したあと、点滅しているときは、エンジンを始動することはできません。 パワーモードをいったんOFFモードにしてから、もう一度 ON モードにしてください。 • 頻繁に表示灯の点滅を繰り返す場合は、システムの異常が考えられますので Honda 販売店で点検を受けてください。	—

※1: マルチインフォメーションディスプレイ装備車

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ※1
	セキュリティアラームシステム作動表示灯	• セキュリティアラームシステムがセットされているときに点滅	➡ **セキュリティアラームシステム** P.87	—
ACC	渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)表示灯✤(グリーン)	• MAIN スイッチを押すと点灯	➡ **渋滞追従機能付ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.147	—
LKAS	LKAS(車線維持支援システム)表示灯✤(グリーン)	• MAIN スイッチを押すと点灯	➡ **LKAS(車線維持支援システム)** P.161	—
	シフトポジション表示灯	• 現在のポジションを表示	• 外気温が低い場合には、シフトポジションの表示が遅れます。	—
	アイドリングストップ表示灯(グリーン)	• アイドリングストップシステムが作動し、アイドリングストップしたときに点灯	—	
	ブレーキ踏み込み不足表示灯✤	• ブレーキペダルの踏み込みが足りないため、アイドリングストップしないときに点滅	• ブレーキペダルを踏み込んでください。	—

※1: マルチインフォメーションディスプレイ装備車

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ※1
	ハンドル操作表示灯*	• ハンドルのロックが解除されていないときに点灯	• ENGINE START/STOP を押しながら、ハンドルを左右に動かします。	—
	オートハイビーム表示灯*	• オートハイビームの動作条件がすべてそろったときに点灯	**オートハイビーム*** P.94	—
	オートマチックブレーキホールドシステム表示灯*	• オートマチックブレーキホールドシステムが ON のとき点灯	**オートマチックブレーキホールド** P.186	
	オートマチックブレーキホールド表示灯*	• オートマチックブレーキホールドが作動しているとき点灯	**オートマチックブレーキホールド** P.186	—

※1: マルチインフォメーションディスプレイ装備車

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

マルチインフォメーションディスプレイ* のメッセージ

下記のメッセージはマルチインフォメーションディスプレイにのみ表示されます。
再表示させるときはインフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押してください。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 通常走行ができないときに表示	• ただちに安全な場所に停車してください。
	• 車両の異常で停車時に車が動いてしまうおそれがあるときに表示	• 停車したときはパーキングブレーキをかけてください。 ➔ **電子制御パーキングブレーキ** P.181 • Honda 販売店で点検を受けてください。
	• パワーモードが ON モードのときに、外気温が 3 ℃以下になると 1 回のみ表示	• 路面凍結のおそれががあります。
	• エンジン冷却水の温度が異常に上がると表示	• ゆっくり走行してください。
	• エンジン冷却水の温度が上限近くまで上がると表示	• ただちに安全な場所に停車し、エンジンを冷やしてください。 ➔ **オーバーヒート** P.239
	• 何らかの理由により、アイドリングストップできないときに表示 • エンジンが自動的に再始動したときに表示 • バッテリーの内部温度が 5 ℃以下のときに表示	➔ **アイドリングストップシステム** P.126

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• バッテリーの充電量が少ない状態でアイドリングストップができないときに表示	➔ **アイドリングストップシステム** P.126
	• エアコンを使用中で設定温度と車内の温度差が大きくて、アイドリングストップできないときに表示	➔ **アイドリングストップシステム** P.126
	• エンジン冷却水の水温が低いとき、または高くてアイドリングストップできないときに表示	➔ **アイドリングストップシステム** P.126
	• ブレーキペダルの踏み込みが足りないため、アイドリングストップしないときに表示	• ブレーキペダルを踏み込んでください。
	• セレクトレバーが P 以外のときにエンジンが停止して、自動的に再始動しないときに表示 • アイドリングストップ中に、ボンネットなどを開けると表示	• パワーモードをOFFモードにしたいときは、セレクトレバーを P にしてください。 • エンジンを始動させたいときは、通常のエンジンの始動操作をしてください。 ➔ **エンジンの始動** P.119
	アイドリングストップ中に、以下の状態のためエンジンが自動的に再始動したときに表示 • バッテリーの充電量が少なくなったとき • バッテリーの内部温度が5℃以下になったとき	➔ **アイドリングストップシステム** P.126
	アイドリングストップ中に、以下の状態のためエンジンが自動的に再始動したときに表示 • エアコンを使用中で、設定温度と車内の温度差が大きい	➔ **アイドリングストップシステム** P.126

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	アイドリングストップ中に、以下の状態のためエンジンが自動的に再始動しないときに表示 • ボンネットが開いている • アイドリングストップを続けることができないシステムの異常	• エンジンを再始動してください。 ➡ **エンジンの始動** P.119
	• ボンネットが完全に閉まっていないときに表示	• ボンネットを完全に閉めてください。
	• スターティングシステムが異常のときに表示	• ブレーキペダルを踏んだまま、ENGINE START/STOP をエンジンが始動するまで約 15 秒間押し続けてください。表示が消えないときや再び表示した場合は、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると表示	• 運転中に表示された場合は、ただちに安全な場所に車を停車し、対処してください。 **表示されたらすぐにすること** 1. ただちに車を水平で安全な場所に停車する。 2. 非常点滅表示灯を点滅させる。 **車を停車してからすること** 1. エンジンを停止し、3 分間ほど放置する。 2. ボンネットを開け、エンジンオイルの量を確認する。 ▶必要に応じて、エンジンオイルを補給してください。 3. エンジンを始動する。 ▶「エンジン油圧異常」の警告メッセージが消えた:運転を再開してください。 ▶「エンジン油圧異常」の警告メッセージが消えない:エンジンを止めて、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。 アドバイス 油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンが破損するおそれがあります。
	• Honda スマートキーシステムが異常のときに表示	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	• パワーモードが ON で、Honda スマートキーを車外に持ち出し、ドアを閉めたときに、警告音と同時に表示	• パワーモード ON の作動範囲内に Honda スマートキーを戻してドアを閉めると、警告が解除されます。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• Honda スマートキーの電池残量が少なくなったときに、警告音と同時に表示	—
	• ハンドルのロックが解除されていないときに表示	• ハンドルを左右に動かしながら ENGINE START/STOP を押してください。
	• パワーモードがONモードでセレクトレバーが P 以外のとき、ENGINE START/STOP を押すと表示	• パワーモードを OFF モードにしたいときは、セレクトレバーを P にして、ブレーキペダルを踏まずに ENGINE START/STOP を2回押してください。
	• Honda スマートキーの電池残量が少なくなったときや Honda スマートキーが車内にないときに ENGINE START/STOP スイッチを押すと、警告音と同時に表示	➔ **Hondaスマートキーの微弱電波** P.81 ➔ **ENGINE START/STOP スイッチ** P.91 ➔ **Hondaスマートキーの電池が切れたとき** P.233
	• 走行中に ENGINE START/STOP を押したときに表示	➔ **緊急時のエンジン停止方法** P.234
	• オートマチックブレーキホールドスイッチを押して、オートマチックブレーキホールドシステムを OFF にすると表示	➔ **オートマチックブレーキホールド** P.186
	• 運転席のシートベルトを着用せずに、オートマチックブレーキホールドスイッチを押すと表示	• 運転席のシートベルトを着用してください。 ➔ **オートマチックブレーキホールド** P.186

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• オートマチックブレーキホールドが作動中に、ブレーキペダルを踏まずにオートマチックブレーキホールドスイッチを押すと表示	• ブレーキペダルを踏みながらオートマチックブレーキホールドスイッチを押してください。 ➔ **オートマチックブレーキホールド** P.186
	• オートマチックブレーキホールドが作動中に、自動的にパーキングブレーキがかかったときに表示	➔ **オートマチックブレーキホールド** P.186 ➔ **電子制御パーキングブレーキ** P.181
	• オートマチックブレーキホールドが作動中に、自動的にオートマチックブレーキホールドが停止したときに表示	• ただちにブレーキペダルを踏んでください。
	• 電子制御パーキングブレーキが作動中に、ブレーキペダルを踏まずにパーキングブレーキスイッチを押すと表示	• ブレーキペダルを踏んでパーキングブレーキスイッチを押してください。 ➔ **電子制御パーキングブレーキ** P.181
	• パーキングセンサーシステムが異常のときに表示	• センサー周辺に泥、氷、雪などの付着物がないか確認してください。付着物を取り除いても表示される場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。 ➔ **パーキングセンサーシステム*** P.192
	• ドアとテールゲートが完全に閉まっていないときに表示 • 走行中、ドアを開けるとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告メッセージが表示	• ドアとテールゲートを完全に閉めると、表示が消えます。
	• シートベルトを着用しないで、パワーモードを ON モードにすると表示	• 運転するときは、シートベルトを正しく着用してください。

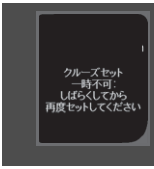
この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• オートライトコントロールシステムに異常があると表示	• 運転中に表示された場合は、ライトの点灯、消灯は手動で行い、Honda 販売店で点検を受けてください。 ➔ **ライトの使いかた** P.92
	LED ヘッドライト装備車 • ヘッドライトの機能に異常があると表示	• 運転中に表示された場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	• 渋滞追従機能付 ACC の作動が自動的に解除されたときに表示	• 渋滞追従機能付 ACC が自動解除になった原因が解決された場合、RES/+ スイッチを押すことにより、元の設定速度に戻すことができます。 ➔ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.147
	• 衝突の可能性があるときブザーが断続的に鳴り警告が点滅	➔ **衝突軽減ブレーキ(CMBS)** P.132 ➔ **誤発進抑制機能** P.138 ➔ **後方誤発進抑制機能** P.140 ➔ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.147
	• 車速が高すぎて渋滞追従機能付 ACC がセットできないときに表示	• 車速を下げてから渋滞追従機能付 ACC をセットしてください。 ➔ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.147
	• 車速が高すぎて渋滞追従機能付 ACC の作動が解除されたときに表示	• 車速を下げてから渋滞追従機能付 ACC を再度セットしてください。 ➔ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.147

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 渋滞追従機能付 ACC によって自車が自動的に停止しているとき、渋滞追従機能付ACCの作動が解除されたときに表示	• ただちにブレーキペダルを踏んでください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.147
	• 車速 30km/h 未満で先行車がいなくてセットできないときに表示	• 先行車がいる状態または車速30km/h 以上で走行して渋滞追従機能付 ACC をセットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.147
	• 先行車との車間距離が接近しすぎてセットできないときに表示	• 先行車との車間距離をとってから渋滞追従機能付 ACC をセットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.147
	• 急な坂道で停車していてセットできないときに表示	• 坂道が緩やかになってから渋滞追従機能付 ACC をセットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.147
	• 運転席のシートベルトが着用されておらずセットできないときに表示	• 運転席のシートベルトを着用してから渋滞追従機能付 ACC をセットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.147
	• シフトポジションが D または S 以外でセットできないときに表示	• シフトポジションを D または S にしてから渋滞追従機能付 ACC をセットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.147

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• パーキングブレーキがかかっていてセットできないときに表示	• パーキングブレーキを解除してから渋滞追従機能付 ACC をセットしてください。 ➔ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.147 ➔ **電子制御パーキングブレーキ** P.181
	• 渋滞追従機能付 ACC によって自車が自動的に停止しているとき、先行車が発進したときに表示	• RES/+ スイッチか -/SET スイッチを押す、またはアクセルペダルを踏むと発進できます。 ➔ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.147
	• 走行中にブレーキペダルを操作していてセットできないときに表示	• ブレーキペダルを操作していない状態で渋滞追従機能付 ACC をセットしてください。 ➔ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.147
	• 停車中に先行車が発進し、レーダーセンサーの検知範囲からいなくなって渋滞追従機能付 ACC の作動が解除されたときに表示	• 先行車がいる状態または車速 30km/h 以上で走行して渋滞追従機能付 ACC を再度セットしてください。 ➔ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.147
	• 先行車との車間距離が接近しすぎて渋滞追従機能付 ACC の作動が解除されたときに表示	• 先行車との車間距離をとってから渋滞追従機能付 ACC を再度セットしてください。 ➔ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.147

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 急な坂道で停車して渋滞追従機能付 ACC の作動が解除されたときに表示	• 坂道が緩やかになってから渋滞追従機能付 ACC を再度セットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.147
	• 渋滞追従機能付 ACC によって自車が自動的に停止しているとき、運転席のシートベルトが外されたときに表示	• 運転席のシートベルトを着用してから渋滞追従機能付 ACC を再度セットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.147
	• 渋滞追従機能付 ACC が作動しているときにシフトポジションを D または S 以外にしたときに表示	• シフトポジションを D または S にしてから渋滞追従機能付 ACC を再度セットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.147
	• 渋滞追従機能付 ACC が作動しているときにパーキングブレーキがかけられたときに表示	• パーキングブレーキを解除してから渋滞追従機能付 ACC を再度セットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.147
	• 渋滞追従機能付 ACC が作動しているときにスリップやホイールスピンなどが発生したときに表示	• 渋滞追従機能付 ACC を使用するときは再度、設定しなおしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.147

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 長い下り坂などを走行時、渋滞追従機能付 ACC の作動が自動的に解除される直前に表示(先行車との車間距離が、車間距離設定で最長を選択したときの距離まで自動的に開きます。) • 渋滞追従機能付 ACC の作動が自動的に解除されたときに表示	➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.147
	• 長い下り坂などを走行時、渋滞追従機能付 ACC をセットできないときに表示	—
 (オレンジ)	• 車線を越えそうなときに表示	• ハンドル操作をして、車線の中央を走行してください。しばらくすると、警告メッセージが消えます。 ➡ **LKAS(車線維持支援システム)** P.161 ➡ **路外逸脱抑制機能** P.167
 (レッド)	• ハンドルを操作しないで、もしくはハンドルから手を放したまま走行し、車線を越えそうになると、警告音と同時に表示	• ハンドル操作をして、車線の中央を走行してください。しばらくすると、警告メッセージが消えます。 ➡ **LKAS(車線維持支援システム)** P.161
	• ハンドルを操作しないで、もしくはハンドルから手を放したまま走行すると、警告音と同時に点滅	• そのまま走行を続けると、長い警告音が 1 回鳴り、LKAS の作動が解除されます。 • ハンドル操作をすると、警告メッセージが消えます。 ➡ **LKAS(車線維持支援システム)** P.161

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 車線からはみ出るような走行をすると、ハンドル制御と同時に表示	• ハンドル操作をして、車線の中央を走行してください。しばらくすると、警告メッセージが消えます。 ➔ **路外逸脱抑制機能** P.167
	• LKAS システムに異常が起こりLKAS の作動が解除されたとき、または LKAS システムに異常がある場合に LKAS スイッチを押したときに警告音と同時に表示	• VSA 警告灯、ABS 警告灯、ブレーキシステム警告灯と同時に点灯した場合は、ただちにHonda 販売店で点検を受けてください。 ➔ **LKAS(車線維持支援システム)** P.161
	• フロントガラス上部にあるカメラ内部の温度が高温になり、運転支援システムの一部が使用できなくなると表示	• エアコンで室内温度を下げるなどしてカメラ内部の温度を下げてください。 ➔ **フロントセンサーカメラ** P.178 ➔ **ホンダセンシング*** P.130
	• フロントガラス上部にあるカメラ付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があり、運転支援システムの一部が使用できなくなると表示 • 雨、霧、雪など悪天候のときも表示することがあります	• 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 • 安全な場所に停車してカメラ付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 ➔ **フロントセンサーカメラ** P.178 ➔ **ホンダセンシング*** P.130
	• フロントロアグリルに汚れなどの遮蔽物がありレーダーセンサーが前の車両等を検知しにくいときに表示	• 安全な場所に停車してフロントロアグリルの汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 ➔ **レーダーセンサー** P.179 ➔ **ホンダセンシング*** P.130
	• オートハイビームに異常があると表示	• ヘッドライトスイッチを手動で操作してください。 • ハイビーム点灯中に表示された場合は、ロービームに切り換わります。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	ターボ装備車 • メンテナンス時期が近づくと表示	• メンテナンスの必要な装備、時期にしたがってメッセージの表示は変化します。

メーターとインフォメーションディスプレイ

■ 燃料計

アドバイス

燃料計が E に近づいたら、早めに給油してください。

燃料がなくなるとエンジンが点火しなくなり、触媒装置を損傷することがあります。

■ タコメーター

アドバイス

エンジン故障の原因となりますので限界回転数以上(レッドゾーン)に入らないよう運転してください。

特に、高速走行時にシフトダウンするときには、注意してください。

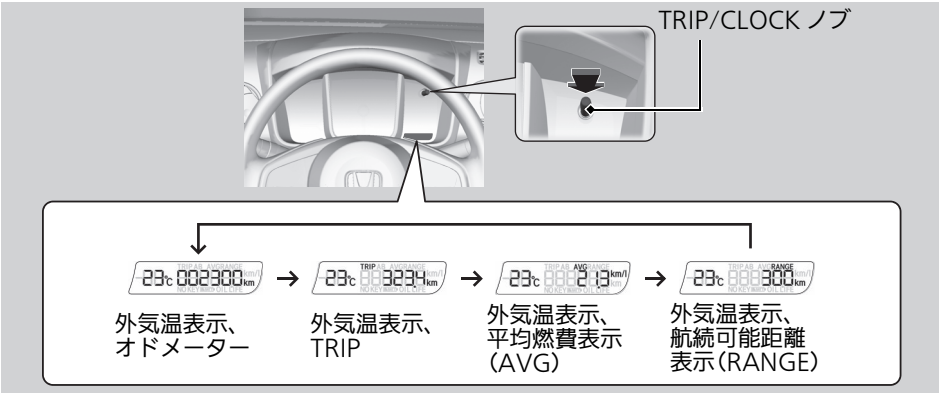
セレクトレバーがRのときや、空ぶかしをしたときは、エンジンの限界回転数より低い回転数でも、トランスミッション保護のため燃料供給が停止されます。

インフォメーションディスプレイ*

インフォメーションディスプレイには、オドメーター、トリップメーター、外気温表示などが表示されます。

■ 表示の切り換えかた

TRIP/CLOCK ノブを押すごとに、表示が下記のように切り換わります。



■ トリップメーター

■ トリップメーターをリセットするには

トリップメーターが表示されている状態で、TRIP/CLOCK ノブを押し続けてください。トリップメーターが 0.0 にリセットされます。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

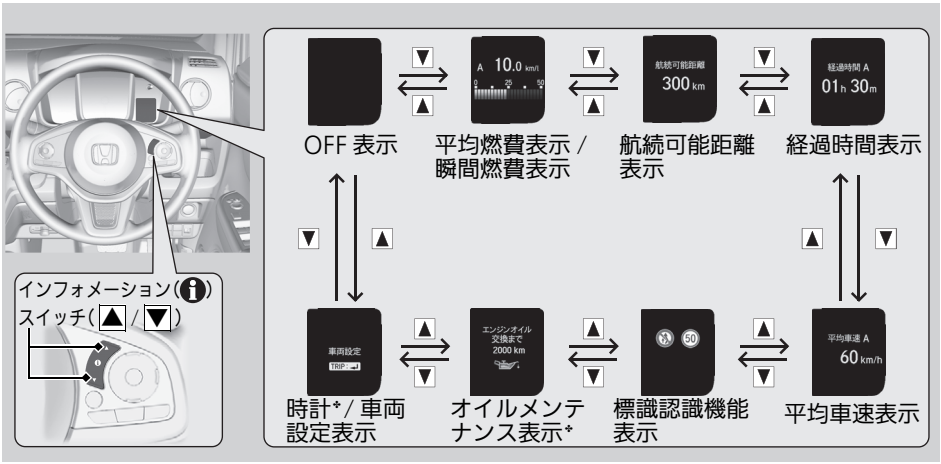
マルチインフォメーションディスプレイ*

マルチインフォメーションディスプレイには、オドメーター、トリップメーター、外気温表示、燃費情報などが表示されます。
また、異常を検知するとメッセージが表示されます。

■ 表示の切り換えかた

■メインディスプレイ

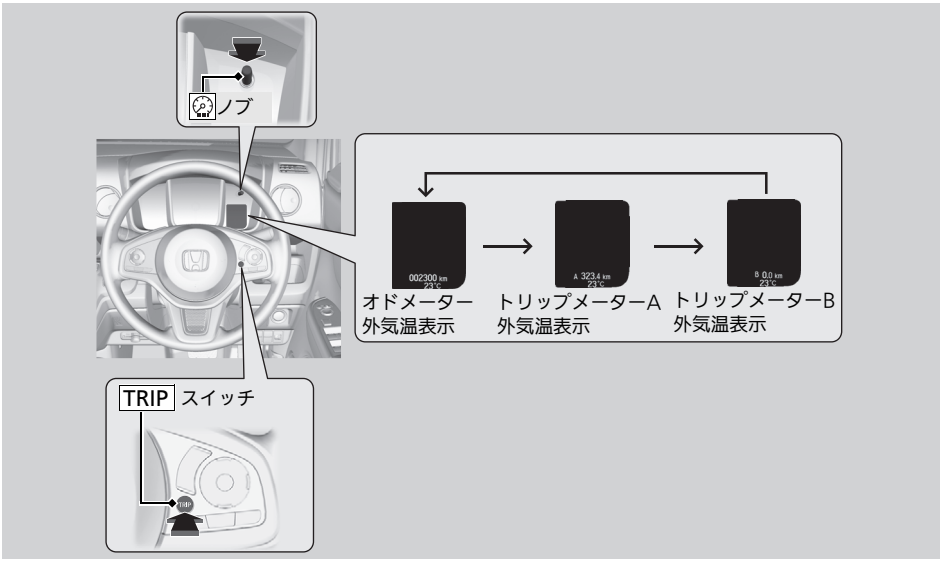
インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲ / ▼)を押すごとに、表示が下記のように切り換わります。



この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■サブディスプレイ

TRIP スイッチまたはノブを押すごとに画面が切り換わります。



■ トリップメーター

■トリップメーターをリセットするには

リセットしたいトリップメーターが表示されている状態で、TRIP スイッチまたはノブを押し続けてください。トリップメーターが 0.0 にリセットされます。

トリップメーターA、B と平均燃費 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。

トリップメーターA、B と平均車速表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。

■ タイヤ角度モニター

以下のとき、車速が約 15km/h になるまで、ハンドルの回転量とタイヤの角度に合わせ、タイヤの向きを 7 段階で表示します。



- ハンドル角度が左右 90 度以上で、パワーモードを ON モードにしたとき
- ハンドル角度が左右 90 度以上で、セレクトレバーを D または S にしたとき
- シフトポジションを 1 秒以上 R にしたとき

➲ **各表示設定については左の QR コードから詳細取扱説明書(HTML 版)を参照してください。**

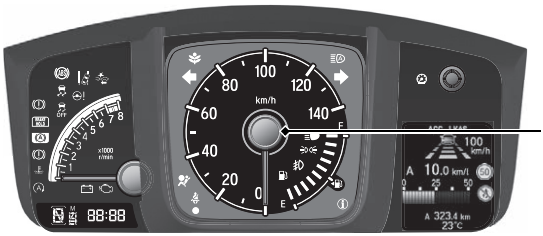
■ カスタマイズのしかた

パワーモードが ON モードでシフトポジションが P のときに、インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲ / ▼)を押して、「時計*/ 車両設定」を選択します。そして TRIP を押すと、カスタマイズを行うことのできる「グループ」画面に切り換わります。

➲ **カスタマイズ機能、設定、操作の詳細については左の QR コードから詳細取扱説明書(HTML 版)を参照してください。**

エコアシストシステム

■ アンビエントメーター



運転状態を表示します。省燃費状態の時はアンビエントメーターの色が緑色に変化します。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

この章では、運転に必要な各部の操作方法について記載しています。

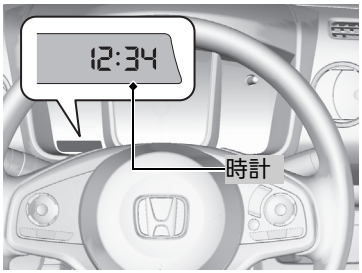
時刻の設定

Honda インターナビシステム非装備車

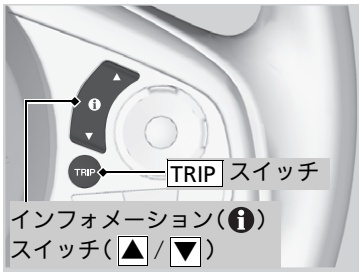
時計の時刻を合わせる

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

時計はメーターに表示されます。



1. インフォメーション(i)スイッチ(▲/▼)を押し、「時計 / 車両設定」が表示されたら、TRIP を押す。
   ▶「グループ」画面に切り換わり、「時計設定」が表示されます。
2. TRIP を押す。
   ▶「メニュー」画面に切り換わり、「時刻調整」が表示されます。





3. TRIP を押す。
   ▶「セットアップ」画面に切り換わり、「時」の調整ができます。



4. インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押し、希望の数値が表示されたら、TRIPを押す。
   ▶「時」が設定され、「分」の調整ができます。
5. **手順４**と同様の操作で「分」を調整をする。
   ▶「分」が設定され、時刻調整が完了します。
   ▶設定完了のメッセージ画面が表示されます。



6. 「戻る」が表示されたら、TRIPを押す。
7. **手順６**の操作を通常画面に戻るまで繰り返す。

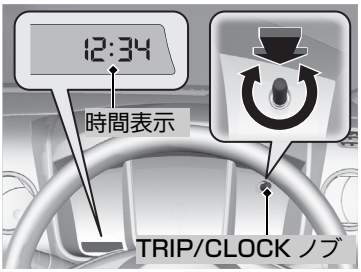
マルチインフォメーションディスプレイ装備車

Honda インターナビシステム装備車

時刻は、人工衛星からの情報を利用していますので、時刻合わせは不要です。

インフォメーションディスプレイ装備車

時計はメーターに表示されます。



1. **TRIP/CLOCK** ノブを回して、時計調節表示にする。
   ▶「時」、「分」が点滅します。
2. **TRIP/CLOCK** ノブを回して、時間を合わせる。
   右に回す:「分」が進みます。
   ▶「59」を超えると「時」が 1 時間進みます。
   左に回す:「分」が戻ります。
   ▶「00」を超えると「時」が 1 時間戻ります。
3. **TRIP/CLOCK** ノブを押す。
4. **TRIP/CLOCK** ノブを回して、「**24H**」、「**12H**」、または「**OFF**」を選択する。
   ▶「12H」または「24H」を選択すると時刻表示が 12 時間または 24 時間に切り換わります。
   ▶「OFF」を選択すると時計が非表示となります。
5. **TRIP/CLOCK** ノブを押す。
   ▶時刻設定が完了します。

インフォメーションディスプレイ装備車

Honda インターナビシステム装備車

TRIP/CLOCK ノブを回しても時計調節表示に切り換わりません。
時計は人工衛星からの情報を利用していますので、時刻合わせは不要です。

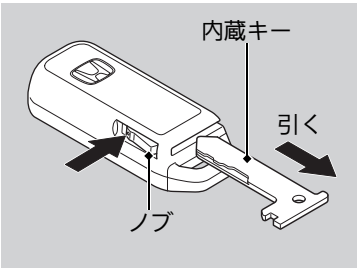
キー

エンジンの始動、停止のほかに、すべてのドア、テールゲート、フューエルリッドの施錠 / 解錠に使用できます。
また、キーについているボタンで、すべてのドア、テールゲート、フューエルリッドの施錠 / 解錠の操作ができます。

キーの故障を防ぐため、下記の点をお守りください。

- 直射日光が当たる場所、高温、多湿の場所に置かない
- キーを落としたり、重いものをのせない
- キーに液体をかけない
- 砂や埃を避ける
- 分解をしない
- 火であぶらない
- テレビ、オーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置いたりしない

■ 内蔵キー



Honda スマートキーの電池が切れたときや車のバッテリーがあがったときは、内蔵キーを使用してください。
内蔵キーは、ノブを押しながら取り出します。

収納するときは、「カチッ」と音がするまで差し込みます。

Honda スマートキーの電池の消耗や故障したときのことを考慮して、内蔵キーはHondaスマートキーに収納しておいてください。

Honda スマートキーは、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けています。以下のことをお守りください。

- 日本国内でのみ使用する
- 電池交換時以外は分解しない
- 改造しない
- キーの内部にある技術基準適合表示を故意に消去、改ざんしない

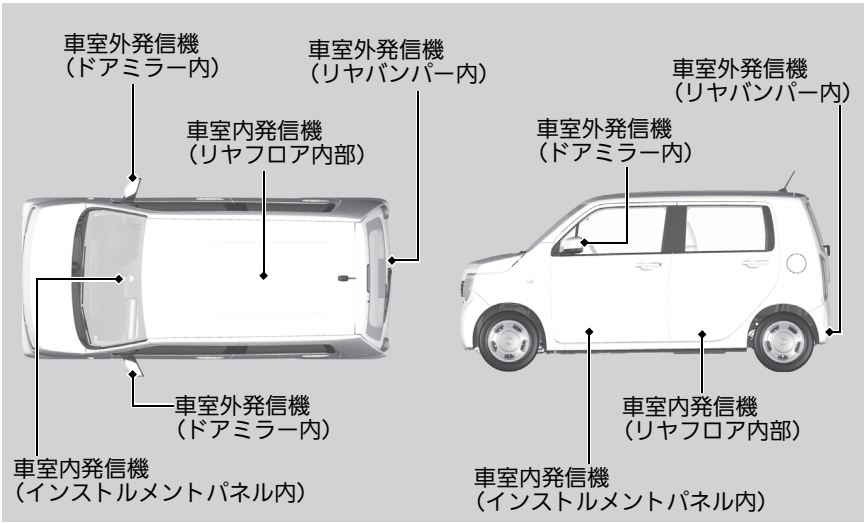
分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

➡ **Honda スマートキーの電池が切れたとき** P.233

Honda スマートキーの微弱電波

Honda スマートキーを使用してドア、テールゲート、フューエルリッドの施錠 / 解錠操作をするときやエンジンを始動するとき、Honda スマートキーとの電子照合を行うために車両から電波が発信されます。
そのため、次のような場合正常に作動しなかったり、不安定な動作となったりすることがあります。

- 強い電磁波を発する機器や設備が近くにあるとき
- 携帯電話や無線機などの通信機器やノートパソコンと一緒に Honda スマートキーを携帯しているとき
- Honda スマートキーが金属物に触れていたり覆われていたりするとき



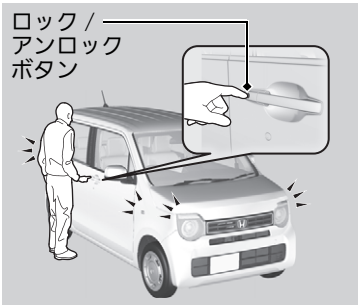
⚠注意

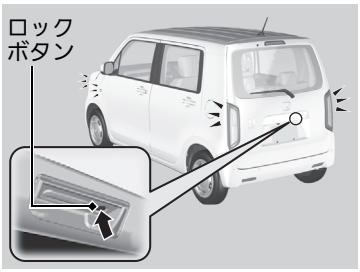
植込み型心臓ペースメーカや植込み型除細動器などの医療機器を装着されているかたは、車両に搭載されている発信機から 22cm 以内に近づかない。
Honda スマートキーシステムで発信されている電波が、機器の作動に影響を与える可能性があります。医療用電子機器を使用しているかたは、医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

車外でのドアの施錠 / 解錠

■Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

Honda スマートキーを携帯し、ロック / アンロックボタンを操作することでドア、テールゲート、フューエルリッドの施錠や解錠ができます。
施錠 / 解錠が作動するのは、運転席または助手席ドアハンドル、テールゲートのオープンスイッチから周囲約 80cm 以内です。

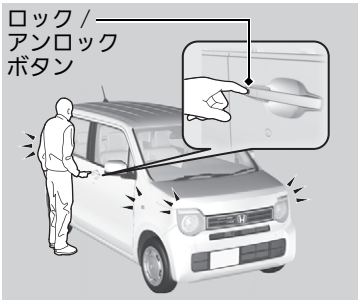




■施錠するには

運転席ドア、助手席ドアのロック / アンロックボタン、テールゲートのロックボタンを押します。

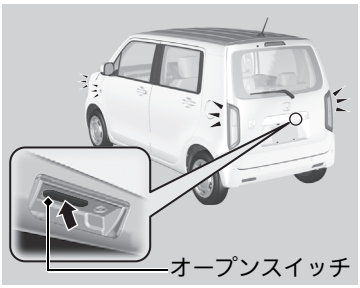
▶「ピッ」というアンサーバック音が鳴り非常点滅表示灯が 1 回点滅し、すべてのドア、テールゲート、フューエルリッドが施錠されます。

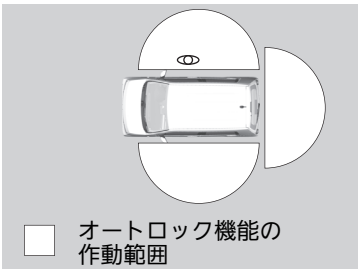


■解錠するには

運転席ドア、助手席ドアのロック / アンロックボタン、テールゲートのオープンスイッチを押します。

▶「ピピッ」というアンサーバック音が鳴り非常点滅表示灯が 2 回点滅し、すべてのドア、テールゲート、フューエルリッドが解錠されます。





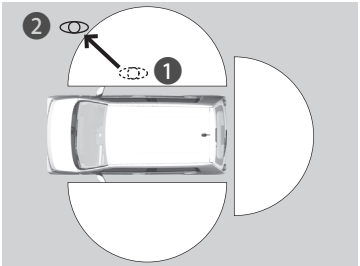
■施錠するには(降車時オートドアロック機能)*

Honda スマートキーを携帯し、車から離れると、ドアが自動的に施錠します。

このオートロック機能は、すべてのドア、テールゲートが閉まっている状態で、Honda スマートキーが運転席または助手席ドアハンドルから周囲約 1.5m 以内にあるときに起動します。

Honda スマートキーを携帯し、降車してドアを閉めてください。

1. そのまま約 1.5m 以内で待つ。
   ▶「ピッ」と音が鳴り、オートロック機能が起動します。
2. Honda スマートキーを携帯したまま、約 1.5m 以上離れて、約 2 秒待つ。
   ▶「ピッ」と音が鳴り、非常点滅表示灯が 1 回点滅し、すべてのドア、テールゲート、フューエルリッドが施錠されます。



降車時オートドアロック機能の工場出荷時の設定は OFF になっています。
ON にするときは、マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズ機能で設定を変更してください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠



■ 施錠

施錠ボタンを押します。

1 回目:

▶ 非常点滅表示灯が 1 回点滅し、すべてのドア、テールゲート、フューエルリッドが施錠されます。

2 回目(施錠ボタンを押して 5 秒以内):

▶ アンサーバックブザーが鳴りドア、テールゲートが施錠されたか確認できます。

■ 解錠

解錠ボタンを押します。

▶ 非常点滅表示灯が 2 回点滅し、すべてのドア、テールゲート、フューエルリッドが解錠されます。

■ キーを差し込んでの施錠 / 解錠

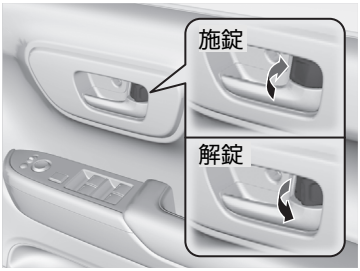
Honda スマートキーのボタンで施錠 / 解錠できない場合は、内蔵キーを使用してください。



キーを確実に差し込んで、回します。

車内での施錠 / 解錠

■ ノブでの施錠 / 解錠



■施錠するには
ノブを押し込みます。

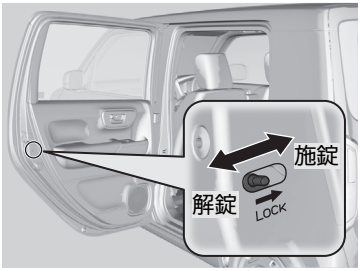
■解錠するには
ノブを引き出します。

運転席ドアのノブで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲート、フューエルリッドも同時に施錠 / 解錠されます。

チャイルドプルーフ

チャイルドプルーフとは、走行中などにお子さまが車外に放り出されることを防止するため、ノブの位置に関係なく、後席ドアを車内から開けることができないようにする機能です。
お子さまをリヤシートに乗せるときなどにお使いください。

■ チャイルドプルーフのセット



後席ドアについているツマミを、施錠の位置にしてドアを閉めます。

■ドアを開ける場合
外側のハンドルで開けます。

テールゲート

テールゲート開閉時の注意

テールゲート開閉をするときは、下記の点に注意してください。

- テールゲートは上までしっかりと開ける。
  ▶ 途中までしか開けていないと、自重で閉まることがあります。
- 風の強い日は、風にあおられて閉まらないように注意する。
- テールゲートを開けたまま走行しない。
  ▶ テールゲートが破損するおそれがあります。
  ▶ 車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。

⚠注意

テールゲートを閉めるときは、頭をぶつけたり手をはさまないよう注意する。
頭をぶつけたり、手などをはさんだりして重大な損傷を負うおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないようにする。
やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

カーゴスペース内に、人を乗せない。
ブレーキや加速、衝突のときにけがをするおそれがあります。

セキュリティシステム

イモビライザーシステム

イモビライザーシステムとは、キーに信号を発信する電子部品が組み込まれてあり、あらかじめ登録されたキーでないとエンジンの始動ができないようにしたシステムです。

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

セキュリティアラームシステム

セキュリティアラームシステムは、Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステムを使わずにドア、テールゲート、ボンネットを開けると、警報装置が作動するシステムです。

■作動すると
ホーンが断続的に鳴り、非常点滅表示灯が点滅します。

■停止させるには
Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステムで解錠するか、パワーモードを ON モードにしてください。システムが停止し、ホーンと点滅も停止します。

■セットするには
セキュリティアラームシステムは、以下の条件が整うと自動的にセットされます。
- パワーモードが OFF モードのとき
- ボンネットが閉まっているとき
- Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステムですべてのドアとテールゲートが施錠されているとき

■セットされると
メーター内にある作動表示灯が点滅し、約 15 秒後に点滅間隔が長くなります。

■セットを解除するには
Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステムで解錠するか、パワーモードを ON モードにすると解除されます。同時に作動表示灯が消灯します。

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

セキュリティアラームシステムをセットした後にバッテリーがあがり、バッテリーの充電、交換をすると、警報装置が作動することがあります。

そのときは、Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステムでドアを解錠し、セキュリティアラームシステムを解除してください。

ウィンドーの開閉

パワーウィンドーの開閉

パワーモードが ON モードのときに、パワーウィンドーの開閉操作を行うことができます。開閉はそれぞれのドアにあるスイッチで行います。

運転席のスイッチでは、すべてのウィンドーの開閉操作を行うことができます。運転席以外のウィンドーの開閉は、運転席のパワーウィンドーロックボタンをOFFにしてから行います。パワーウィンドーロックボタンをOFFにすると、ボタンにある表示灯が消灯します。

パワーウィンドーロックボタンを ON(表示灯点灯)にしておくと、運転席以外のウィンドーは作動しません。お子さまを乗せているときなどは、パワーウィンドーロックボタンを ON にしておいてください。

⚠警告

パワーウィンドーを閉めるときは、同乗者が窓から手や顔などを出していないことを確認する。
手や顔などをパワーウィンドーにはさむと、重大な傷害を負うおそれがあります。
特にお子さまには気をつけてください。

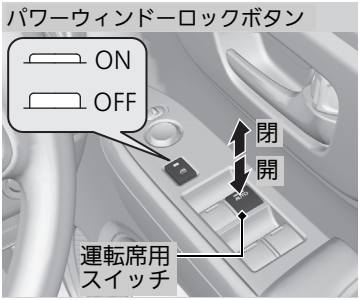
⚠注意

指などをはさみ込まないように注意する。
確実に閉めるため、閉め切る直前の部分に、はさみ込みを検知しないエリアがあります。

お子さまだけを車内に残さない。
必ず Honda スマートキーを携帯し、ドアをロックしてお子さまと一緒に車外に出てください。

故障などではさみ込み防止機構が作動し、自動でウィンドーを閉めることができなくなったときは、スイッチを軽く引き上げ続けると閉めることができます。
路面や走行条件による衝撃などで、はさみ込み防止機構が作動することがあります。

■ 自動開閉機能付きのウィンドーの開閉



■ 手動開閉

開けるとき:スイッチを軽く押す
閉めるとき:スイッチを軽く引き上げる
希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

■ 自動開閉

開けるとき:スイッチを強く押す
閉めるとき:スイッチを強く引き上げる
自動的に全開 / 全閉します。途中で止めるには、スイッチを反対側に軽く上げ / 下げします。

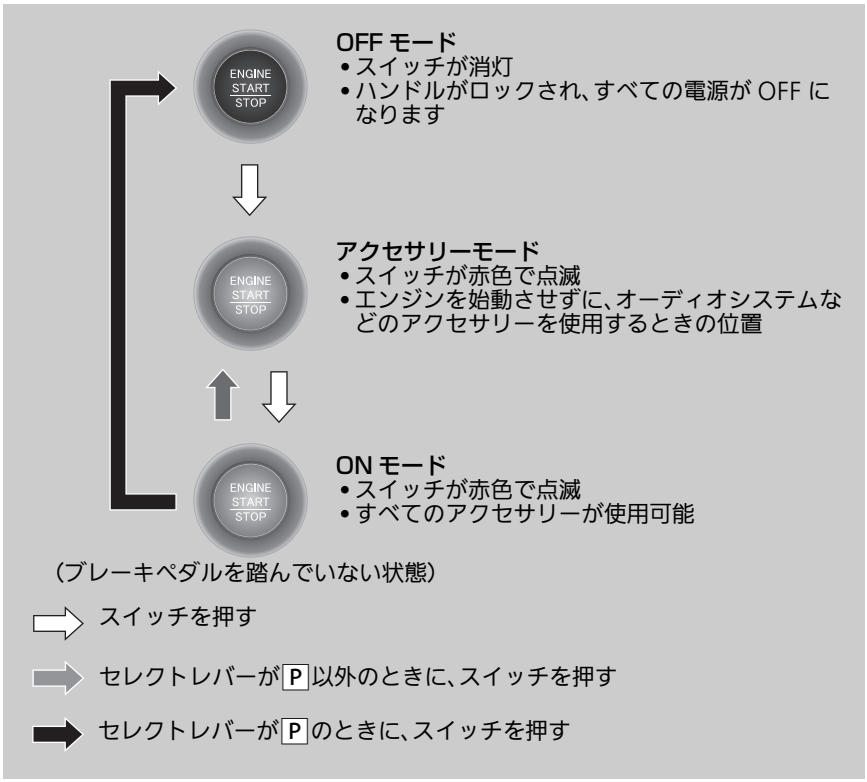
➔ **自動開閉機能なしのウィンドーの開閉については左の QR コードから詳細取扱説明書(HTML 版)を参照してください。**

ハンドルまわりのスイッチ操作

ENGINE START/STOP スイッチ

ENGINE START/STOP のパワーモードが OFF モードからアクセサリーモードに切り換わらないときは、ハンドルロックを解除します。

ハンドルを左右に回しながら、ENGINE START/STOP を押してください。ハンドルロックが解除されます。

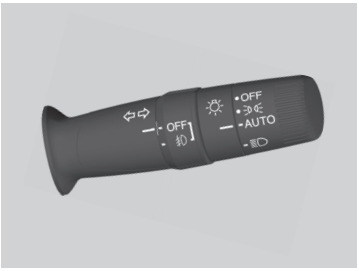


➔ ENGINE START/STOPスイッチ関連の機能については右のQRコードから詳細取扱説明書（HTML 版）を参照してください。

ライトの使いかた

■ ヘッドライト・車幅灯

車外の明るさに応じて自動で点灯します。手動で点灯 / 消灯させることもできます。



パワーモードが ON モードのとき、ライトスイッチを AUTO にすると自動点灯が作動します。

■手動点灯 / 消灯

ヘッドライト・車幅灯の点灯:

ライトスイッチを にします。

車幅灯の点灯:

ライトスイッチを にして手を放します。

- ▶ ヘッドライトは車外の明るさに応じて自動点灯します。
- ▶ 停車中に行うとヘッドライトは消灯します。発進するとヘッドライトの自動点灯が再開します。
- ▶ 車幅灯の自動点灯を再開するにはスイッチを にしたあと、AUTO にします。

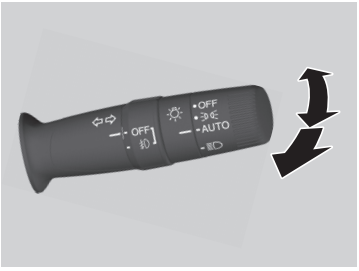
ヘッドライト・車幅灯の消灯:

停車中にライトスイッチを OFF にして手を放します。

- ▶ 発進するとヘッドライトと車幅灯の自動点灯が再開します。

■ ハイビーム

ヘッドライトが点灯しているとき、レバーを前方に押すとハイビームに切り換わります。手前に引くとロービームに戻ります。

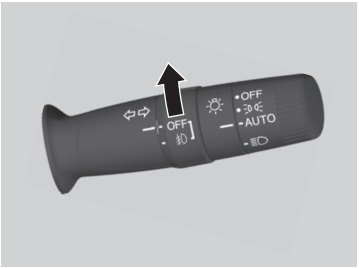


■パッシング

レバーを手前に引くとハイビームが点灯します。

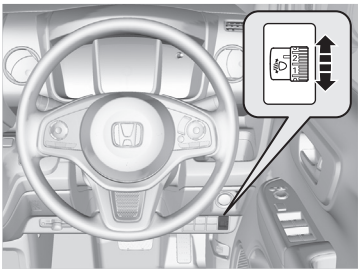
- ▶ レバーを放すとレバーはロービームの位置に戻ります。

■ フォグライト*



メーター内の インジケーターが点灯しているときに、フォグライトスイッチを回すと点灯します。

ヘッドライトレベリングダイヤル



パワーモードがONモードのとき、ヘッドライトの照らす方向(光軸)を下向きに調節することができます。
光軸の調節はダイヤルを回して行います。
ダイヤルの数字が大きいほど光軸は下向きになります。

■ ダイヤル位置の目安

乗員の人数や荷物の量に応じて、下表を目安にダイヤル位置を選択してください。

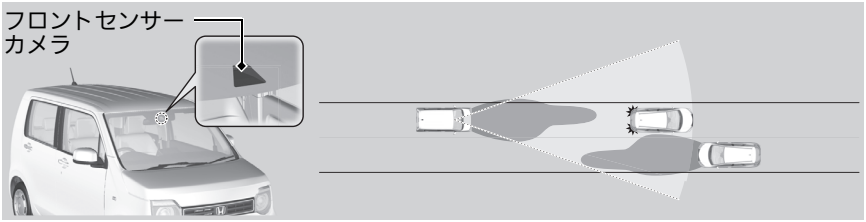
乗員やカーゴスペースの積載状況	ダイヤル位置
運転席のみ乗車時 運転席と助手席に乗車時	0
4名乗車時	1
4名乗車でカーゴスペース満載時	2
運転席のみ乗車でカーゴスペース満載時	3

車検などで光軸調節をするときは、ダイヤルを 0 の位置に戻してから行ってください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

オートハイビーム*

夜間走行時にフロントセンサーカメラで前方車両のライトや街灯などを検知し、状況に応じてヘッドライトのハイビームとロービームを自動で切り換えるシステムです。



オートハイビームはあらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも、運転者をアシストするための機能です。常に周囲の状況を確認し、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切り換えてください。

カメラが認識できる範囲や距離は周囲の状況により変化します。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➡ **フロントセンサーカメラ** P.178

オートハイビームを正しく動作させるために次のことをお守りください。

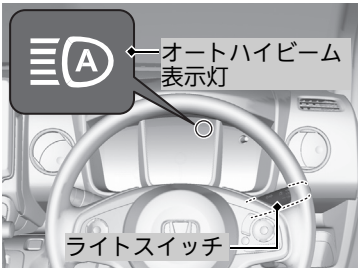
- インストルメントパネルの上に光を反射するものを置かない
- カメラ付近のガラスはきれいにしておく
- フロントガラスのお手入れのときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにする
- カメラ付近のガラスにアクセサリー、ステッカーやフィルムを取り付けない
- カメラのレンズに触れない

カメラに強い衝撃が加わったときやカメラ周辺の修理を行うときは Honda 販売店にご相談ください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ オートハイビームの使いかた

以下の条件をすべて満たすとオートハイビーム表示灯が点灯し、オートハイビームが作動します。



- パワーモードが ON モード
- ライトスイッチが AUTO の位置
- レバーがロービームの位置
- ヘッドライトが自動で点灯している
- 車両の周囲が暗い

上記の条件を満たしていてもオートハイビーム表示灯が点灯しないときは、続けて以下のいずれかの操作を行うことで、オートハイビーム表示灯が点灯します。

- レバーを手前(パッシングの位置)に 2 秒以上引き続け、手を放す
- ライトスイッチを≡Dに回したあと、AUTO に戻す

■ハイビーム / ロービームの自動切り換え

オートハイビームが作動しているとき、以下の条件によりハイビームとロービームが自動で切り換わります。

ハイビームへの切り換え:

以下の条件をすべて満たすとハイビームに切り換わります。

- 車速が 30km/h 以上
- 前方にライトを点灯した車両がいない
- 前方に街灯などの光が少ない

↔

ロービームへの切り換え:

以下の条件のいずれかを満たすとロービームに切り換わります。

- 車速が 24km/h 以下
- 前方にライトを点灯した車両がいる
- 前方に街灯などの光が多い

■ハイビーム / ロービームの手動切り換え

ハイビームとロービームを手動で切り換えたい場合は、以下のいずれかの操作を行ってください。このとき、オートハイビーム表示灯が消灯し、オートハイビームが停止します。

レバーによる操作:

レバーを手前(パッシングの位置)に引いた後すぐに手を放す。または、レバーを前方(ハイビームの位置)に押す。

▶ オートハイビームを復帰させる場合は、以下のいずれかの操作を行ってください。

- レバーを手前(パッシングの位置)に 2 秒以上引き続け、手を放す。
- レバーがロービームの位置のときにライトスイッチを≡Dに回した後、AUTO に戻す。このとき、オートハイビーム表示灯が点灯します。

ライトスイッチによる操作:
ライトスイッチを≡Oに回す。
▶ オートハイビームを復帰させる場合は、レバーがロービームの位置のときにライトスイッチを AUTO に戻してください。このとき、オートハイビーム表示灯が点灯します。

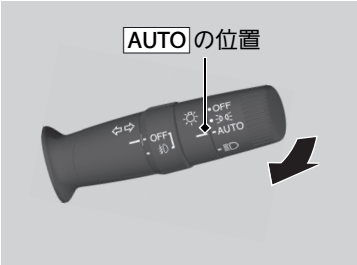
次のような場合、ヘッドライトの切り換えタイミングが変化したり適切に切り換えが行われない場合があります。運転者の感覚に合わない場合は手動で切り換えを行ってください。

- 対向車や先行車のランプが明るい場合や暗い場合、片側点灯や無灯火の場合
- 天候の状況(雨、雪、霧、フロントガラスの霜など)
- 周囲にある街灯、電光掲示、信号機などの光源が明るいとき
- 周囲の明るさが連続的に変わるとき
- カーブが多い道、起伏の激しい道路を走行しているとき
- 前方の車両が突然現れたり、適切な方向を向いていないとき
- カーゴスペースに重い荷物を積んで車が傾いているとき
- 車両前方に標識やミラーなどの光を強く反射するものがあるとき
- 中央分離帯、街路樹などで対向車が見え隠れするとき
- 対向車や先行車が二輪車、自転車などのとき

フロントワイパーが高速(HI)作動しているとき、または、フロントセンサーカメラが濃霧と判断しているときは、ロービームが継続します。

■ オートハイビームを OFF に設定変更したいとき

オートハイビームのシステムを OFF に設定変更することができます。設定を行うときはパワーモードが ON モードで停車しているときに以下の操作を行います。



OFF に設定する：

ライトスイッチが AUTO のとき、レバーを手前（パッシングの位置）に約40秒間引き続けるとオートハイビーム表示灯が 2 回点滅します。2 回点滅後にレバーから手を放します。

ON に設定する：

ライトスイッチが AUTO のとき、レバーを手前（パッシングの位置）に約30秒間引き続けるとオートハイビーム表示灯が 1 回点滅します。1 回点滅後にレバーから手を放します。

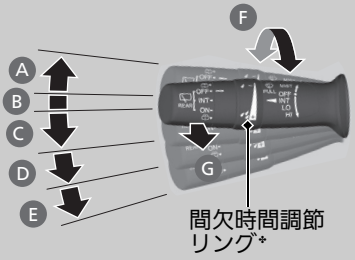
オートハイビームのシステムを OFF に設定変更したとき、ON に設定変更するまでオートハイビームは作動しません。

システムを OFF または ON に設定変更するときは、安全な場所に停車してから設定変更の操作を行ってください。

ワイパー/ ウォッシャー

■ フロントワイパー/ ウォッシャー

パワーモードが ON モードのときに使用できます。



- A MIST:(レバーを操作している間作動)
- B OFF:停止
- C INT:間欠(雨量が少ないとき)
- D LO:低速(普通の雨量のとき)
- E HI:高速(雨量が多いとき)
- F 間欠時間の調節*
- G ウォッシャー

■間欠時間の調節*

リングを回して、ワイパーの間欠時間を調節します。



間欠間隔が長い

間欠間隔が短い

⚠注意

寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射させない。

ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

ワイパーを乾拭きさせないでください。

ガラスが傷付いたりブレードラバーを傷めたりします。

アドバイス

ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。

ポンプ故障の原因となります。

アドバイス

寒冷時、凍結によりワイパーブレードがガラスに張りつくことがあります。

ワイパー故障の原因となりますので、デフロスターでフロントガラスを暖めてから、ワイパーを作動させてください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

ワイパー作動中に雪などがたまりワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してください。
ワイパースイッチを OFF、パワーモードをアクセサリーモードまたは OFF モードにしてから、ワイパーが作動できるように障害物を取り除いてください。

■ リヤワイパー/ ウォッシャー



A ON:低速作動
B INT:間欠作動
C OFF:停止
D [⛲]:ウォッシャー

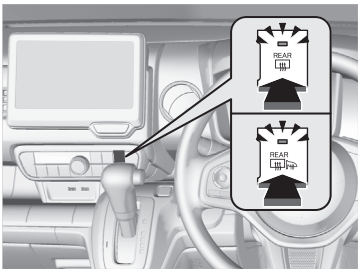
パワーモードが ON モードのときに使用できます。

■ リヤワイパースイッチ(OFF、INT、ON)
雨量に応じてワイパースイッチを切り換えて使用します。

■ ウォッシャースイッチ
スイッチを[⛲]まで回すと、ウォッシャー液が噴射します。
スイッチを回している間はワイパーが作動し、スイッチを離すと数回ワイパーが作動して止まります。

■ リバース連動モード
フロントワイパー作動中にセレクトレバーを[R]に入れるとリヤワイパーが作動します。

リヤデフロスター／ヒーテッドドアミラー* スイッチ



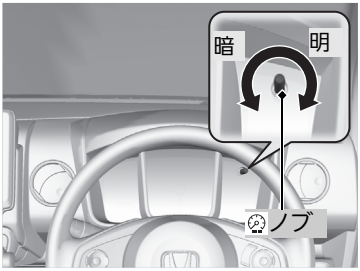
パワーモードが ON モードのときにスイッチを押すと、リヤガラスとドアミラーを暖め、曇りをとることができます。

この装置は消費電力が大きいので、曇りが取れたら OFF にしてください。
また、エンジンの回転数が低いときに長時間使わないでください。バッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

イルミネーションコントロール



インストルメントパネル照明が減光しているときに、ノブでインストルメントパネルの明るさを調節することができます。

明るくする: ノブを右に回す

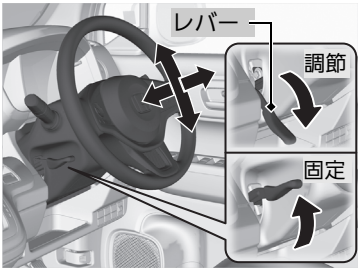
暗くする: ノブを左に回す

以下の条件が整うと、インストルメントパネル照明が減光します。

- パワーモードが ON モード
- 車幅灯が点灯している
- 周囲が暗い

ハンドルの調節

適切な運転姿勢で無理なくハンドルを握れるように、ハンドルの位置を調節することができます。



1. ハンドル位置調節レバーを押し下げる。
   ▶ ハンドル位置調節レバーは、ステアリングコラムの左側にあります。
2. ハンドルの位置を調節する。
   ▶ 調節した位置で、メーターや表示灯が見えることを確認してください。
3. ハンドル位置調節レバーを引き上げ、ハンドルを固定する。
   ▶ 位置調節後、ハンドルに上下前後方向の力を加え、ハンドルがしっかり固定されていることを確認してください。

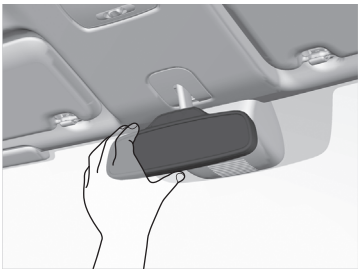
⚠注意

走行中にハンドル位置を調節しない。

走行中に調節すると、ハンドル位置が動き、正確なハンドル操作ができないことがあり、衝突して重大な傷害を負うおそれがあります。ハンドルの調節は、必ず停車中に行ってください。

ミラー類の調節

ルームミラー



ルームミラーの角度は、正しい運転姿勢ですわった位置でミラーを調節してください。

ドアミラー

ドアミラーの操作は、パワーモードが ON モードのときに行います。

■角度調節

左右切り換えスイッチ: 右か左を選択するスイッチです。角度調節後、中央の位置に戻します。

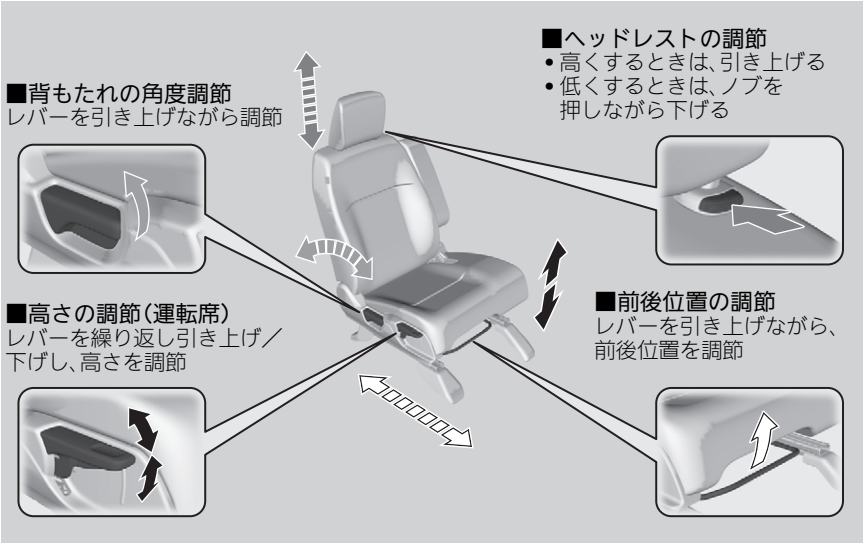
角度調節スイッチ: 上下左右に鏡面を動かすスイッチです。

シートの調節

フロントシート

運転者は、正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。
正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドル操作が楽にできる姿勢をいいます。

■ シートの動かしかた



⚠注意

走行中にシートの調節はしない。
走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

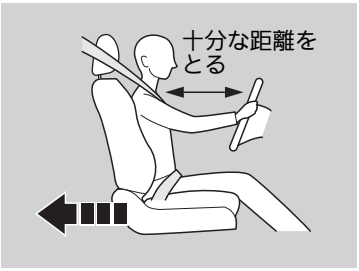
シートの下に物を置かない。
物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

フロントシートは、エアバッグからなるべく離れた位置に調節してください。

同乗者もシートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。

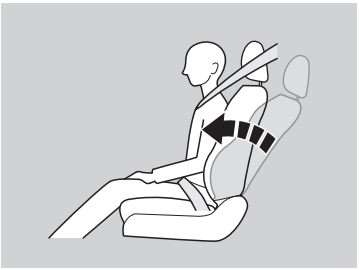
フロントシートに純正以外のシートカバーを取り付けないでください。

■ フロントシートの調節



■ シート位置の調節

運転者とハンドルとの間に十分な距離をとれるように、シートをできるだけ後ろに下げます。
助手席の同乗者のシートも同様に、ダッシュボードの SRS エアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げます。
シートの位置を調節したら、シートを前後に揺すり、固定されていることを確認します。



■ 背もたれ角度の調節

シートに深く腰かけ、楽な姿勢ですわれるように背もたれを起こし調節します。
助手席の同乗者のシートも同様に、楽な姿勢ですわれるように背もたれ角度を調節します。

⚠警告

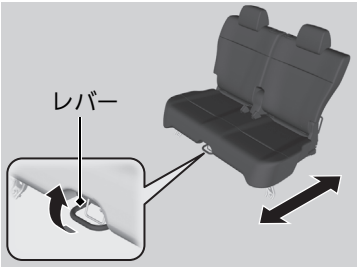
SRS エアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げる。
ハンドルやダッシュボードに近づきすぎると、フロントエアバッグが膨らむ際に重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

背もたれを必要以上に倒さない。
背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

⚠注意

背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。
正しい運転姿勢がとれません。また、シートベルトなどの効果が十分に発揮されません。

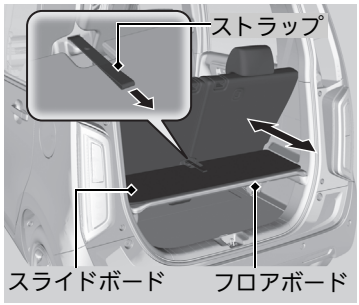
■ リヤシートの調節



■ シート位置の調節

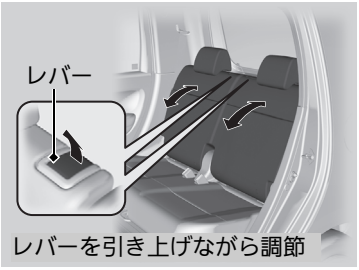
前から調節する場合:

リヤシートの中央前にあるレバーを引き上げながら、リヤシートの前後の位置を調節することができます。



後から調節する場合:

リヤシートバックのストラップを引きながら、リヤシートの前後の位置を調節することができます。
スライドボードは、リヤシートと連動してスライドします。



■ 背もたれの調節

レバーを引いて、背もたれの角度を調節します。

▶ 左右別々に調節することができます。

⚠注意

走行中にシートの調節はしない。

走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

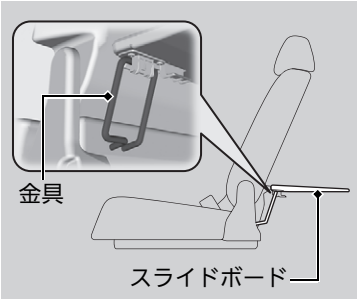
⚠注意

スライドボードは、リヤシートと連動してスライドします。
スライドボードで指や手をはさまないようにご注意ください。
荷物が倒れたり、はさまれたりすることがあるのでご注意ください。

⚠注意

エンジンをかけた状態でシートを操作するときは、排気管の後方に立たない。
やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

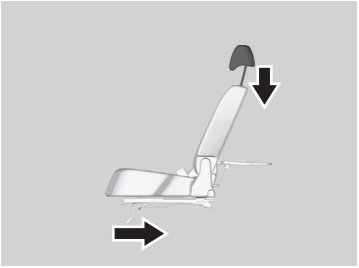
リヤシートの位置を調節するときはスライドボードがリヤシート後部の金具に確実に取り付けられているか確認してください。
スライドボードが金具に固定されていない場合、スライドボードが落下するおそれがあります。



アドバイス
スライドボードが破損するおそれがありますので、スライドボードの上には、合計で50kg 以上のものを載せないでください。

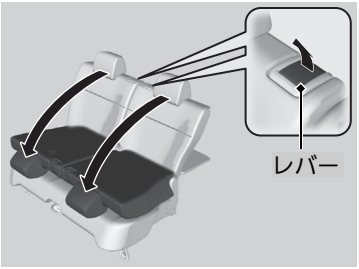
■ 背もたれの倒しかた

リヤシートを倒してカーゴスペースを広くできます。
片側づつ独立して行えます。



■倒しかた

1. ヘッドレストを下げる。
2. リヤシートを後方いっぱいに動かす。
   ➔ **リヤシートの調節** P.104



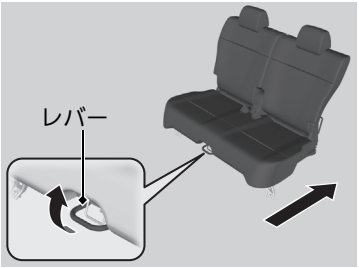
3. 背もたれのレバーを引き、前方に倒す。

⚠注意

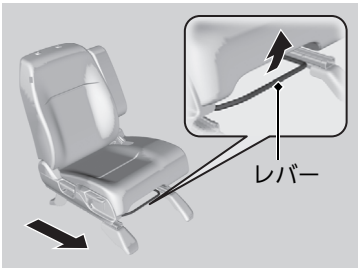
エンジンをかけた状態でシートを操作するときは、排気管の後方に立たない。
やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

リフレッシュモード

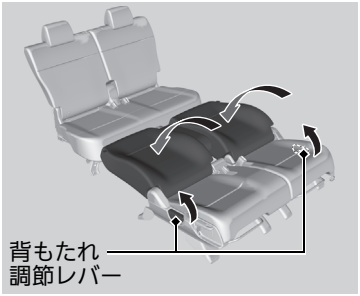
フロントシート（運転席、助手席）の背もたれを倒すと、リヤシートから足を伸ばして座れる状態にできます。



1. リヤシートを後方いっぱいに動かす。
2. リヤシートの背もたれが後ろに固定されていることを確認する。
3. フロントシートのヘッドレストを引き上げ、ノブを押したままヘッドレストを外す。



4. レバーを引き上げながらフロントシートを前方いっぱいに動かす。



5. 背もたれ調節レバーを引き上げながら背もたれを後ろに倒して固定する。
6. レバーを引き上げながらフロントシートを後方いっぱいに動かす。

⚠注意

フロントシートを倒したままの状態で、人や荷物などを乗せたまま走行しない。
ブレーキをかけたときなどに、思わぬ事故につながるおそれがあります。

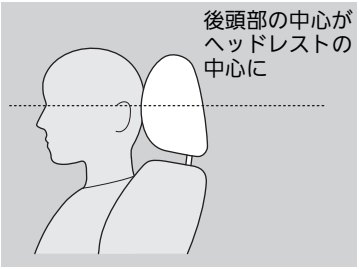
フロントシートを倒したままの状態で、シートの上を走り回らない。また、シートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくりと移動する。
シートの端を踏むと足を踏み外すおそれがあります。

背もたれを起こすときは、必ず背もたれに手を添えて操作する。
背もたれが急に戻り、顔などにけがをするおそれがあります。

アームレストは収納する。
つまずいたり、足を踏み外すおそれがあります。

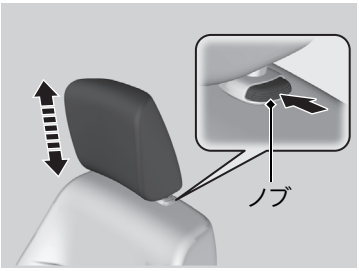
ヘッドレスト

■ フロントシートのヘッドレストの調節



後頭部の中心が、ヘッドレストの中心に来るように
ヘッドレストの高さを調節します。

高くするとき:ヘッドレストを引き上げます。
低くするとき:ノブを押しながら下げます。

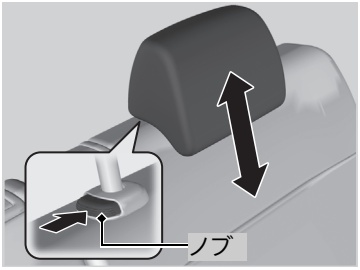


⚠警告

ヘッドレストは必ず正しい位置に調節する。
ヘッドレストの高さが適切でないと、ヘッドレストの効果が低くなり、衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

ヘッドレストを外した状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ リヤシートヘッドレストの位置変更



乗車するときは、走行する前にヘッドレストを引き上げて、確実に固定します。

高くするとき:ヘッドレストを引き上げます。
低くするとき:ノブを押しながら下げます。

⚠警告

ヘッドレストを下げた状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。



■ ヘッドレストの取り外しと取り付け

ヘッドレストは、掃除や修理のために取り外すことができます。

ヘッドレストの取り外し:
ヘッドレストを引き上げ、ノブを押して取り外します。

ヘッドレストの取り付け:
ヘッドレストの脚を元の位置に差し込んでください。ノブを押しながらヘッドレストの位置を適切な位置に合わせてください。ヘッドレストを軽く上下させ、確実に固定します。

アームレスト

⚠警告

シートベルト着用時にアームレストに引っかけない。
万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

室内灯

➲ 室内灯の操作については左の QR コードから詳細取扱説明書(HTML 版)を参照してください。

室内装備品

■ グローブボックス

⚠警告

走行中は必ずグローブボックスを閉める。
グローブボックスが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

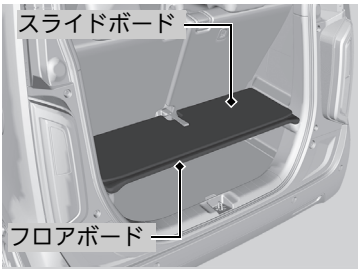
■ リヤシートアンダートレイ



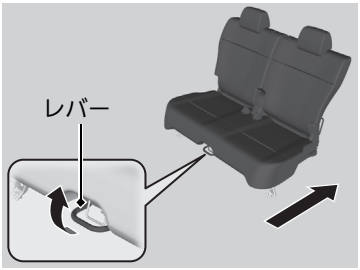
⚠注意

シートアンダートレイ以外のシートの下にものを置かない。
物がはさまってシートが固定されず思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ フロアボード

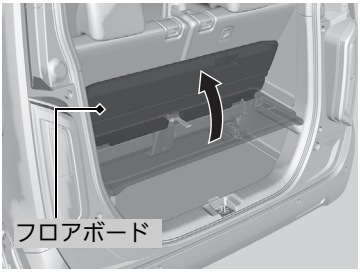


フロアボードを外してカーゴスペースを広くできます。フロアボードはリヤシートの背面に固定することもできます。

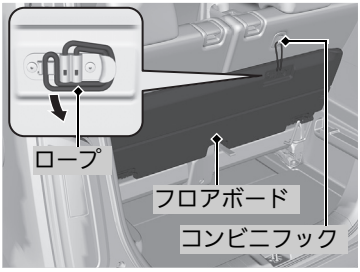


■ フロアボードを固定するときは

1. リヤシートを後方いっぱいの位置まで動かします。
2. 後席右側のコンビニフックを手前に倒します。
➔ **コンビニフック** P.113



3. フロアボードを起こします。



4. フロアボードの裏面に付いているロープをコンビニフックにかけます。

⚠注意

走行中は荷物の出し入れはしない。
急ブレーキなどのときに思わぬ事故につながるおそれがあります。

フロアボードの上、およびカーゴスペースには人を乗せて走行しない。
ブレーキや加速、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。

操作するときは、手などをはさまないように十分注意する。

アドバイス

フロアボードが破損するおそれがありますので、フロアボードの上には、合計で 50kg 以上のものを載せないでください。

フロアボードの上に荷物などを載せるときは、左右両端の溝がカーゴスペースの側面にはまっているか確認してください。

フロアボードをリヤシートの背面に固定しているときは、背もたれを左右別々に調節できなくなる場合があります。その場合はリヤシートからフロアボードを取り外してください。

■ ドリンクホルダー

⚠注意

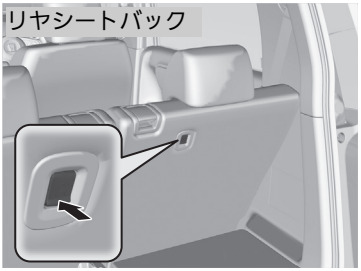
飲み物などを電装品にこぼさないように注意する。
スイッチなどの電装品に飲み物がかかると故障の原因となったり車両火災につながったりするおそれがあります。

■ アクセサリーソケット

アドバイス

シガレットライターは差し込まないでください。
発熱するおそれがあります。

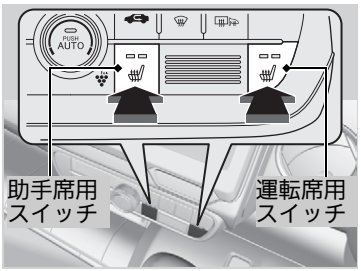
■ コンビニフック



アドバイス

コンビニフックが破損するおそれがありますので、重いもの（約 3kg 以上）や大きいものをかけないでください。

■ シートヒーター*



⚠注意

低温やけどに注意する。

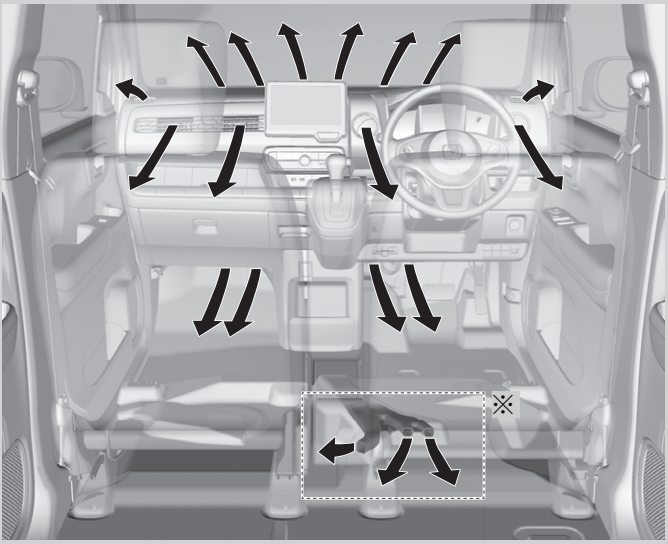
次のようなかたは、低温やけどに十分注意してください。

- 乳幼児、お年寄り、体の不自由なかた
- 皮膚の弱いかた
- 疲労の激しいかた

また、毛布などの保温性の高いものをかけて使用すると低温やけどをすることがあります。

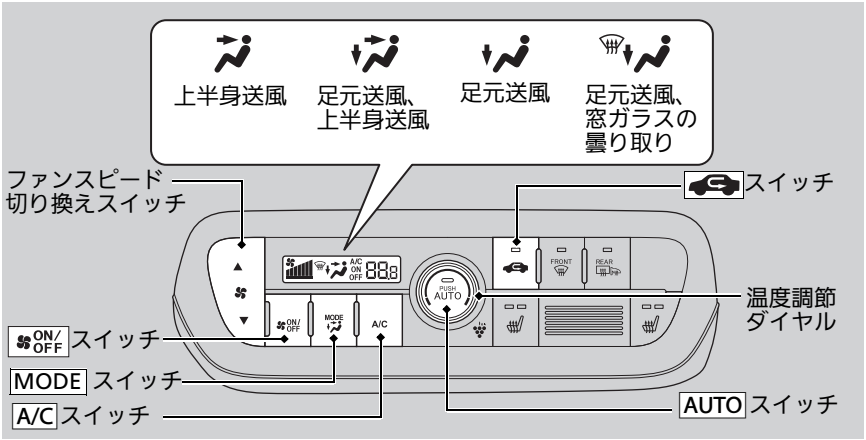
この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

エアコンの吹き出し口



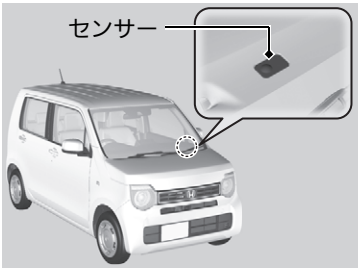
※: 4WD 車

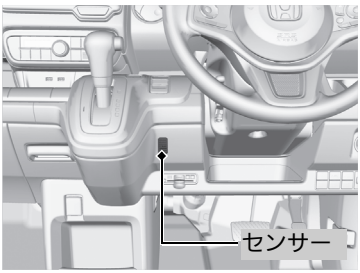
オートエアコンの使いかた



➔ オートエアコンの詳細説明については右の QR コードから詳細取扱説明書(HTML 版)を参照してください。

オートエアコンのセンサー

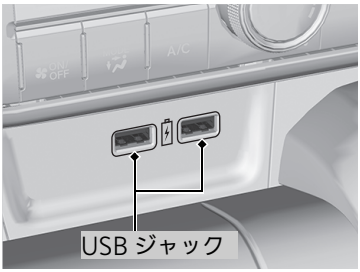




オートエアコンには、センサーが付いています。センサーの上にものを置いたり、水をかけたりしないでください。

オーディオ装置

USB ジャック*



充電する機器の USB ケーブルを USB ジャックに接続します。

▶ USB ジャック (2.5A) は充電専用です。

マイクロアンテナ*



アドバイス

自動洗車機を使用するときは、アンテナを取り外してください。

アンテナを格納した状態で自動洗車機を使用すると、アンテナが破損することがあります。また、取り外したアンテナは紛失しないようにしてください。

アンテナの破損を防ぐために、次のような場合は、アンテナを格納してください。

- 駐車場の天井などにアンテナが当たるとき
- ボディーカバーをかけるとき

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

この章では、運転操作、給油などについて記載しています。

運転の前に

運転の準備

運転を始める前に下記の項目を確認してください。

■ 車外での確認項目

- 窓やミラーの視界、灯火器類の光をさえぎるものがないか？
  ▶ 霜、雪、氷が付着している場合は取り除きます。
  ▶ 屋根に雪が積もっている場合は、走行時に滑り落ちて視界をさえぎる可能性があるため取り除きます。
  氷結しているときは、氷が溶けてから取り除いてください。
  ▶ 足回りに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないよう注意しながら取り除きます。
- ボンネットは完全に閉まっているか？
  ▶ 走行中にボンネットが開くと、視界がさえぎられて危険です。
- タイヤは正常か？
  ▶ 空気圧、亀裂、損傷や異常な摩耗がないか確認します。
  ➔ **タイヤの点検と整備** P.214
- 車の周囲に子供はいないか？
  車の周りに障害物はないか？
  ▶ 運転席から見えない死角や、バックミラーでは確認できない死角がありますので、乗車する前に確認します。

アドバイス

ドアが凍結しているときは、無理にはがさずお湯をかけて溶かしてください。
無理にはがすと、ドアまわりのゴムがはがれます。お湯をかけた後は、凍結防止のため、水分をよく拭き取ってください。

エンジンルーム内に可燃物の置き忘れや、燃えやすいものがないか確認してください。
車両を長期間使用しなかった場合や、メンテナンスの後は、特に注意してください。火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 車内での確認項目

- フロアマットがペダルに引っかかっていないか？
- フロアマットが固定されているか？

- フロアマットを重ねていないか？
  ▶ブレーキやアクセルの操作が確実にできないおそれがあり危険です。
- 積み込んだ荷物が適切に固定されているか？
  ▶不適切な荷物の積み込みは、タイヤに負担をかけたり走行中のバランスを維持できず危険です。
- 荷物はシートの高さを越えていないか？
  ▶後方視界を妨げたり急ブレーキのときに荷物が飛び出したりするおそれがあり危険です。
- フロントシートの足元にものを置いていないか？
- 動物を乗せるときは、動きまわらないようにしているか？
  ▶運転の妨げになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ドア、テールゲートが確実に閉まっているか？
  ▶走行前にすべてのドア、テールゲートが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認します。
  ➔ **車内での施錠 / 解錠** P.85
- シート位置などが適切に調節されているか？
  ▶不適切なシート位置での走行は危険です。
  ➔ **シートの調節** P.102
- ルームミラー、ドアミラー、ハンドルは適切に調節したか？
  ▶正しい運転姿勢ですわり、それぞれ適切な位置に調節します。
  ➔ **ミラー類の調節** P.101
  ➔ **ハンドルの調節** P.100
- すべての乗員がシートベルトを締めているか？
  ▶すべての乗員は必ずシートベルトを着用します。
  ➔ **シートベルトの着用** P.16
- エンジンを始動したとき、メーターに異常を示す警告灯などが点灯していないか？
  ▶異常を示す警告灯の異常を解決してから走行します。
  ➔ **警告灯** P.43

運転者は、携帯電話を走行中に使用しないでください。

運転者が運転中にハンズフリー以外の携帯電話を使用することは、法律で禁止されています。運転中の使用により周囲の状況に対する注意が不十分になると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

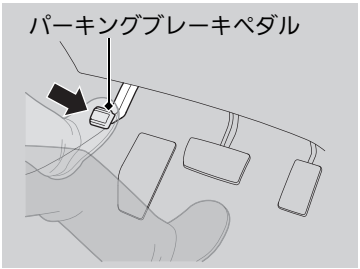
車に合ったフロアマットをお使いください。

エンジンの始動



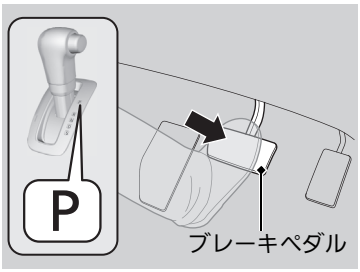
電子制御パーキングブレーキ装備車

1. パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げる。
   ▶ パーキングブレーキがかかっていると、スイッチのインジケーターとメーター内のブレーキ警告灯(レッド)が約 30 秒間点灯します。



電子制御パーキングブレーキ非装備車

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認する。



共通

2. シフトポジションが P であることを確認し、右足でブレーキペダルをしっかりと踏む。
   ▶ N でも始動できますが、安全のため駆動輪が固定される P で行ってください。
3. アクセルペダルを踏まずに、
   ENGINE START/STOP を押す。

⚠警告

バッテリー液が不足しているときは、エンジンを始動しない。
バッテリーが破裂するおそれがあります。

⚠注意

エンジンを始動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。

寒いときのエンジンの始動は、すべての電気アクセサリーを OFF にしてから行います。
寒いときのエンジンの始動は、バッテリーの消耗を防ぐためライト類、エアコン、リヤデフロスターなどの電気アクセサリーをすべて OFF にしてから行ってください。

■ エンジンの停止

1. シフトポジションを P にする。
2. ENGINE START/STOP を押す。

排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えないときは、排気系や燃料系の異常が考えられます。
Honda 販売店で点検を受けてください。

■ 発進時の操作

⚠注意

アクセルペダルを踏んだまま、シフトポジションを操作しない。
急発進して思わぬ事故の原因となります。

電子制御パーキングブレーキ装備車

下り坂の場合、アクセルペダルを踏まずにパーキングブレーキを手動で解除すると、よりスムーズに発進することができます。

■ヒルスタートアシストシステム

急な坂道からの発進をするときに、ブレーキペダルから足を離した後、ブレーキ力を約 1 秒間保持することで車両の後退を緩和し、発進を容易にするシステムです。

緩やかな坂道ではシステムが作動しないことがあります。

走行時の注意点

走行中はエンジンを停止しないでください。
下記のような状態になり危険です。
- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる

走行中はセレクトレバーを N にしないでください。
エンジンブレーキが全く効かず、思わぬ事故の原因となります。

1,000km 走行するまでは、エンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け、控えめな運転をしてください。

■ その他の注意点

7 速マニュアルシフトモード装備車

⚠注意

シフトダウンする際の車速には、十分注意する。
滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。

アドバイス

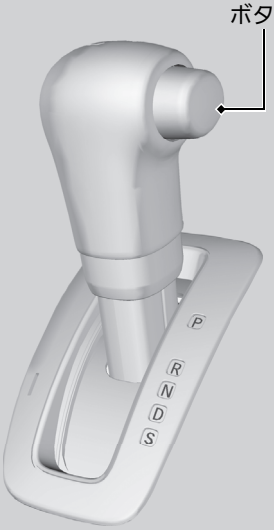
停車中や極低速のときハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけ保持するなどして EPS（電動パワーステアリング）システムの温度が上昇すると、システム保護のためパワー装置のはたらきを制限するので、ハンドル操作が徐々に重くなります。
システムの温度が下がると復帰しますが、システム保護がはたらくような使いかたを断続的に繰り返すと、システム破損の原因となります。

無段変速オートマチックについて

上り坂での停車時、クリープ現象による前進の力よりも、後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退する場合があります。
ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。

シフト操作

走行状態に応じてセレクトレバーで切り換えます。



P パーキング
駐車またはエンジンの始動

R リバース
車を後退

N ニュートラル
駆動力が伝達されない状態

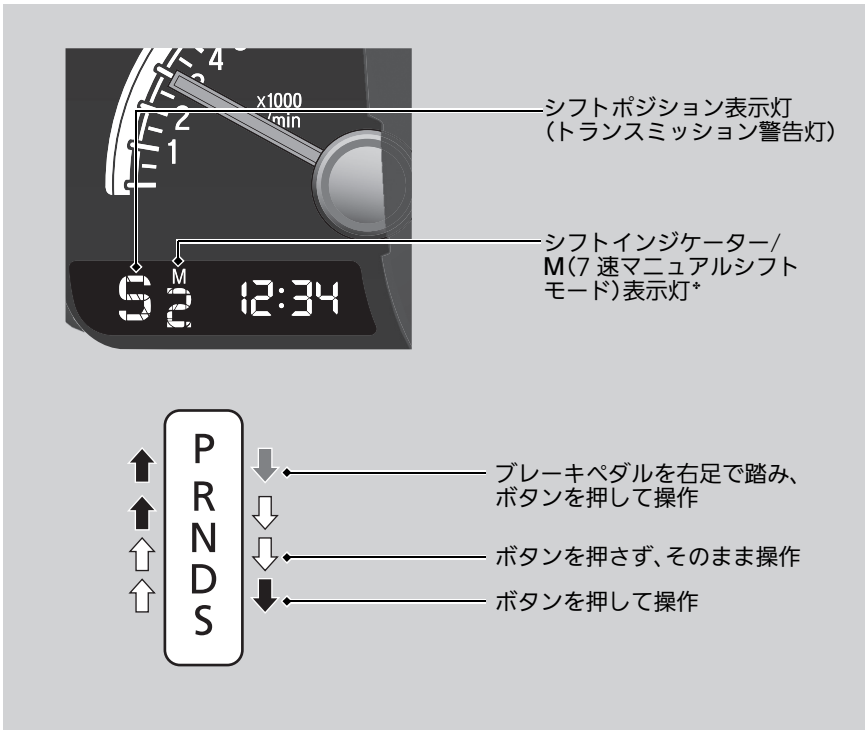
D ドライブ
- 通常走行
- 一時的に 7 速マニュアルシフトモード* にするとき

S ドライブ(S)
- 高回転領域を有効に使用
- 上り坂や下り坂を走行するとき
- 7 速マニュアルシフトモード* にするとき

R のときは、チャイム音が鳴り運転者にセレクトレバーが R に入っていることを知らせます。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ セレクトレバーの操作



アドバイス

前進から後退、後退から前進するときは車を完全に止め、ブレーキペダルを踏んだままセレクトレバーを操作してください。

車が完全に止まっていない状態でレバーを操作すると、トランスミッションを破損するおそれがあります。

車を発進させるときは、思い違いによる事故を防ぐためにシフトポジション表示灯でもセレクトレバーの位置を確認してください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■7 速マニュアルシフトモードとは

ハンドルにあるシフトスイッチで、ハンドルから手を離さずに手動で 1 ～ 7 速まで変速することができます。走行中にシフトスイッチを引くと、7 速マニュアルシフトモードへ切り換わります。エンジンブレーキが必要なときにも、使用してください。

■シフトポジションがDのとき

一時的に 7 速マニュアルシフトモードとなり、シフトインジケーターが点灯します。
一定速走行や加速の状態になると、7 速マニュアルシフトモードは自動的に解除されます。また、＋のシフトスイッチ（右側）を数秒間引き続けることでも解除することができます。
カーブの手前など、一時的に減速したいときに便利です。

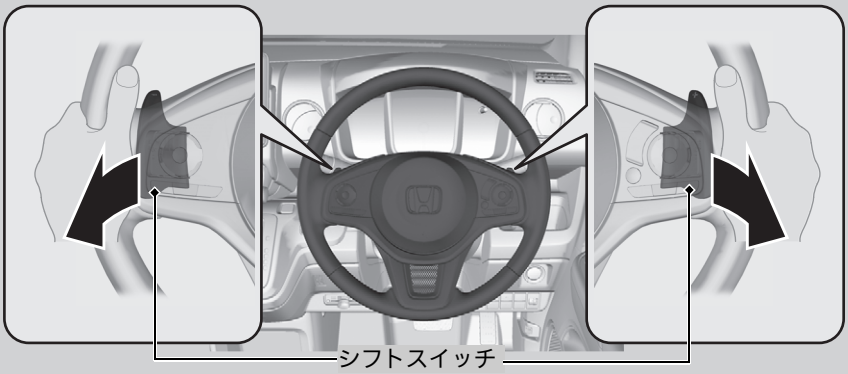
■シフトポジションがSのとき

7 速マニュアルシフトモードとなり、**M** 表示灯とシフトインジケーターが点灯します。シフトスイッチを操作せずに車速が下がると、順次低速段に自動的にシフトダウンし、停止すると 1 速にシフトダウンします。
車速が上がりエンジン回転数が限界回転数（レッドゾーン）に近づくと、自動的に 1 段シフトアップします。
モードを解除する場合は、セレクトレバーをSからDに動かすか、＋のシフトスイッチ（右側）を数秒間引き続けてください。7 速マニュアルシフトモードが解除され、**M** 表示灯とシフトインジケーターが消灯します。

シフトスイッチ装備車

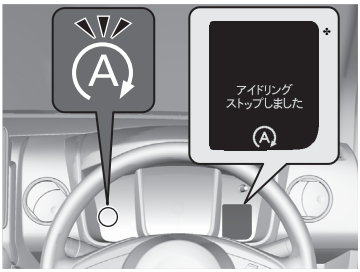
■7速マニュアルシフトモードの操作

1回のシフトスイッチ操作で、ギヤは1段変速します。



アイドリングストップシステム

燃費向上やアイドリング騒音低減のために、停車する直前もしくは停車時にアイドリングストップしたり、エンジンが自動的に再始動するシステムです。アイドリングストップ中は、表示灯(グリーン)が点灯します。

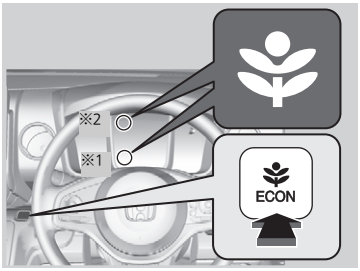


表示灯(グリーン)が点灯しているときに運転席ドアを開けるとブザーがなり、アイドリングストップしていることを知らせます。

アイドリングストップシステム装備車に適合したバッテリーを使用しています。
指定されたバッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化やアイドリングストップが作動しにくくなる可能性があります。
交換時は指定されたバッテリーを使用してください。
詳しくは Honda 販売店にご相談ください。

➡ **仕様** P.254, 256

■ アイドリングストップシステムの ON/OFF



アイドリングストップシステムの作動を停止にするには、ECON スイッチを押してください。
ECON 表示灯が消灯し、アイドリングストップシステムの作動が停止します。

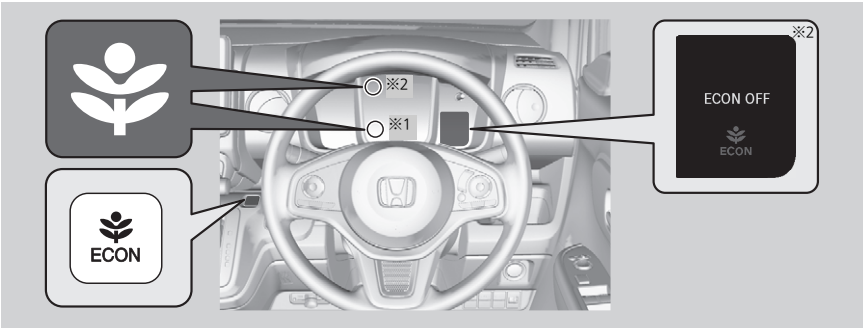
※1: インフォメーションディスプレイ装備車
※2: マルチインフォメーションディスプレイ装備車

アイドリングストップ中に ECON スイッチを押すと、エンジンが再始動します。

➡ **アイドリングストップに関する条件については左の QR コードから詳細取扱説明書(HTML 版)を参照してください。**

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

ECON スイッチ



※1: インフォメーションディスプレイ装備車
※2: マルチインフォメーションディスプレイ装備車

パワーモードを ON モードにしたときは、常に ECON モードが ON になり、メーター内の表示灯が点灯し、運転の状況に応じて省燃費制御に切り換わります。
エンジン、オートエアコンの作動を制御して、省エネ運転をしやすくするように制御します。

VSA(ビークルスタビリティアシスト)

VSA とは、ABS 機能、TCS 機能および横滑り抑制機能を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。

■ ABS(アンチロックブレーキシステム)機能 ➔ P.189

■ TCS(トラクションコントロールシステム)機能

滑りやすい路面などでの駆動輪の無駄な空転を防止し、駆動力、操舵能力を確保しようとする機能です。

■ 横滑り抑制機能

急激なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、車輪の横滑りなどを抑制することで車両の安定性を確保しようとする機能です。

さらに、緊急制動時に運転者のブレーキ操作を補助する電子制御ブレーキアシストも装着しています。

➔ **電子制御ブレーキアシスト** P.189

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、VSA が正常に機能しないことがあります。

タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

VSA 警告灯が運転中に点灯するときや、パワーモードを ON モードにしても点灯しない場合は、システムの異常が考えられます。

通常の運転には支障はありませんが、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

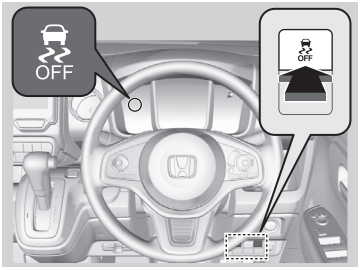
VSA が作動した状態でも車両の安定性の確保には限界がありますので、無理な運転はしないでください。

- カーブ手前では十分に速度を落とす
- 雪道、凍結路を走行するときは、スノータイヤまたはタイヤチェーンを装着し控えめな速度で運転する

■ VSA の作動と警告灯

TCS 機能または横滑り抑制機能作動中は、VSA 警告灯が点滅します。

■VSA の ON と OFF



VSA 機能を部分的に停止(OFF)状態にするには、[OFF]を「ピッ」とブザーが鳴るまで押してください。
TCS機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなります。

アジャイルハンドリングアシスト

運転者のハンドル操作に応じて、4 輪それぞれに軽いブレーキをかけることで、車両の動きを滑らかにし、安定感のあるコーナリングを可能とする機能です。

アジャイルハンドリングアシストはすべての走行条件で安定性を向上させる機能ではありません。安全のために、カーブ走行時は状況に応じた適正な速度で、十分に車間距離をとって走行してください。

走行中に VSA 警告灯が点灯したままのときは、アジャイルハンドリングアシストが作動しません。

4WD(四輪駆動機構)*

4WD(四輪駆動機構)は、積雪地、砂地、ぬかるみ、急坂路など滑りやすい路面において、2WD車(二輪駆動車)に比べて走破性にすぐれていますが、万能ではありませんので以下の点に注意してください。

- アクセル、ハンドル、ブレーキ操作は一般の車と同じく慎重に行う
- 砂地、ぬかるみなど、車輪が空転しやすい場所での連続走行はしない
- 渡河などの水中走行はしない
- ブレーキ性能は 2WD 車と比べてほとんど差がないため、滑りやすい路面では十分に車間距離をとって走行する

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、4WD が正常に機能しないことがあります。

タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

ホンダセンシング*

フロントロアグリル内に設置されたレーダーセンサーと、フロントウィンドー内上部に設置されたフロントセンサーカメラと、リヤバンパーに設置されたソナーセンサーの、特性の異なる3種類のセンサーで構成された運転支援システムです。

ホンダセンシングには、次の機能があります。

■作動させるためにスイッチ操作が不要な機能

- 衝突軽減ブレーキ（CMBS） ➔P.132
- 誤発進抑制機能 ➔P.138
- 後方誤発進抑制機能 ➔P.140
- 歩行者事故低減ステアリング ➔P.142
- 路外逸脱抑制機能 ➔P.167
- 先行車発進お知らせ機能 ➔P.172
- 標識認識機能 ➔P.174
- オートハイビーム ➔P.94

■作動させるためにスイッチ操作が必要な機能

- 渋滞追従機能付 ACC（アダプティブクルーズコントロール） ➔P.147
- LKAS（車線維持支援システム） ➔P.161

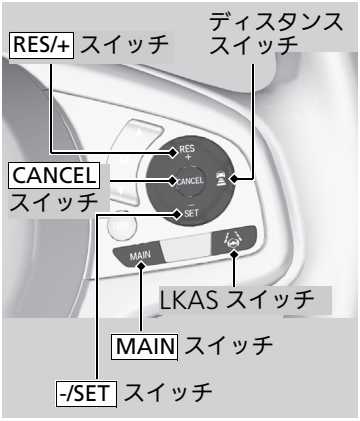
⚠警告

ホンダセンシングは、補助システムとして使用してください。
自動運転システムではありません。
あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。
各機能の能力（認識能力・制御能力）には限界があります。
機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。常に周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を心がけ走行してください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

各機能を作動させるためのスイッチと表示

■ ステアリングスイッチ



■ MAIN スイッチ
渋滞追従機能付 ACC および LKAS の待機状態の設定を行います。

■ LKAS スイッチ
LKAS の ON と OFF の設定を行います。

■ RES/+ スイッチ / -/SET スイッチ
渋滞追従機能付ACCの車速のセットと復帰、設定車速の調整を行います。

■ ディスタンススイッチ
車間距離の設定を行います。

■ CANCEL スイッチ
渋滞追従機能付 ACC の解除を行います。

■ マルチインフォメーションディスプレイの表示



渋滞追従機能付 ACC および LKAS の現在の状態を表示します。

1. 渋滞追従機能付 ACC および LKAS の待機状態
2. LKAS の ON と OFF の状態と制御状態
3. 前走車の検知状態
4. 設定車速
5. 設定車間

衝突軽減ブレーキ(CMBS)

自車が、前方の車両のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときや、対向車に正面から衝突するおそれがあるとき、歩行者および人が乗車し移動している自転車(移動する自転車)に衝突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。

⚠警告

衝突軽減ブレーキ(CMBS)は、あらゆる状況で衝突を回避できるシステムではありません。レーダーやカメラは天候や速度、路面状況によって検知しにくいことがあります。

取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を行ってください。

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **レーダーセンサー** P.179

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **フロントセンサーカメラ** P.178

アクセルペダルの踏み込み量が大きいときに、システムが作動しない場合があります。

以下の場合、CMBS が自動的に停止し、警告灯が点灯することがあります。

- 山岳路や悪路を長時間走行したとき
- 雨、霧、雪などの悪天候になったとき
- パーキングブレーキをかけて走行したとき
- カメラの温度が高温になっているとき
- フロントロアグリルまたはフロントガラスがほこり、泥、落ち葉、湿った雪などで覆われているとき
- タイヤの異常を検出したとき

CMBS が作動できる状態になると、CMBS は自動復帰します。

車両の整備や検査の際に、シャシーダイナモやフリーローラーを使用するときは CMBS を OFF にしてください。

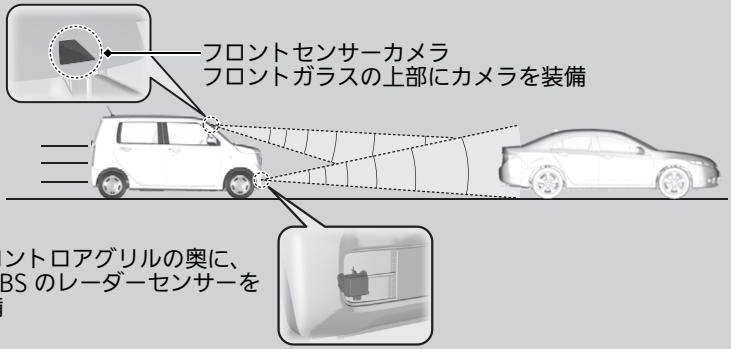
頻繁に警報が作動するなど、システムに異常を感じたときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

サスペンションの改造はしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを使用すると、システムが正常に作動しないおそれがあります。

■システムの作動

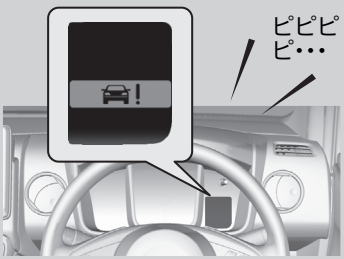
自車の車速が約 5km/h 以上になるとレーダーセンサーとカメラが前方の車両、歩行者および移動する自転車の検知を開始。



自車との速度差が約 5km/h 以上ある車両、歩行者および移動する自転車に対して衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。
対向車両、停止車両、歩行者および移動する自転車に対しては、自車が約 100km/h 以下で走行中に衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。
CMBS が作動し、停車した後または衝突のおそれがなくなったと判断した後に、CMBS は解除されます。
なお、衝突を回避しようとして、運転者がハンドル、ブレーキペダル、アクセルペダルを操作したときは、システムが解除されることがあります。

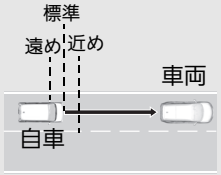
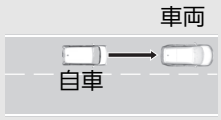
■CMBS の警告のしかた

以下の方法により、CMBS は衝突のおそれがあることを、運転者に知らせます。
- マルチインフォメーションディスプレイの警告表示や警告ブザーが発生します



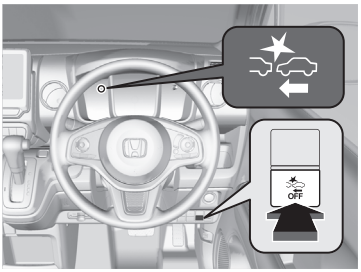
■CMBS 作動の流れ

CMBSの作動には衝突の可能性に応じ3つの段階があります。しかし、状況によっては途中の段階から作動することがあります。

車両と自車の距離		状況	ブザーと表示による警告	ブレーキ
第1段階		車両への衝突のおそれがでてきた状況	警告表示が2回点滅するさらに接近すると、警告表示およびブザーによる警報を行う ▶衝突警報距離を変更することができます。	—
第2段階		衝突の危険が増し、衝突するまでの余裕が少なくなった状況	警告表示およびブザーによる警報を行う	軽いブレーキ
第3段階		回避が困難な状況		強いブレーキ

※: CMBS によるブレーキが作動しているときは制動灯が点灯します。

■CMBS の ON と OFF



CMBS OFFスイッチを「ピーッ」とブザーが鳴るまで押すことで、システムの ON と OFF を切り換えます。

CMBS が OFF に切り換わったとき CMBS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「CMBS OFF」とメッセージが表示されます。

CMBS を OFF にした状態でパワーモードを OFF にした場合でも、再度パワーモードをONにすると自動的に ON になります。

次のような場合、レーダーセンサーやカメラが車両、歩行者および移動する自転車や路面状況を検知できず、CMBS が正常に作動しない場合があります。

■環境によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 逆光のとき
- 強い光が車両、歩行者、移動する自転車および路面に反射しているとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車両、歩行者および移動する自転車の全体が照らされていないとき

■道路の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、坂道などのとき
- 路面に水溜りや水膜があるとき
- 雪道や未舗装路などわだちのある道路のとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両、歩行者および移動する自転車の周囲に電波を強く反射する物があるとき

■自車の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- フロントロアグリルが汚れているとき
- フロントガラスの曇り、雨粒、シールなどでカメラ前方が覆われているとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 適正なタイヤを使用していないとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき

■前方の車両、対向車両、歩行者および移動する自転車の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 前方の車両、対向車両、歩行者および移動する自転車との距離が極端に短いとき
- 前方に車両、対向車両、歩行者および移動する自転車が急に割り込んできたり、飛び出してきたとき
- 自転車が停止しているとき
- 前方の車両、対向車両が横向きのとき
- 歩行者や移動する自転車が背景に紛れて検知できないとき
- 歩行者や移動する自転車が集団で前方にいるとき
- 歩行者や移動する自転車の横断速度が速いとき
- 歩行者や移動する自転車が対向して接近してきたとき
- 暗がりで前方の車両、対向車両が無灯火のとき
- 歩行者の一部(頭や手足など)が荷物などによりかくれているとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者がベビーカーや自転車などを押しているとき

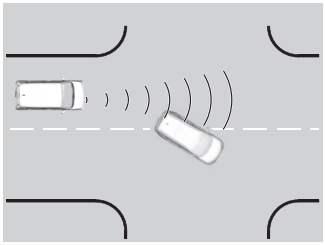
■その他検知、作動できない事例

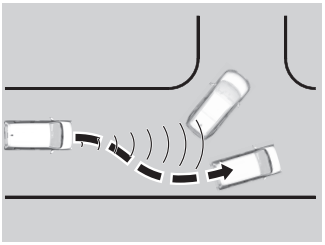
- 二輪車、特殊な形状の車両および車いす
- 前方の車両、対向車両、歩行者および移動する自転車が自車の正面にいないとき
- 前方の車両、対向車両、歩行者および移動する自転車と自車との速度差が大きいとき
- 前方の車両や移動する自転車が急減速したとき
- 運転者が衝突を回避しようとして、ブレーキやハンドルを操作したとき
- 運転者が急加速やハンドル操作をしながら、前方の車両、対向車両、歩行者および移動する自転車に接近したとき
- 子供用自転車、折り畳み自転車および三輪車などのタイヤ径が小さい自転車やタンデム自転車などの全長が長い自転車
- 歩行者のかたちとしてカメラが正しく検知できないとき

■ 衝突の可能性のない場合の作動について

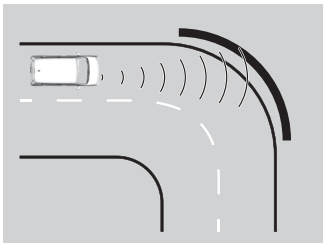
衝突の可能性がなくても、以下のとき、CMBS が作動することがあります。

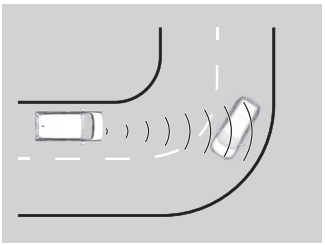
- 左折、または右折している前方車両がいるとき、または右左折待ちの車両がいるとき
- 前走車を追い越すときに車両に接近して走行する場合
- 交差点などで車両に接近して走行する場合





- 低いゲートや狭いゲートなどの間を規制速度を越えるような速度で通過しようとするとき
- 段差のある道路、線路、工事の鉄板などの上を走行するとき
- カーブ途中の道路脇に標識やガードレールなどがあるとき
- カーブ走行などで自車の正面に対向車がいるとき



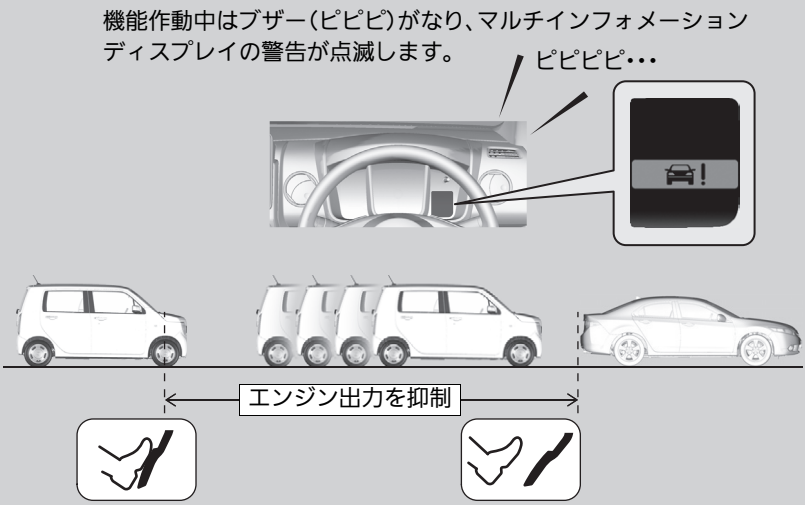


- 駐車時など、停止している車両や壁に接近するとき

誤発進抑制機能

フロントロアグリルの奥に設置してあるレーダーセンサーとフロントガラス上部に設置してあるカメラによって、停車時や約10km/h以下で走行しているとき、自車のほぼ真正面の近距離に車両などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを踏み込んだ場合に、エンジン出力を抑制し、急な発進を防止するとともに、音と表示で知らせる運転支援機能です。
なお、急な坂道やシフトポジションが、P、R、Nのときは、作動しません。

作動状態



⚠警告

誤発進抑制機能はあらゆる状況でアクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる衝突を軽減したり防止できるものではありません。
機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。
運転者がセレクトレバーやペダルの位置および周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ走行してください。

誤発進抑制機能は、CMBS と同じセンサーを使用しています。CMBS を OFF にしているときは、誤発進抑制機能は作動しません。また、誤発進抑制機能を正常に作動させるために守ること、正常な作動ができない状況、衝突の可能性のない場合の作動やレーダーセンサーの取り扱いなどは、CMBS と同じです。

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **レーダーセンサー** P.179

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **フロントセンサーカメラ** P.178

誤発進抑制機能が作動し、道路上の段差を乗り越えることができない場合には CMBS を OFF にしてください。

踏切内に閉じ込められたときは、遮断機を障害物として検知することがあります。そのときは、慌てずにアクセルペダルを踏み続けるか、CMBS を OFF にして遮断機を押しのけてください。

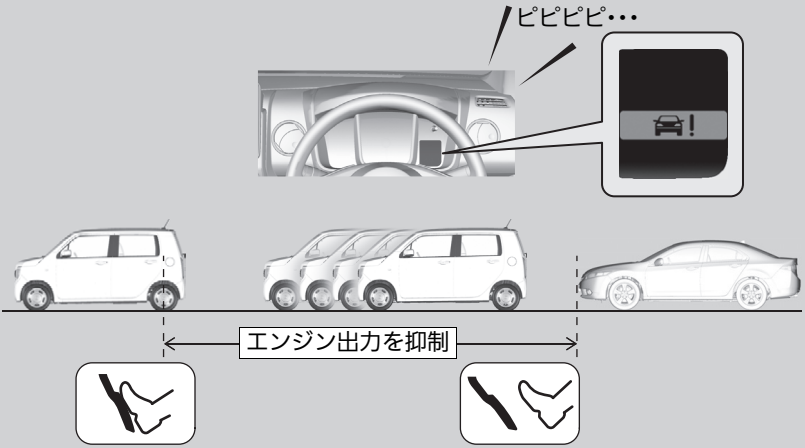
■作動解除の条件
- アクセルペダルを離したとき
- アクセルペダルを約 4 秒間踏み続けたとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
- ハンドルを操作して、衝突を避けようとしたとき
- CMBS を OFF にしたとき

後方誤発進抑制機能

リヤバンパーに設置してあるソナーセンサーによって、停車時や約 10km/h 以下で後退しているとき、自車のほぼ真後ろの近距離に車両などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを踏み込んだ場合に、エンジン出力を抑制し、急な後退を防止するとともに、音と表示で知らせる運転支援機能です。
なお、急な坂道やシフトポジションが R 以外のときは、作動しません。

作動状態

機能作動中はブザー(ピピピ)が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイの警告が点滅します。



アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急な後退を防止
アクセルペダルの踏み込み量が少ないときは作動しません。

アクセルペダルを離す
安全のため、必要に応じてブレーキペダルを踏んでください。

⚠警告

後方誤発進抑制機能はあらゆる状況でアクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる衝突を軽減したり防止できるものではありません。
後方誤発進抑制機能は停止状態を保つことができるものではありません。
機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。
運転者がセレクトレバーやペダルの位置および周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ走行してください。

後方誤発進抑制機能は CMBS を OFF にしているときは作動しません。また CMBS に異常があるときも同様に作動しません。

踏切内に閉じ込められたときは、遮断機を障害物として検知することがあります。そのときは、慌てずにアクセルペダルを踏み続けるか、CMBS を OFF にして遮断機を押しのけてください。

後方誤発進抑制機能が作動し、道路上の段差を乗り越えることができない場合にはCMBS を OFF にしてください。
作動中は後退を知らせるチャイム音は鳴りません。

ソナーセンサーの取扱いについては下記を参照してください。
➔ **ソナーセンサー** P.180

サスペンションの改造はしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを使用すると、システムが正常に作動しないおそれがあります。

■作動解除の条件
- アクセルペダルを離したとき
- アクセルペダルを約 4 秒間踏み続けたとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
- CMBS を OFF にしたとき

次のような場合、ソナーセンサーが障害物を検知できず、後方誤発進抑制機能が正常に作動しない場合があります。

■自車の状態によりソナーセンサーが正しく検知できない事例
- ソナーセンサーが汚れているとき（雪、氷、泥などで覆われているとき）
- 車両が高温または低温の状況にあるとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき

■環境によりソナーセンサーが正しく検知できない事例
- 悪天候のとき
- 凸凹な路面や、草地、段差があるとき
- 近くに超音波を発するものがあるとき

■後方の障害物の状態によりソナーセンサーが正しく検知できない事例
- 雪、布、スポンジなど吸音しやすい材質があるとき
- 障害物が細いとき、または低いとき
- 障害物がバンパーのすぐ近くにあるとき
- 進路上に障害物が飛び出してきた場合など移動する物体のとき

歩行者事故低減ステアリング

レーダーとカメラにより歩行者と白線(黄線)を検出し、ステアリング操作を支援することにより運転者の衝突回避操作を促します。

⚠警告

歩行者事故低減ステアリング機能は、運転者の運転操作を支援するシステムです。
あらゆる状況での歩行者事故を、軽減したり回避できるものではありません。

取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

運転者は周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

車線内を走行していないときは、歩行者事故低減ステアリング機能は作動しません。

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **レーダーセンサー** P.179

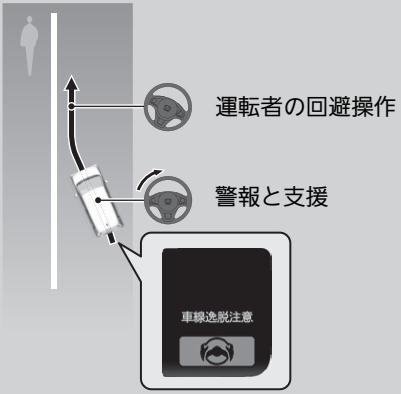
フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **フロントセンサーカメラ** P.178

■ システムの作動



カメラが車線を認識し、
レーダーとカメラにより
歩行者を検出します



路肩の歩行者との衝突のおそれがある場合、表示と警報音で警報し、さらにステアリング支援で回避操作を促すので、必ず回避行動をとってください。
車両と歩行者の位置関係によってはCMBS の作動が優先される場合があります。

■ システムの作動条件

歩行者事故低減ステアリングは以下の状態で作動します。

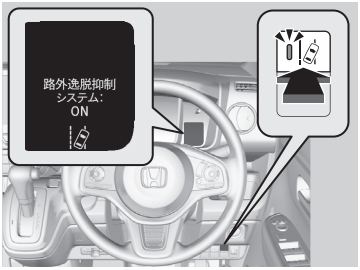
- 歩行者が路肩を歩行しているときに、車両がその歩行者に向かって車線から逸脱していくとき
- 実線の白線(黄線)が連続しているとき
- 車速が約 10 ～ 40km/h で走行しているとき
- 直線の道路を走行しているとき

歩行者事故低減ステアリングは以下の状態では作動しません。

- ワイパーを連続で作動させているとき
- 方向指示器(ウィンカー)を出しているとき

運転者による操作が行われているときには支援が感じられないことがあります。

■ システムの ON と OFF



歩行者事故低減ステアリングは、路外逸脱抑制機能が ON のときに作動します。
路外逸脱抑制スイッチを押して、歩行者事故低減ステアリングの ON と OFF を切り換えてください。

▶ ON のときは、路外逸脱抑制スイッチのインジケーターが点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

カスタマイズ機能で「操舵アシストなし　警報のみ」を選択した場合、歩行者事故低減ステアリングはステアリング制御を行いません。

■ 歩行者事故低減ステアリングシステムの条件と制限

以下の条件で、歩行者事故低減ステアリングの支援が遅れたり、支援できない場合があります。
運転者が周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

■環境によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 白線（黄線）と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が歩行者や路面に反射しているとき
- トンネルの出入り口など、周辺の明るさが急に変わるとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- 白線（黄線）の付近に影が映っているとき（木々、建物、ガードレール、車両など）
- 夜間やトンネル内などの暗いところ
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■道路の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線(黄線)のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線(黄線)が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線(黄線)や歩行者を正しく認識できないとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、歩行者の周囲に電波を強く反射する物があるとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき

■自車の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- 衝突を回避しようとして、運転者がブレーキやステアリングを操作したとき
- フロントロアグリルが汚れているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 先行車との車間距離が短いとき

■歩行者の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

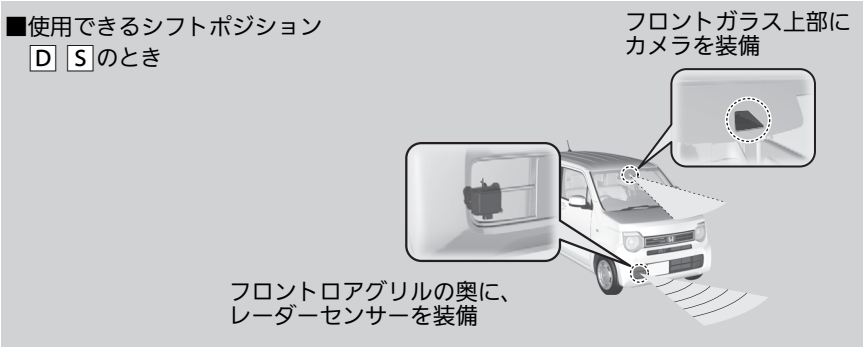
- 自車の前方に歩行者が飛び出すなど、歩行者が急に見え始めたとき
- 歩行者の一部(頭や手足など)が荷物などによりかくれているとき
- 歩行者が背景に紛れて、カメラが歩行者を検知できないとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者が集団で前方にいるとき

■その他、作動できない事例

- 急加速やステアリング操作をしながら、前方の歩行者に接近したとき
- 歩行者のかたちとしてカメラが正しく検知できないとき
- 自転車や二輪車、車いす、特殊な形状の車両などのとき

渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)

渋滞追従機能付 ACC は、フロントロアグリルの奥に設置してあるレーダーセンサーとフロントガラス上部に設置してあるカメラが先行車との車間距離を測定して、高速道路の渋滞時に適切な加減速を行い、設定車間距離を保持しながら、運転者がアクセルやブレーキを操作せずに走行、停車出来るよう支援するシステムです。
渋滞追従機能付 ACC によるブレーキが作動しているときは、制動灯が点灯します。



ブレーキペダルを操作しての減速中や、パーキングブレーキがかかっているときは、渋滞追従機能付 ACC は作動しません。
悪天候などで、レーダーセンサーが先行車との車間距離を測定できないときは、システムが作動しないことがあります。

⚠警告

渋滞追従機能付 ACC の不適切な使用は事故につながります。取扱説明書の操作手順に従い操作してください。
高速道路や自動車専用道路でのみ使用してください。

⚠警告

渋滞追従機能付 ACC は、補助システムとして使用してください。渋滞追従機能付 ACC は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

⚠警告

渋滞追従機能付 ACC の作動中に停車した車両から、適切な駐車操作無しで外に出ると車両が操作無しで動き出す可能性があります。
適切な駐車操作無しで動く車両は、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。
渋滞追従機能付 ACC で停車した車両から絶対に外に出ないでください。

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **レーダーセンサー** P.179

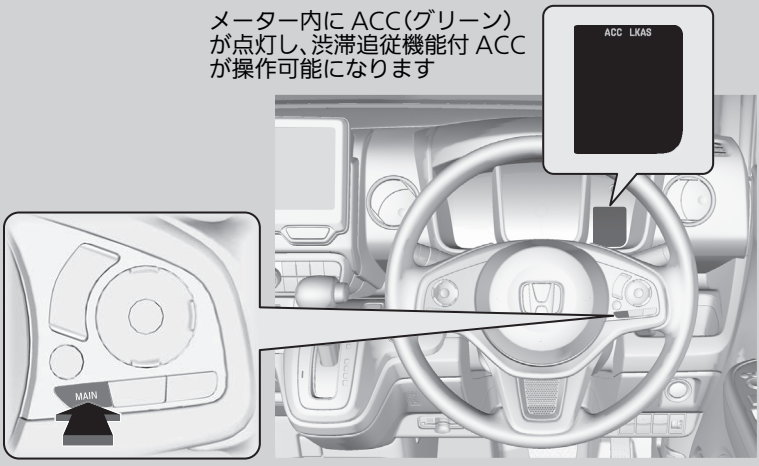
フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **フロントセンサーカメラ** P.178

使用上の注意:

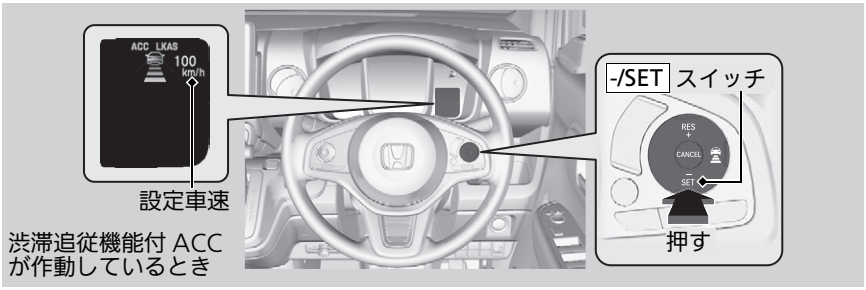
渋滞追従機能付 ACC は、運転者を支援するシステムです。天候や環境などによって機能しないことがあります。必要なときはブレーキペダルを使用し、常に安全な車間距離を保ってください。

■システムを作動させるには



■ハンドルの MAIN スイッチ
を押す

■ 車速をセットするには



ブレーキペダルを操作していないときに -/SET スイッチを押すと現在の車速が設定車速とされ、渋滞追従機能付 ACC が作動し、マルチインフォメーションディスプレイにアイコンや設定車速が表示されます。

車速が 30km/h 以下で走行しているとき：

先行車を検知している場合のみ作動することができ、現在の車速にかかわらず設定車速が約30km/hに設定されます。車両が動いていない場合は、ブレーキペダルを踏んでいても作動することができます。

MAIN スイッチを押すと、渋滞追従機能付 ACC と LKAS の両方が ON と OFF に切り換わります。

下記の状況のときは、渋滞追従機能付 ACC を使用しないでください。

- 交通量の多い道路や頻繁に加減速を繰り返すような交通状況では、交通状況にあった速度で走行できません。
- 急カーブのある道では道路状況にあった速度で走行できません。
- 急な下り坂では設定車速を超えてしまう場合があります。このような場合は、渋滞追従機能付 ACC によるブレーキは作動しません。
- 高速道路などで、料金所、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに進入するときは、自車の前から先行車がいなくなることで設定車速まで加速を始めてしまいます。
- 悪天候（雨、霧、雪など）のときは先行車との車間距離を正確に測定できません。
- 凍結路や積雪路などの滑りやすい路面ではタイヤが空転して車のコントロールを失うおそれがあります。

■ 渋滞追従機能付 ACC の作動

■先行車がいるとき

渋滞追従機能付 ACC は先行車がレーダーセンサーの検知範囲に入ると、先行車の車速変化に合わせ、設定車速の範囲内で車間距離を保ちながら追従走行します。



渋滞追従機能付 ACC の検知範囲:120m



マルチインフォメーション
ディスプレイに車のアイコン
が表示されます

設定車速より遅い速度で走行する先行車や割り込み車が前方にあらわれた場合、システムは減速制御を行います。

■先行車がいないとき



マルチインフォメーション
ディスプレイに点線の車の
アイコンが表示されます

先行車がいない場合、設定した車速で定速走行します。
先行車が車線変更などでいなくなると、設定車速までゆるやかに加速後、定速走行します。

■アクセルペダルを踏んだとき

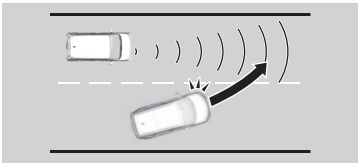
- アクセルペダルを踏み込むと、渋滞追従機能付ACCが一時的に解除され車速が上がります。このとき、渋滞追従機能付 ACC の警告範囲内に先行車がいても警告音やマルチインフォメーションディスプレイの警告表示はでません。
- アクセルペダルを離すと、渋滞追従機能付ACCが復帰し追従走行または定速走行を再開します。

■先行車が減速して停車するとき

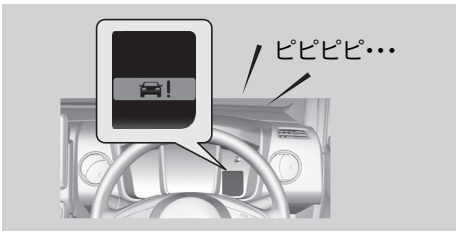


先行車が停車すると、自車も自動で停車します。マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
先行車が動き始めると、マルチインフォメーションディスプレイのアイコンが点滅します。RES/+ スイッチまたは -/SET スイッチを押すか、アクセルペダルを踏むことで発進し、以前の設定車速の範囲内で追従走行します。

先行車が急減速したり、遅い車両が割り込んできたときは、警告音が鳴りマルチインフォメーションディスプレイの警告で視覚への警告が表示されます。



ブレーキを踏み、適切な車間距離を保ってください。

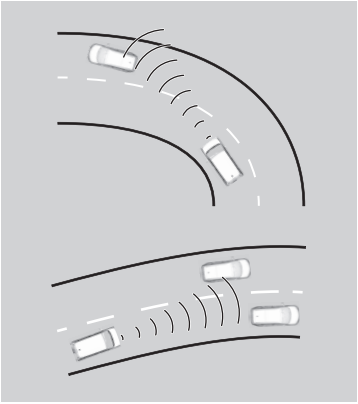


先行車または割り込み車の車速が自車よりも速く、次第に離れていく場合、先行車との距離が短くても警報が出ず、そのまま追従することがあります。

制限:
安全な車間距離を保つために、渋滞追従機能付 ACC を使用中でもブレーキペダルを使用しブレーキをかける必要があります。また、天候や環境などにより渋滞追従機能付 ACC が適切に作動しないことがあります。

➡ **渋滞追従機能付 ACC の条件と制限** P.152
➡ **車間距離を設定するには** P.156

- 道路状況(カーブなど)や自車の状況(ハンドル操作や車線内の位置)によっては、一時的にとなりの車線の車や周囲の物に対して車間距離制御を行う場合があります。



- 先行車がインターチェンジやサービスエリアなどに入る際、自車の前から先行車がいなくなるときは、車間距離制御が少しの間継続する場合があります。

■ 渋滞追従機能付 ACC の条件と制限

一定の条件でシステムは自動解除し、渋滞追従機能付 ACC 警告灯が点灯する場合があります。以下の条件では渋滞追従機能付 ACC の機能の一部を発揮できない場合があります。

➔ フロントセンサーカメラ P.178

■環境によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

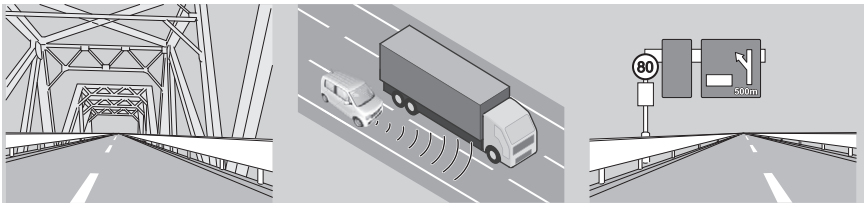
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 先行車による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■道路の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、坂道などのとき



- 雪道や未舗装路などわだちのある道路
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両の周囲に電波を強く反射する物があるとき



■自車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

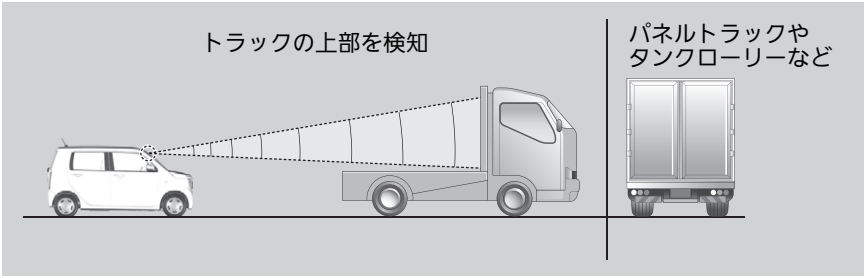
- フロントロアグリルが汚れているとき
- 適正なタイヤを使用していないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

■前方の車両の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

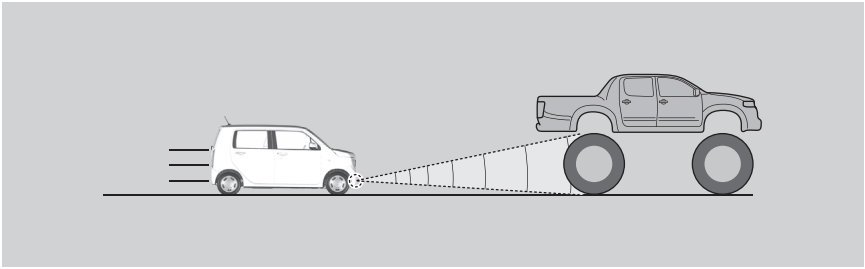
- 自車の前方に車両が急に割り込んだとき
- 前方の車両との距離が極端に短いとき

■ その他、システムが正しく作動しない事例

- 前方の車両が駐停車していたり、自車との速度差が大きいとき
- 前方の車両が急減速したとき
- 前方の車両がパネルトラックや特殊な形状の車両のとき

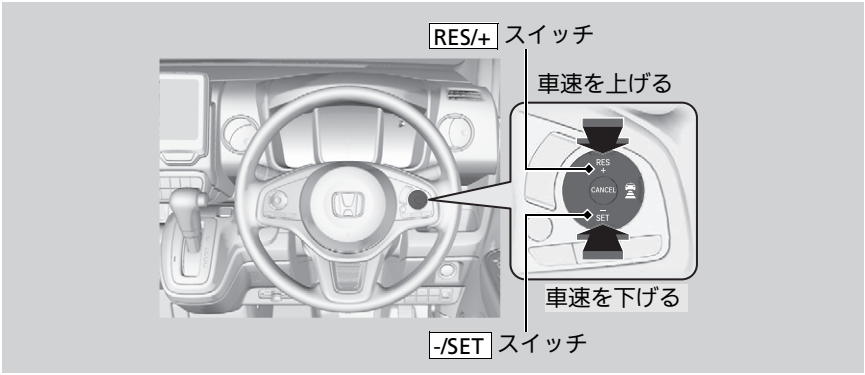


- 自車または前方の車両が、車線の片側にかたよって走行しているとき
- 前方の車両が二輪車など幅の狭い車両のとき
- 前方の車両の最低地上高が極端に高いとき



■ 設定車速を調整するには

手元の RES/+ スイッチと -/SET スイッチの操作で、設定車速を上げ / 下げすることができます。



RES/+ スイッチ

- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が上がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が上がり、手を離したときの設定車速に固定

-/SET スイッチ

- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が下がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が下がり、手を離したときの設定車速に固定

検知した先行車の車速が自車が上げた設定車速よりも遅い場合は、自車の車速を加速させない場合があります。
これは設定した先行車との車間距離を維持するためです。

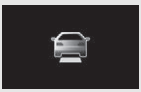
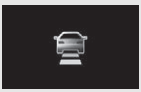
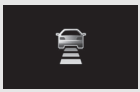
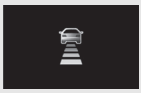
アクセルペダルを踏み、-/SET スイッチを押すと、現在の車速が設定車速になります。

■ 車間距離を設定するには



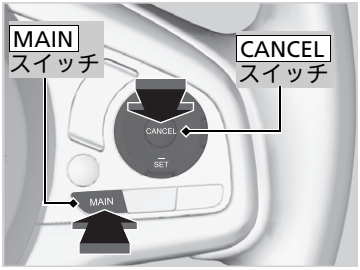
ディスタンススイッチを押し、車間距離を設定します。
先行車との車間距離設定は、4 段階に切り換えることができます。
ディスタンススイッチを押すごとに、最長→長→中→短と切り換わります。
適切な車間距離の設定を決定してください。

車速が低くなるほど、車間距離は短くなります。車間距離の目安は以下の通りです。
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、実際の交通状況に応じて車間距離を選択して、走行してください。

車間距離設定		車速 80km/h のとき	車速 100km/h のとき
短		約 25m	約 30m
中		約 34m	約 42m
長		約 47m	約 59m
最長		約 64m	約 80m

先行車が停車し、自車も自動で停車したときの車間は車間距離設定により変わります。

■ 解除するには



以下のいずれかの操作をすると、渋滞追従機能付 ACC が解除されます。

- CANCEL スイッチを押す
- MAIN スイッチを押す
  ▶ メーター内の ACC(グリーン)が消灯します。
- ブレーキペダルを踏む
  ▶ 停車している場合、ブレーキペダルを踏んでも渋滞追従機能付 ACC は解除しません。

■渋滞追従機能付 ACC の自動解除

次の場合は、マルチインフォメーションディスプレイに「ACC OFF」と表示され、「ピー」とブザーが鳴り、渋滞追従機能付 ACC が自動解除されます。

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- フロントロアグリルが汚れたとき
- 先行車を安定して検知できないとき
- タイヤの異常を検知したとき
- 山岳路や悪路を長時間走行したとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ABS や VSA、または CMBS が作動したとき
- VSA 警告灯が点灯したとき
- 急斜面で停車しているとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- 検知した先行車との車間距離が短すぎるとき
- 停車状態で先行車がいなくなったとき
- 急加速したとき
- フロントガラス上部のカメラまたはカメラ付近が汚れているとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んでいるとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところを走行したとき
- 停車中に運転席のシートベルトを外したとき
- 車両が 10 分以上停車しているとき
- ブレーキシステム警告灯(オレンジ)が点灯したとき

次の場合は、マルチインフォメーションディスプレイに「クルーズキャンセルしました：一時的に使用できません」と表示され、「ピー」とブザーが鳴り、渋滞追従機能付 ACC が自動解除されます。

- 長い下り坂などで減速を繰り返したとき

解除前の設定車速を復帰させるには：

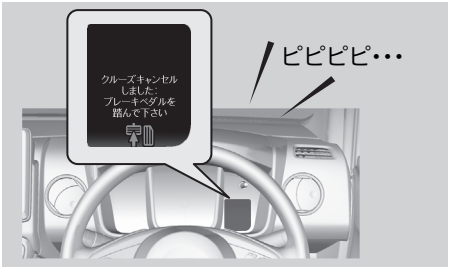
渋滞追従機能付 ACC を解除したあと、停車状態でも RES/+ スイッチを押すと解除前の設定車速で作動を開始することができます。

ただし、以下の場合は復帰しません。

- MAIN スイッチを押して渋滞追従機能付 ACC を OFF したあと
- 30km/h 以下で先行車がいないとき

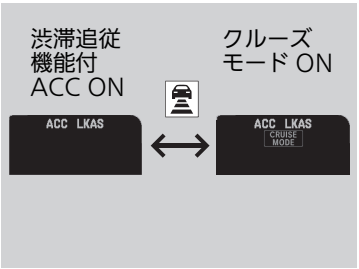
停車中の解除：

渋滞追従機能付 ACC によって自車が自動的に停車しているときに渋滞追従機能付 ACC が解除された場合に、警告音が鳴りマルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。



すみやかにブレーキを踏み、適切な車間距離を保ってください。

■ クルーズモードへの切り換え



ディスタンススイッチを 1 秒間押し続けます。

マルチインフォメーションディスプレイに「クルーズモードに設定しました」と表示された後、クルーズモードに切り換わります。

同時に、マルチインフォメーションディスプレイに CRUISE MODE が表示されます。

再度ディスタンススイッチを1秒間押し続けると、マルチインフォメーションディスプレイに「ACC モードに設定しました」と表示された後、渋滞追従機能付 ACC に戻ります。

■作動条件

約 30km/h 以上で走行しているとき

現在のモードがどちらなのかを常に意識して使用してください。クルーズモード中は先行車との車間距離を保持しません。

以下の場合、モードを切り換えられません。
- 車速をセットしているとき
- MAIN スイッチがオフのとき

クルーズモードへ切り換えた状態でも MAIN スイッチを押して ON にし直すたびに、渋滞追従機能付 ACC に戻ります。

■ 車速をセットするには

希望の車速になったらペダルから足を離し、-/SET スイッチを押します。
-/SET スイッチを離すと、離したときの車速にセットされ自動定速走行になります。



同時に、マルチインフォメーションディスプレイに CRUISE CONTROL と設定車速が表示されます。

■ 設定車速を調節するには

RES/+ スイッチ
- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が上がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が上がり、手を離したときの設定車速に固定

-/SET スイッチ
- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が下がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が下がり、手を離したときの設定車速に固定

■ 解除するには

次の操作をすると、自動定速走行が解除されます。同時に CRUISE CONTROL と設定車速の表示が消えます。

- CANCEL スイッチを押す
- MAIN スイッチを押す
  ▶ メーター内の ACC(グリーン)が消灯します。
- ブレーキペダルを踏む

解除前の設定車速に復帰させる
自動定速走行を解除したあとでも、30km/h以上の車速で走行中に RES/+ スイッチを押すことで、解除前の設定車速の自動定速走行に戻すことができます。
ただし、下記の場合は復帰できません。

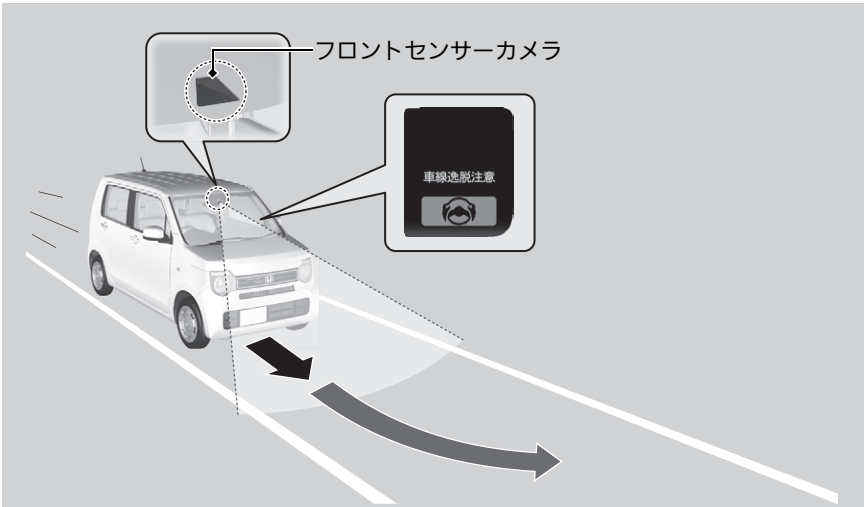
- 車速が 30km/h 未満のとき
- MAIN スイッチで OFF 操作をしたとき

車速が 25km/h 以下になると自動的に自動定速走行が解除になります。

LKAS(車線維持支援システム)

LKAS は、フロントガラス上部に設置してあるカメラによって、左右の白線(黄線)をとらえ、電動パワーステアリングの動きをアシストし、車線維持走行を補助するためのシステムです。

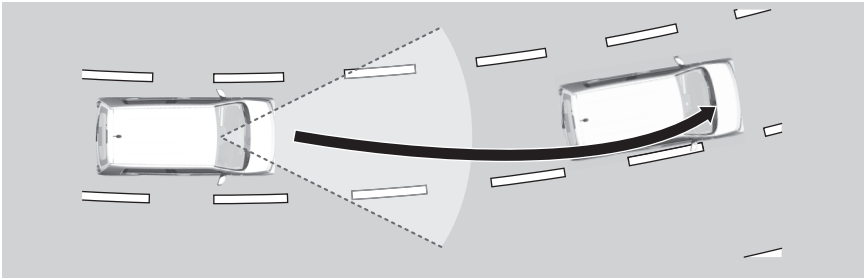
■システムの作動



車線変更する場合は、方向指示器(ウィンカー)を操作すると LKAS が一時解除状態になります。その後、車線の中央を走行しカメラが白線(黄線)を検知すると、LKAS が復帰します。ウィンカーを出さずに車線変更すると、LKAS が解除されず車線逸脱警報が作動します。

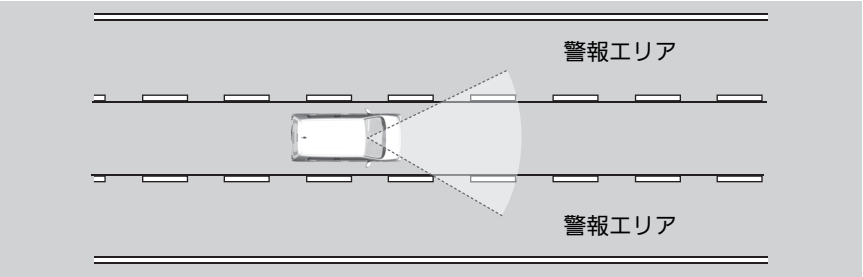
■車線維持支援機能

車が車線中央を走行するようにアシストし、白線(黄線)に近づくと電動パワーステアリングの操舵力が強くなります。



■車線逸脱警告機能

車が警報エリアに入ると車線逸脱の警報を音とディスプレイ表示で行います。



⚠警告

LKAS は補助システムとして使用してください。LKAS は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

LKAS は方向指示器(ウィンカー)を出さずに車線変更を検知した時のみ警告します。
LKAS は、すべての車線区画線や車線逸脱を検出できない場合があります。また天候や速度、路面状況によっては、システムが機能しないことがあります。
運転者が周囲の道路状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

LKAS は、急なカーブや加速・減速の繰り返しが続く道路では、システムが正常に機能しないおそれがあります。LKAS は、高速道路や自動車専用道路などを運転するときに使用してください。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **フロントセンサーカメラ** P.178

車線の検知ができないときは、一時的にシステムが解除されます。車線を検知するとシステムが自動復帰します。

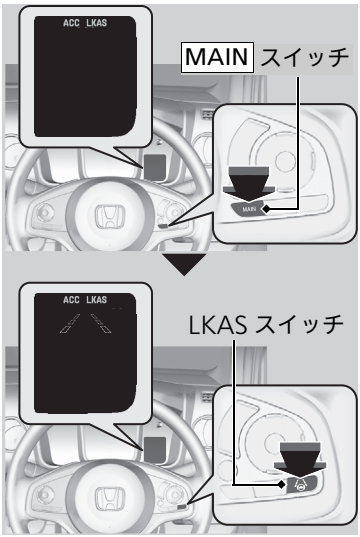
■LKAS を作動させるには

LKAS システムは、以下の条件で作動します。
- 車速が約 65 ～ 120km/h で走行しているとき
- 左右に白線（黄線）が引かれている車線の中央付近を走行しているとき
- 直線または半径 230m 以上のゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- ワイパーを連続で作動させていないとき
- ブレーキペダルを踏んでいないとき
- 方向指示器（ウィンカー）を出していないとき

システムが作動しているときに、左右の白線（黄線）に偏る場合は、システムを停止し指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。
- カメラ付近のガラスは常にきれいにしておく
- フロントガラスのお手入れをするときは、ガラスクリーナーなどがカメラのレンズに付着しないようにする
- カメラのレンズには触れない
- カメラ付近のガラスにステッカーを貼らない

■システムの作動方法



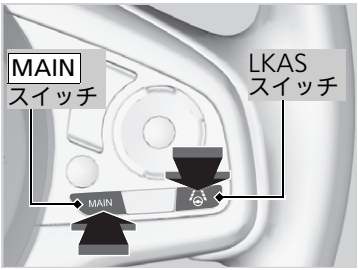
1. MAIN スイッチを押す。
   ▶ LKAS システムが ON になり、メーター内に LKAS 表示灯（グリーン）が点灯します。

2. LKAS スイッチを押す。
   ▶ LKAS　システムが待機状態になります。マルチインフォメーションディスプレイに車線表示（点線）が点灯します。



3. 車線の中央付近を走行する。
▶車線中央付近を走行中にカメラが両側の白線(黄線)を検知すると、LKAS が制御を開始します。

■ 解除するには



以下のいずれかの操作をすると、LKAS が解除されます。
- MAIN スイッチを押す
- LKAS スイッチを押す

前回走行時に LKAS が ON 状態でも、パワーモードを OFF モードにする度に LKAS は OFF になります。

MAIN スイッチを押すと、LKAS と同時に渋滞追従機能付 ACC も解除されます。



■LKAS の一時解除

次の場合、マルチインフォメーションディスプレイに車線表示が点線で表示され、LKAS が自動解除されます。
- ワイパーを連続作動したとき
  ▶ワイパースイッチを HI または MIST で連続作動しているときは、LKAS は自動解除します。ワイパーを OFF、INT または LO にすると、LKAS は復帰します。
- ブレーキ操作をしたとき
  ▶減速などでブレーキペダルを踏むと LKAS が解除され、待機状態になります。ブレーキペダルから足を離し、システムが左右の白線(黄線)を検知すると LKAS が自動で復帰します。
- 車速が 60km/h 以下になったとき
  ▶車速が 60km/h 以下になると、LKAS は自動解除します。車速が 65km/h 以上になると、LKAS は復帰します。

■LKAS が自動的に一時解除されるとき
- 白線(黄線)を検知できないとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ハンドル操作をしていないとき
- 急なカーブを走行したとき
- 制限速度を超えた速度で走行したとき
- 路外逸脱抑制機能が作動したとき

これらの条件が長く続かなければ、システムは自動的に再開されます。

■LKAS が自動的にキャンセルされるとき
次の場合、マルチインフォメーションディスプレイに車線表示が点線で表示され、ブザーが鳴り、LKAS が自動的にキャンセルされる場合があります。
- カメラ内部の温度が一定以上高温になったとき
- カメラまたはカメラ付近のフロントガラスが汚れているとき
- ABS、VSA が作動しているとき

■LKAS の条件と制限
以下の条件では、システムは白線(黄線)を検知できず、LKAS が正しく機能しない場合があります。

■環境によりカメラが正しく検知できない事例
- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- 白線(黄線)の付近に影が映っているとき(木々、建物、ガードレール、車両など)

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例
- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線(黄線)のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線(黄線)が道路にあるとき

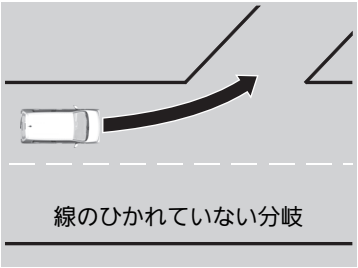


- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき

車線幅が極端に広い／狭い



- 車両などが白線（黄線）の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの（縁石、ガードレール、パイロンなど）を白線（黄線）と認識したとき
- 道路がうねって車線がゆがんで見えるときや先が見通せないとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 分岐・合流路などを走行するとき



■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 先行車との車間距離が短いとき
- サスペンションを変更したとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

路外逸脱抑制機能

路外逸脱抑制機能はシステムが車両の車線逸脱の可能性を検知すると、車線逸脱を回避するように運転を支援し警告で知らせる機能です。

⚠警告

路外逸脱抑制機能は、補助システムとして使用してください。路外逸脱抑制機能は、自動運転システムではなく、運転者のハンドル操作に代わるものではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

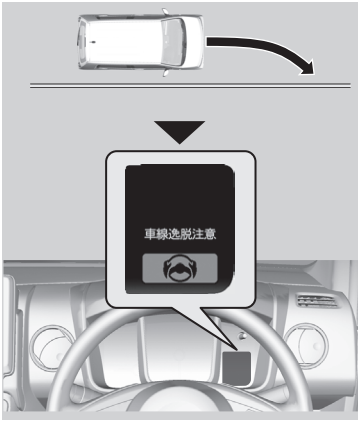
➔ **フロントセンサーカメラ** P.178

運転者による操作が行われているときや、路面の状況によっては支援が感じられないことがあります。

カスタマイズ機能で「アシストタイミング早め」を選択し、LKAS（車線維持支援システム）を作動させていない場合、車線逸脱の可能性を検知すると以下のメッセージが表示されます。



■ システムの作動



このシステムは、フロントガラス上部に設置されたカメラによって左右の白線または黄線を検知し、方向指示器(ウィンカー)を使用せずに白線(黄線)を逸脱したことを判断したとき、作動します。
マルチインフォメーションディスプレイによる警告と音による警報をおこなうことで運転者の操作を促し、さらに逸脱を防ぐ方向にハンドル操作を支援します。
また逸脱を回避するのに大きくハンドル操作が必要なときは、ハンドル操作の支援とともにブレーキ操作の支援も行います。
ブレーキ操作の支援は、検知した線が実線のときのみ行われます。
繰り返し路外逸脱抑制機能が作動しても運転者の操作がない場合は警報音が鳴ります。その後、左記の警告を表示し路外逸脱抑制機能を一時停止します。



一時停止状態から数分経過すると、左記の表示とともに路外逸脱抑制機能は復帰します。



■ システムの作動条件

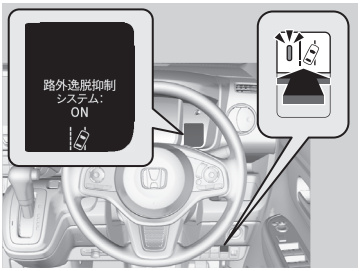
路外逸脱抑制機能は、以下の条件を満たすとき、作動します。

- 車速が約 60 ～ 120km/h で走行しているとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- 方向指示器(ウィンカー)を使用していないとき
- ワイパーが連続で作動していないとき
- システムがアクセル、ブレーキ、ハンドルの操作の量と頻度から運転意志がないと判断したとき

下記の条件下では路外逸脱抑制機能を抑制しています。

- 車線内を走行していないとき
- カーブ内側に、はみ出して走行してしまっているとき
- 車線幅が狭いとき

■ システムの ON と OFF



路外逸脱抑制スイッチを押して、システムの ON と OFF を切り換えてください。

▶ システムがONのときは、路外逸脱抑制スイッチのインジケーターが点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

カスタマイズ機能で「操舵アシストなし　警報のみ」を選択した場合、システムはハンドルおよびブレーキ制御を行いません。

■ 路外逸脱抑制機能の条件と制限

以下の条件では、システムは白線(黄線)を検知できず、システムが正しく機能しない場合があります。

■環境の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- 白線(黄線)の付近に影が映っているとき(木々、建物、ガードレール、車両など)

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

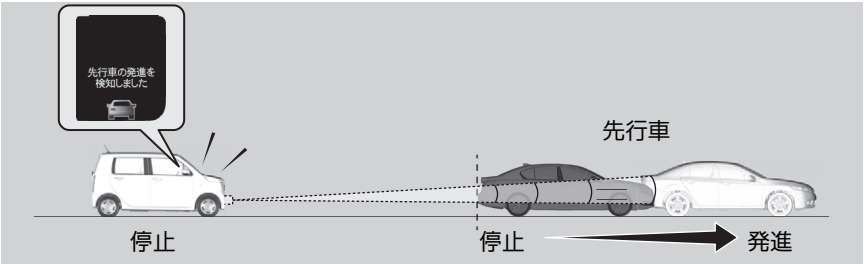
- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線(黄線)のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線(黄線)が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- 道路がうねって車線がゆがんで見えるときや先が見通せないとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- カメラ温度が高温のとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで車両が傾いているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 先行車との車間距離が短いとき
- サスペンションを変更したとき

先行車発進お知らせ機能

信号待ちなどで、先行車が発進したことに気づかず停止し続けたときに、音と表示で運転者に知らせるシステムです。



⚠警告

先行車発進お知らせ機能は、運転者をアシストするための補助システムです。安全に発進できる状況を知らせるシステムではありません。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

発進するときは、運転者が目視で周囲と前方の安全を十分に確認し、適切な車間距離を保ち運転してください。

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **レーダーセンサー** P.179

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **フロントセンサーカメラ** P.178

■ システムの作動条件

先行車に続いて停車(停止状態での車間距離が約10m以内、かつ自車・先行車がしばらく停止)すると先行車を認識し続け、先行車の発進を検知しても自車が停止し続けたときに作動します。

■セレクトレバーがD、Sの場合

ブレーキペダルを踏んでいる または オートマチックブレーキホールドのブレーキ保持機能が作動している または 渋滞追従機能付 ACC が作動中で停車している。

■セレクトレバーがNの場合

ブレーキペダルを踏んでいる または パーキングブレーキが作動している または オートマチックブレーキホールドのブレーキ保持機能が作動している。

■ システムの作動状態



システムが作動すると、「ポーン」とブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ 先行車発進お知らせ機能の条件と制限

次のような場合、先行車が発進していなくてもシステムが作動したり、先行車が発進していてもシステムが作動しないことがあります。

■自車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- フロントロアグリルが汚れているとき
- 自車の停車している時間が短いとき

■環境によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■道路の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、右左折直後、坂道などのとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両の周囲に電波を強く反射する物があるとき

■先行車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 先行車の停車している時間が短いとき
- 先行車との距離が極端に短いとき
- 先行車が極端に遅い速度で移動しているとき
- 先行車が右左折や急旋回したとき

■その他、レーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 歩行者や自転車、二輪車、特殊な形状の車両など
- 自車と先行車の間に別の車両や歩行者、自転車などが割り込んできたとき
- 先行車が自車の正面にいないとき

標識認識機能

標識認識機能は走行中に認識した道路標識情報をマルチインフォメーションディスプレイに表示し、運転者にお知らせする機能です。
表示される道路標識は以下の 4 つです。

- 最高速度
- はみ出し通行禁止
- 一時停止
- 車両進入禁止

⚠警告

標識認識機能は補助機能として使用する。
標識認識機能は、あらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも、運転者をアシストするための機能です。
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

この機能は、日本の道路標識を認識するよう設計されていますが、すべての標識が表示されるわけではありません。
また、表示される道路標識であっても新しいデザインの道路標識は表示されません。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **フロントセンサーカメラ** P.178

■ 作動のしかた

走行中にフロントガラス上部にあるカメラで特定の道路標識を認識し、マルチインフォメーションディスプレイに道路標識情報を表示します。



標識認識機能は以下の条件で作動します。
- 最高速度 / はみ出し通行禁止:速度に関係なく作動
- 一時停止 / 車両進入禁止:自車の速度が約 60km/h 以下のとき

以下のときは、道路標識情報が別のものに切り換わります。
- 表示中の最高速度と異なる最高速度標識を認識したとき
- 一時停止標識または、車両進入禁止標識を認識したとき

以下のときは道路標識情報が消えます。
- 最高速度とはみ出し通行禁止は、標識を通過してから標識ごとに設定された距離(数百〜千数百 m)を走行したとき、または終了を示す補助標識を認識したとき
- 一時停止は、標識を通過したとき
- 車両進入禁止は、進入せず標識を通過したとき
- 交差点で方向指示器(ウィンカー)を出しながら右左折したとき

運転中に道路標識が認識されない場合や認識できない場合は以下の画面が表示されることがあります。



■ 標識認識機能の条件と制限

以下の場合などにおいては、標識の認識が遅れたり、認識できない場合があります。

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき

■環境によりカメラが正しく検知できない事例
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところ
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 前走車による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■標識の位置や状態によりカメラが正しく検知できない事例
- 標識の周囲が煩雑で標識を見つけにくい場合
- 自車から遠く離れた位置にある標識
- 自車のヘッドライトの光が届きにくい位置にある標識
- 曲がり角やカーブの先に設置された標識
- 色あせた標識や折れ曲がった標識
- 向きが変えられた標識や破損した標識
- 泥、雪、又は、霜で覆われた標識
- 一部が樹木などで隠れていたり、車両などの陰になった標識
- 標識の表面上に光(街灯など)や影が映り込んでいる場合
- 明るすぎたり、暗い標識(電光式標識)
- 小さいサイズの標識(終了を示す補助標識など)

■その他、カメラが正しく検知できない事例
- 高い速度で走行しているとき

以下の場合などにおいては、標識認識が正しく作動せず、自車の走路に対する規制内容とは異なる表示をしたり、実際には対象となる標識が無いのに表示したりすることがあります。
(最高速度標識においては、実際の規制速度よりも高い数値を表示したり、低い数値を表示したりすることがあります。)
- 標識の上や下に、規制の地点(始まり、終わりなど)や条件(曜日、時間帯など)を示す補助標識がある場合
- 数字の判別がつきにくい標識(電光式標識、数字がかすれた標識など)
- 自車の走路に対しての標識ではないが、自車の走路付近にあり、標識が自車の走路に向いている場合(側道が本線に合流する地点の一時停止標識など)
- 認識対象の標識の色、形、図形に似たものがある場合(類似の標識、電光掲示板、看板、のぼり旗、構造物など)

標識認識機能が故障した場合はマルチインフォメーションディスプレイに が表示されます。
のメッセージが消えないときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

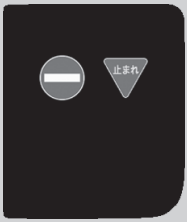


■ マルチインフォメーションディスプレイの表示

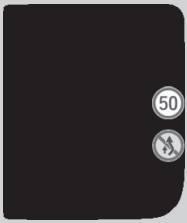
同時に二つまで道路標識情報を表示します。ディスプレイの右側には最高速度または一時停止標識、左側にははみ出し通行禁止または車両進入禁止標識を表示します。

選択表示モードのときの表示例





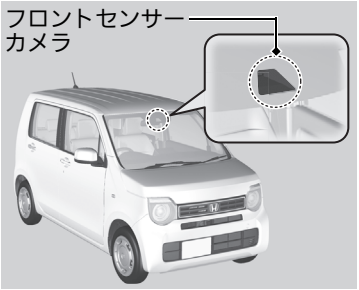
常駐表示モードのときの表示例



左側は車両進入禁止、右側は一時停止を優先表示します。

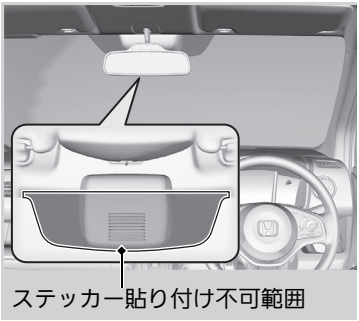
車両進入禁止区域に進入すると車両進入禁止アイコンが点滅します。
約 5 秒間点滅したあと、車両進入禁止アイコンは消えます。

フロントセンサーカメラ



カメラはフロントガラス上部に設置されています。

炎天下に駐車したときなど、室内温度が高温になり、カメラ機能が一時停止する場合があります。一時停止を防ぐため、駐車時は太陽光を避けて日陰に駐車することをおすすめします。反射サンシェードを使用する場合、カメラを覆わないでください。覆うとカメラに熱を集中させてしまう可能性があります。



フロントガラスにフィルムを貼ったり、カメラの視野を遮るものを取り付けないでください。

カメラの視野内のフロントガラスにキズ、打痕、損傷があると、システムが正常に作動しなくなることがあります。この問題が発生した場合、フロントガラスの交換をお勧めします。
Honda 純正品以外のフロントガラスを使用するとシステムが正常に作動しなくなる場合があります。
フロントガラスの修理や交換をする場合は Honda 販売店にご相談ください。

カメラのレンズを汚したり傷つけたりしないでください。

インストルメントパネル上部に物をおかないでください。
物がフロントガラスに反射して車線を的確に検知できない場合があります。

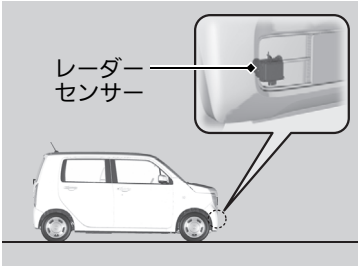
カメラを取り外さないでください。システムが正常に作動しなくなる場合があります。
次の場合は Honda 販売店にご相談ください。

- カメラ及び周辺部に衝撃が加わったとき

フロントガラスが曇った場合は曇りをとってください。
必要に応じてデフロスターを使用してください。

ボンネットやフロントグリルの上にカメラの視野を妨げるものを装着しないでください。カメラの視野を妨げシステムが正常に作動しない場合があります。

レーダーセンサー



レーダーセンサーはフロントロアグリル内に設置されています。

フロントロアグリルの周囲に強い衝撃を与えないようにしてください。

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

- フロントロアグリルは常にきれいにしておく
- フロントロアグリルのお手入れにベンジン、シンナー類、クレンザーなどの磨き粉類を使わない
- フロントロアグリルを塗装したりステッカーを貼らない
- フロントロアグリルを交換しない

次の場合は、Honda 販売店にご相談ください。

- レーダーセンサーに衝撃が加わったとき
- フロントロアグリル周辺の修理を行うとき

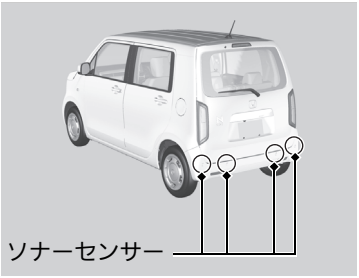
以下のときは、レーダーセンサーが正常に作動しなくなる場合があるため、Honda 販売店で点検を受けてください。

- フロントロアグリルが段差、縁石、輪留め、盛り土などに接触したとき
- 深い水たまりに進入したとき
- 車両前方が衝突、接触したとき

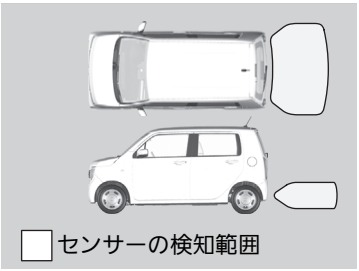
パワーモードを ON モードにするときは、車を静止させてください。駐車場のターンテーブル上など、車両が動いているときにパワーモードを ON モードにすると、各機能が作動しない場合があります。

ソナーセンサー

■ センサーの取り付け位置と検知範囲



ソナーセンサーはリヤバンパーに設置されています。



ソナーセンサーの取り扱いについて

- センサーやその周囲にステッカーなどを貼り付けない。
- センサーの周囲に強い衝撃をあたえない。
- 分解は行わない
- センサーの近くにアクセサリーを取り付けない。

次の場合は、Honda 販売店にご相談ください。

- ソナーセンサーに衝撃が加わったとき
- ソナーセンサー周辺の修理を行うとき

以下のときはソナーセンサーが正常に作動しなくなる場合があるため、Honda 販売店で点検を受けてください。

- リヤバンパーが段差、縁石、輪留め、盛り土などに接触したとき
- 車両後方が衝突、接触したとき
- 深い水たまりに進入したとき

ブレーキ操作

ブレーキシステム

電子制御パーキングブレーキ装備車

■ 電子制御パーキングブレーキ

主に停車中や駐車時に使用するブレーキです。自動での解除および手動での操作ができます。

パーキングブレーキをかけたり解除したときに作動音が聞こえます。
これはブレーキシステムが作動している音で異常ではありません。

パーキングブレーキをかけたり解除するとブレーキペダルが動くことがあります。
これはブレーキシステムの作動によるもので異常ではありません。

バッテリーがあがっているときは、パーキングブレーキをかけたり、解除することはできません。

➡ ジャンプスタート P.235

走行中にパーキングブレーキスイッチを引き続けると、その間はパーキングブレーキがかかります。

10分以上渋滞追従機能付 ACC またはオートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態で停車していると、自動でパーキングブレーキがかかります。

渋滞追従機能付 ACC またはオートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態でシートベルトを外したとき、自動でパーキングブレーキがかかります。
渋滞追従機能付 ACC またはオートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態でパワーモードをOFFモードにしたとき、自動でパーキングブレーキがかかります。

■手動で操作するとき

パーキングブレーキスイッチの操作で、パーキングブレーキをかけたり解除したりできます。

急な下り坂の発進時などに、手動でパーキングブレーキを解除すると、スムーズな発進を行うことができます。



■手動でパーキングブレーキをかける

パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げてください。

▶パーキングブレーキが作動すると、スイッチのインジケーターとメーター内のブレーキ警告灯(レッド)が点灯します。



■手動でパーキングブレーキを解除する

1. パワーモードがONモードのときに、右足でブレーキペダルをしっかりと踏む。
2. パーキングブレーキスイッチを押す。

▶パーキングブレーキが解除され、スイッチのインジケーターとメーター内のブレーキ警告灯(レッド)が消灯します。

■自動パーキングブレーキ作動機能

自動パーキングブレーキ作動機能が ON になっているとき:

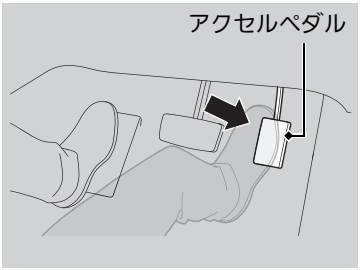
パワーモードを OFF モードにするとパーキングブレーキが自動でかかります。

パーキングブレーキがかかっていることを、ブレーキ警告灯(レッド)で確認してください。

➡ **自動作動機能を ON/OFF するには** P.183

■自動解除するとき

アクセルペダルの操作とパーキングブレーキの解除が連動します。
渋滞や上り坂での発進に便利です。



アクセルペダルをゆっくりと踏んでください。
▶パーキングブレーキが解除され、ブレーキ警告灯(レッド)が消灯します。
パーキングブレーキの自動解除は、次の条件が揃ったときに行えます。

- 運転席シートベルトを着用しているとき
- エンジンが始動しているとき
- シフトポジションが P 、N 以外のとき

■自動作動機能を ON/OFF するには

パーキングブレーキの自動作動機能は、パワーモードが ON モードのときに以下の操作で ON と OFF を切り換えることができます。

1. セレクトレバーを P に入れる。
2. ブレーキペダルを踏まずに、パーキングブレーキスイッチを引き上げます。
   ▶ブレーキ警告灯(レッド)が点灯していることを確認してください。
3. パーキングブレーキスイッチを引き上げたままにする。
   「ピーッ ピーッ ピーッ ・・・・」と鳴り始めたら手を離し、3 秒以内に再びパーキングブレーキスイッチを引き上げたままにする。
4. 操作完了音が聞こえたらスイッチから手を離す。
   ▶自動作動機能が ON になると、「ピーッ ピーッ」と鳴ります。
   ▶自動作動機能が OFF になると、「ピー」と鳴ります。
   ▶パーキングブレーキの作動状態は、ブレーキ警告灯(レッド)で確認してください。

また、下記操作を行うことで、パーキングブレーキの自動作動を一時的にOFFすることもできます。

1. ブレーキペダルを踏んで停車する。
2. パワーモードをOFFモードにした後、2秒以内にパーキングブレーキスイッチを押す。
   ▶自動作動機能の ON/OFF 設定は変わりません。
   ▶渋滞追従機能付 ACC およびオートマチックブレーキホールドシステムの機能が OFF になっている状態で行ってください。
   ▶パーキングブレーキの作動状態は、ブレーキ警告灯(レッド)で確認してください。

パーキングブレーキを自動で解除できないときは、手動で解除してください。

次の警告灯が点灯しているときは、自動解除できません。

- PGM-FI 警告灯
- トランスミッション警告灯

次の警告灯が点灯しているときは、自動解除できないことがあります。

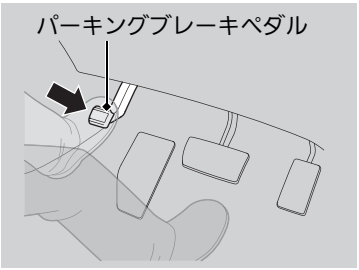
- ブレーキ警告灯(レッド)
- VSA 警告灯
- ABS 警告灯
- エアバッグシステム警告灯

寒冷時に、パーキングブレーキをかけると、凍結することがあります。
自動作動機能を OFF にして、石などで輪留めをしてください。
また、けん引の場合は、必要に応じて自動作動機能を OFF にして、パーキングブレーキがかからないようにしてください。

電子制御パーキングブレーキ非装備車

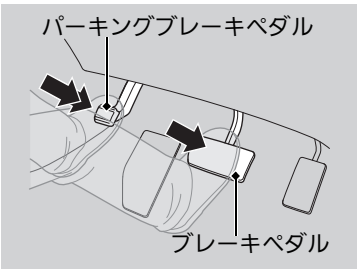
■ パーキングブレーキ

主に停車中や駐車時に使用するブレーキです。パーキングブレーキペダルにより操作します。



■パーキングブレーキをかける

左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいに踏み込む。



■パーキングブレーキを解除する

1. 右足でブレーキペダルを踏む。
2. 左足でパーキングブレーキペダルを踏み、ゆっくりと戻す。

アドバイス

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、リヤブレーキと車軸が損傷するおそれがあります。

パーキングブレーキは完全に解除した状態で、走行してください。

■ フットブレーキ

車の減速や停止をするためのメインのブレーキです。ブレーキペダルで操作します。

水たまりを走行したときは、ブレーキの効き具合を確認してください。
効きが悪いときは、効き具合が戻るまでブレーキペダルを何回か軽く踏んでください。

ブレーキを踏んでいる間、絶えず金属的な摩擦音が聞こえる場合はブレーキパッドを交換する必要があります。
Honda 販売店で点検を受けてください。

長い下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱し、ブレーキの効きが悪くなり危険です。
そのため、長い下り坂などではエンジンブレーキを使用します。
アクセルペダルから足を離し、ギヤを低速にシフトすると、エンジンの回転抵抗で速度が落ちます。

エンジン始動直後や標高が高いときなど特定の条件下でブレーキを踏んだとき、ブレーキの効きを補うハイドロリックブレーキブーストが装備されています。
この機能が作動するとブレーキペダルが小刻みに動いたり、作動音が聞こえる場合があります。

■ オートマチックブレーキホールド

停車中に、ブレーキペダルを踏み続けなくても、自動的にブレーキを保持する機能です。保持中にアクセルペダルを操作すると、自動でブレーキが解除され発進することができます。信号待ちなどの一時的に停止したいときの使用に適しています。

■機能を ON させるには

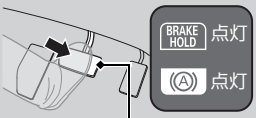


オートマチックブレーキホールドスイッチ

シートベルトを着用し、エンジンを始動してからオートマチックブレーキホールドスイッチを押す。

- オートマチックブレーキホールドシステム表示灯が点灯し、機能が ON になります。

■ブレーキを保持させるには

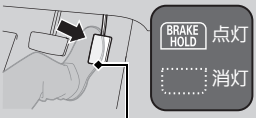


ブレーキペダル

シフトポジションが P R 以外のときにブレーキペダルを踏んで停車する。

- オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯し、自動でブレーキが 10 分間保持されます。
- オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯後、ブレーキペダルから足を離してください。

■車両を発進させるには



アクセルペダル

シフトポジションが P N 以外のときにアクセルペダルを踏むと機能が解除し、発進します。

- オートマチックブレーキホールド表示灯が消灯し、自動でブレーキが解除されます。

⚠警告

急な坂道やすべりやすい路面の場所では、ブレーキペダルから足を離さない。

急な坂道やすべりやすい路面の場所では、オートマチックブレーキホールドが作動していても、ブレーキペダルから足を離したときに車が動くことがあります。

不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠警告

駐車をする目的でオートマチックブレーキホールドを作動させない。
不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
オートマチックブレーキホールドシステム作動中は絶対に車から離れないでください。駐車する際はシフトポジションを P にしてパーキングブレーキをかけてください。

⚠警告

オートマチックブレーキホールドを使用する際は、オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯するまでブレーキペダルから足を離さない。
不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯した後にブレーキペダルから足を離してください。

パワーモードを OFF にすると、システムは自動的に OFF になります。

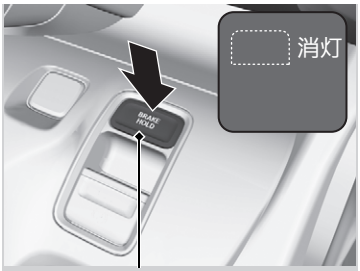
■ ブレーキ保持機能が自動的に解除されるとき

- シフトポジションが P もしくは R で、ブレーキペダルを踏んでいるとき
- パーキングブレーキスイッチを引いたとき

以下の状態のときは、パーキングブレーキが自動で作動した後、オートマチックブレーキホールドシステムによるブレーキ保持が解除されます。

- 10 分以上ブレーキを保持したとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- パワーモードを OFF したとき
- オートマチックブレーキホールドシステムに問題が発生したとき

■機能を OFF させるには



オートマチックブレーキ
ホールドスイッチ

機能が ON のときにオートマチックブレーキホールドスイッチを押します。

▶ オートマチックブレーキホールドシステム表示灯が消灯します。

オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯中に OFF にしたいときは、ブレーキペダルを踏みながらオートマチックブレーキホールドスイッチを押します。

自動洗車機を使用するときは、システムが OFF になっていることを確認してください。

ブレーキ保持中にタイヤの回転を検知すると、ブレーキ力を強めるために作動音が発生する場合があります。

ABS(アンチロックブレーキシステム)

■ ABS とは

ABS(アンチロックブレーキシステム)とは、急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとするための装置です。

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルが小刻みに動くことがありますが、これは ABS の正常な動作です。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。
なお、低速(車速約 10km/h 以下)では ABS は作動せず、通常のブレーキと同じ作動となります。

アドバイス

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、ABS が正常に機能しないことがあります。
タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

ABS 警告灯が運転中に点灯するときは、システムの異常が考えられます。
通常のブレーキ操作には支障はありませんが、ABS が作動していない可能性があります。
ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

ABS は、制動距離を短くするためのものではありません。
ABS を装備していない車両と同様に、路面が滑りやすいほど長い制動距離が必要になります。
ABS が作動した状態でも車両の姿勢やハンドルの効きには限界がありますので、安全運転に心がけてください。また、次のような場合、ABS の装着されていない車両に比べ、制動距離が長くなることがあります。

- 砂利道、深い新雪、凸凹路などの悪路
- 舗装の継ぎ目やマンホールなどの段差
- タイヤチェーン装着時

電子制御ブレーキアシスト

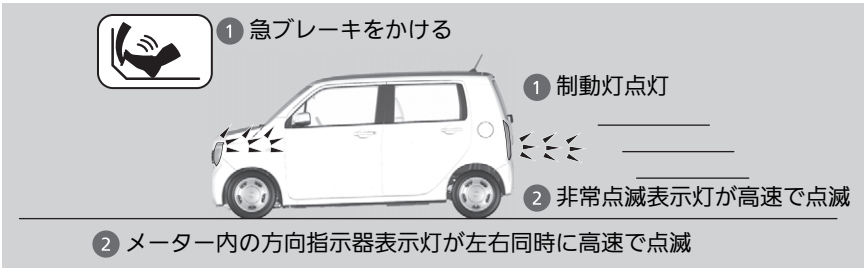
緊急制動時に、より大きな力を発生させ運転者のブレーキ操作を補助する装置です。

ブレーキアシストが作動すると、ペダルが小刻みに動いたり、作動音が聞こえたりすることがあります。これはブレーキアシストが作動しているときの現象で異常ではありません。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

➡ **VSA(ビークルスタビリティアシスト)** P.128

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、自車が急ブレーキをかけたことを非常点滅表示灯が自動的に高速で点滅して後続車に知らせ、追突される可能性を低減するシステムです。60km/h 以上で走行しているときに急ブレーキをかけると作動します。



エマージェンシーストップシグナルは、以下の状態になると作動が停止します。

- ABS が停止したとき
- 急減速でなくなったとき
- ハザードスイッチを ON にしたとき

エマージェンシーストップシグナルは、追突されるおそれを低減するシステムであり、追突を完全に防ぐものではありません。運転するときは不必要な急ブレーキを避け、安全運転を心がけてください。

駐停車操作

駐車する

1. ブレーキペダルをしっかり踏む。

電子制御パーキングブレーキ装備車

2. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げる。

電子制御パーキングブレーキ非装備車

2. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかける。

共通

3. シフトポジションを[P]にする。
4. エンジンを停止する。
   ▶ 車から離れるときは必ず施錠してください。

坂道に駐車をするときは、かならずパーキングブレーキをかけてください。

仮眠するときは、エンジンを停止してください。
無意識にセレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

停車中の空ぶかしはしない。
万一、セレクトレバーが[P] [N]以外に入っていた場合、思わぬ急発進のもとになります。

枯れ草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。
排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。

アドバイス

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。また、上り坂で[P] [N]以外に入れた状態で、アクセルを調節しながら車を停車させたりしないでください。
トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

⚠注意

駐車時はエンジンを止める。
万一、セレクトレバーが[P] [N]以外に入っていた場合、クリープ現象により車が動き出したり、乗り込む際に誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するおそれがあります。

アドバイス

車が完全に止まらないうちにPに入れないでください。
トランスミッション破損の原因となります。

車内の見えるところに貴重品などを置かないでください。

車内にライターや炭酸飲料缶を放置しないでください。
車内温度上昇によりライターなどの可燃物が自然発火したり、缶などは破裂したりするおそれがあります。

寒冷時に、パーキングブレーキをかけると、凍結することがあります。
パーキングブレーキをかけずに、輪留めをしてください。
輪留めをしないと車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

パーキングセンサーシステム*

車両後方のリヤセンターセンサーおよびリヤコーナーセンサーが障害物を検知し、障害物と車両の距離をブザーとマルチインフォメーションディスプレイで知らせます。

➡ **ソナーセンサー** P.180

駐車する前に車両の廻りに障害物がないことを確認してください。

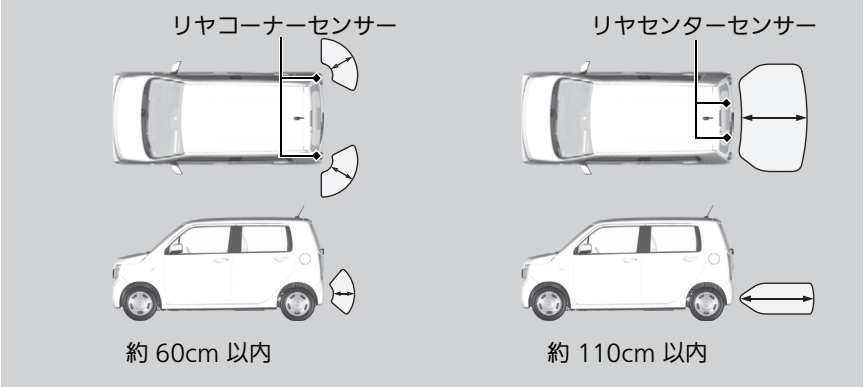
次のようなときは、システムが正常に働かないことがあります。
- センサーが雪、氷、泥などで覆われているとき
- 凸凹な路面や、草地、段差があるとき
- 車両が高温または低温の状況にあるとき
- 近くに超音波を発する電子機器があるとき
- 悪天候のとき

次のようなときは、システムが検知できないことがあります。
- 障害物が薄いとき、または低いとき
- 雪、布、スポンジなど吸音しやすい材質があるとき
- バンパーの真下に障害物があるとき

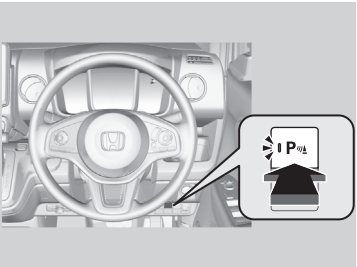
センサーの近くにアクセサリーを取り付けない。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■パーキングセンサーの取付位置と検知範囲



■パーキングセンサーの ON と OFF



パワーモードがONモードのときに、パーキングセンサーシステムスイッチを押して、システムの ON と OFF を切り換えます。
パーキングセンサーシステムを ON にしたとき、スイッチのインジケーターが点灯します。

リヤセンサーは、シフトポジションが R で、車速が 8km/h 以下のとき障害物を検知します。

エンジンを始動したときは、パワーモードを OFF する前の状態(ON または OFF)を保持します。

■障害物を検知したときの作動状態

ブザー音の間隔	障害物との距離		インジケーター	マルチインフォメーションディスプレイ
	コーナーセンサー	センターセンサー		
長い	—	約 110-60 cm	点灯(イエロー)※	
短い	約 60-45 cm	約 60-45 cm	点灯(オレンジ)	
非常に短い	約 45-35 cm	約 45-35 cm		
連続	約 35 cm 以下	約 35 cm 以下	点灯(レッド)	

※: このときは、センターセンサーのみが障害物を検知します。

給油

■指定燃料

無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン(E10/ETBE22)

アドバイス

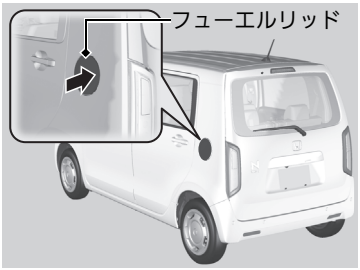
指定燃料以外の燃料(粗悪ガソリン、軽油、灯油等)を補給したり、不適切な燃料添加剤を使用しないでください。
以下のような状態になるおそれがあります。

- 触媒装置などの損傷
- エンジンや燃料系などの損傷
- エンジンなどへの悪影響

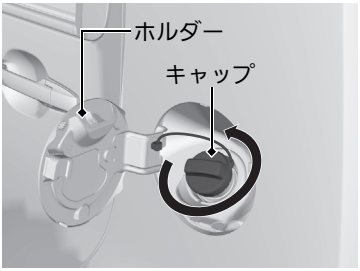
プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

給油のしかた

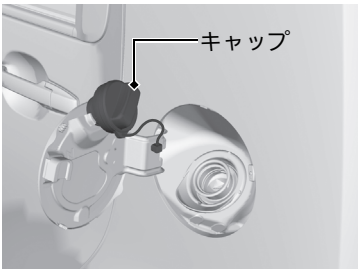
1. 助手席側にガソリンスタンドの給油機がくるように車を停める。
2. エンジンを停止させる。
3. 運転席ドアを解錠する。
   ▶ 車の外側のフューエルリッドが解錠されます。
   ➡ **車内での施錠 / 解錠** P.85



4. フューエルリッドの右端を「カチッ」と音がするまで押し、手を離す。
   ▶ リッドが少し浮き上がります。



5. リッドを開けて、ツマミをゆっくり回し、フューエルキャップを開ける。



6. キャップをホルダーにかける。
7. 給油ノズルを奥まで差し込み、給油する。
   ▶ 満タンになると、給油ノズルの自動停止がはたらき、給油が停止します。
8. 給油後、「カチッ」という音が 1 回以上するまでキャップを締め付ける。
   ▶ フューエルリッドの右端を「カチッ」という音がするまで押し、リッドを閉めます。

⚠警告

燃料補給時は火気厳禁。
燃料や燃料蒸気は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。燃料を扱っているときは下記の項目を厳守してください。
- エンジンは常に停止させる
- 炎、火花を近づけない
- たばこを吸わない
- 燃料の取り扱いは屋外で行う
- こぼれた燃料はすみやかに拭き取る

⚠警告

燃料補給作業は、フューエルキャップを開ける前に車体などの金属に触れて身体の静電気を除去してから行う。
静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火し、やけどを負うおそれがあります。

⚠注意

キャップはゆっくり開ける。
急激に開けると燃料補給口より吹き返しが発生し、火災になるおそれがあります。

燃料補給は、静電気を放電した人のみで行ってください。
燃料補給中に車内に戻ると、再び帯電することがあります。再度、静電気を放電してください。

「シュー」という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。

燃料蒸気を吸わないでください。
燃料成分には有害物質を含んでいる場合があります。

⚠注意

給油ノズルの自動停止後は、追加補給しない。
気温などの変化により燃料があふれ、火災になるおそれがあります。

キャップが確実に閉まっていることを確認する。
閉まっていないと燃料がもれ、火災になるおそれがあります。

Honda 純正以外のキャップを使わないでください。
純正品を使用しないと、火災などを起こすおそれがあります。

ターボ車* について

取り扱い

ターボ装置は、排気ガスの圧力でタービンを回してエンジンに大量の空気を圧縮して送り込み、より大きな馬力を引き出す非常に精密に作られた装置です。
ターボ装置の故障を防ぐため、必ず以下の点をお守りください。

- **エンジン始動直後のエンジンが冷えているときは、空ぶかしや急加速はしない**

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

6 メンテナンス

この章では、基本的なメンテナンスについて記載しています。

メンテナンスの前に

点検整備について

道路運送車両法により、法定点検と日常点検が義務づけられています。正しい点検整備で、車を安全・快適にお使いください。
普段と違う点（音、におい、ブレーキフルードの不足、地面に油のあとが残っているなど）に気づいたら、Honda 販売店で点検を受けてください。
点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートも併せてご覧ください。

■ 点検整備の種類

■日常点検
長距離走行前や洗車・給油時などに、お客様自身の判断で行う点検です。

■定期点検
12 か月および 24 か月ごとに実施する点検です。法律で定められているものと、Honda が指定するものがあります。

■その他
新車時の無料点検や定期交換、厳しい使われかたをしたときの点検整備があります。

メンテナンスを安全に行うために

メンテナンスを行う際は、メンテナンスノートと下記の安全に関する注意事項をよくお読みのうえ、安全を確保して行ってください。
お客さま自身でメンテナンスを実施したときは、メンテナンス点検整備記録簿のメンテナンスレコードに記録してください。

⚠警告

適切なメンテナンスを行い、走行前に故障がないようにする。
走行時に故障がある状態や、適切なメンテナンスがなされていないと、重大な傷害や死亡に至る事故を引き起こす可能性があります。
必ず、取扱説明書に記載されている点検とメンテナンスに関する注意事項や別冊のメンテナンスノートに記載の点検時期を守ってください。

メンテナンスは、指示と注意事項を守って行う。
メンテナンスの指示と注意事項を守らないと重大な傷害や死亡のおそれがあります。
必ず、取扱説明書に記載されている手順と注意事項を守ってください。

■ メンテナンスを行う場所や備品についての安全事項

- 火災や爆発防止のため、タバコの火、火花、炎を引火性の液体やガスから遠ざける
- エンジンルーム内の、タオルや可燃物の置き忘れに注意する
  ▶ 火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジンの排気ガスに含まれる一酸化炭素の毒作用に注意する
  ▶ エンジンを始動するときは必ず十分な換気を行ってください。

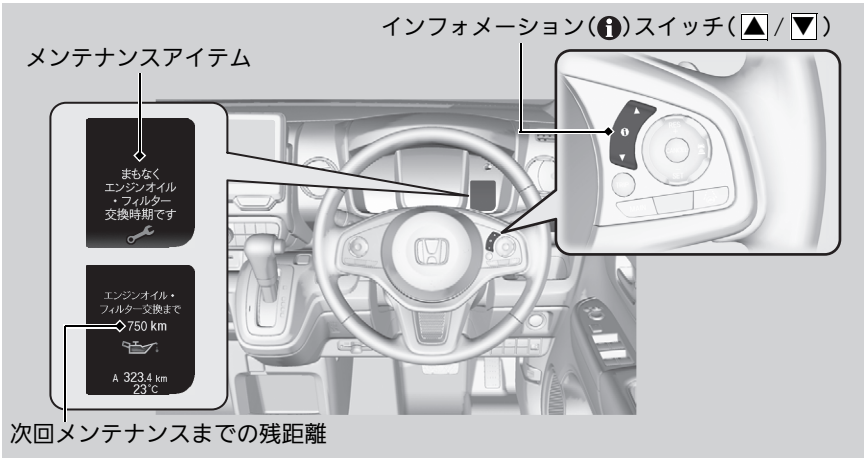
■ 車についての安全事項

- エンジンルーム内を点検するときは、冷却ファンが止まってから行ってください
  ▶ エンジンの温度が高い状態でエンジンを停止したとき、冷却ファンが自動的に作動することがあります。
- 熱くなった部品によるやけどに注意する
  ▶ 部品に触れる前に、エンジンと排気システムを十分に冷やしてください。
- 可動部品によるけがに注意する
  ▶ 指示されたとき以外は、エンジンを始動しないでください。
  ▶ アイドリングストップ中は、ボンネットを開けないでください。

オイルメンテナンス表示*

オイルメンテナンス表示は、リセットしてからの距離に応じてエンジンオイル、エンジンオイルフィルターの交換時期の目安をマルチインフォメーションディスプレイにてお知らせします。
メンテナンスが必要な場合は、表示されたメッセージと距離を目安に、Honda 販売店でメンテナンスを受けてください。

オイルメンテナンス情報の表示



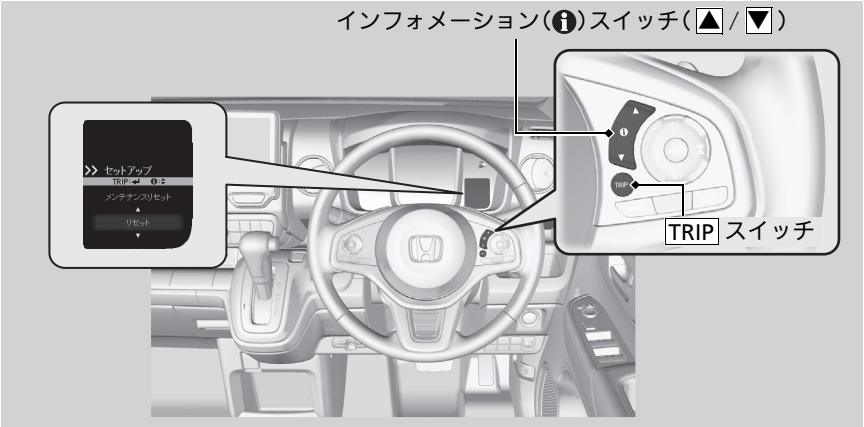
1. パワーモードを ON モードにする。
2. マルチインフォメーションディスプレイにオイルメンテナンス画面が表示されるまで、インフォメーション(i)スイッチ(▲/▼)を押す。

残距離表示が十分残っていても、前回のオイル交換から 1 年が経過していたら、メンテナンスを実施してください。詳しくはメンテナンスノートを確認してください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ リセットのしかた

メンテナンスを行った後は、オイルメンテナンスの表示をリセットします。



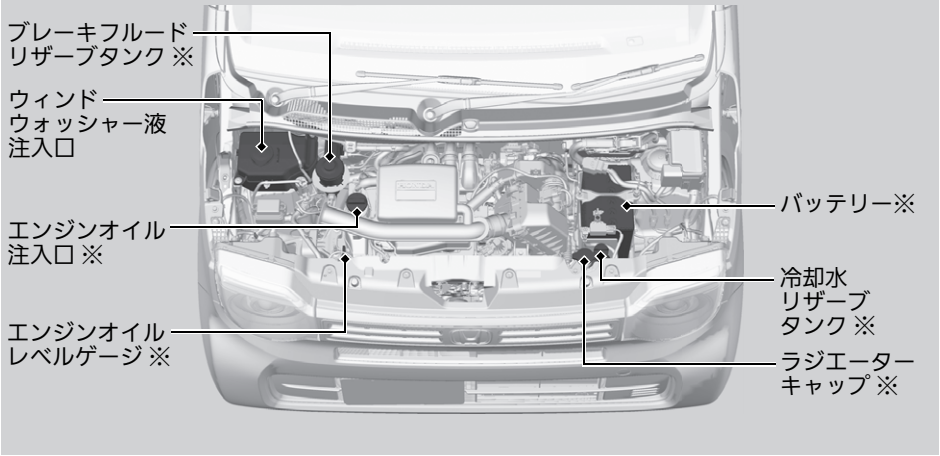
1. パワーモードを ON モードにする。
2. カスタマイズ機能の中からメンテナンスリセットを選択する。
3. インフォメーション(i)スイッチ(▲/▼)を押してリセットを選択する。
4. リセットが選択された状態で TRIP スイッチを押すとリセットされる。
5. マルチインフォメーションディスプレイにメンテナンスリセットが完了したメッセージが表示される。

アドバイス

メンテナンス後にオイルメンテナンスをリセットしないと、メンテナンス時期を正しくお知らせできないため、故障につながる可能性があります。

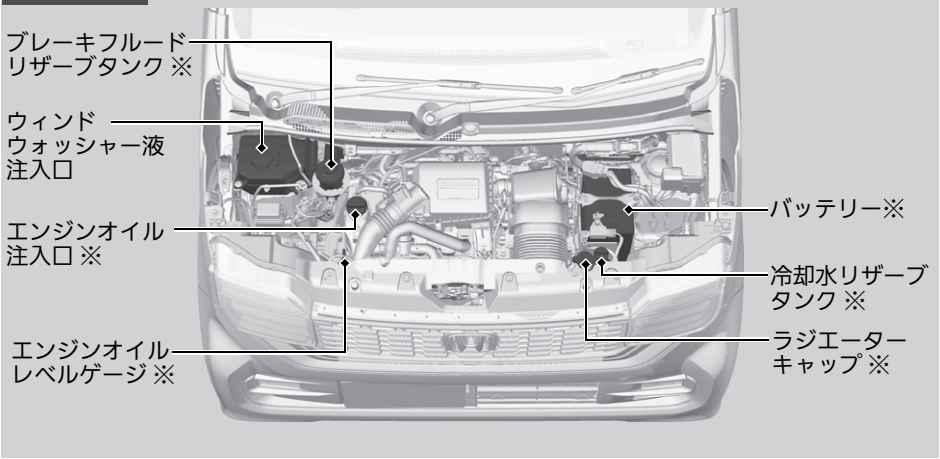
エンジンルーム内のメンテナンス項目

ターボ非装備車



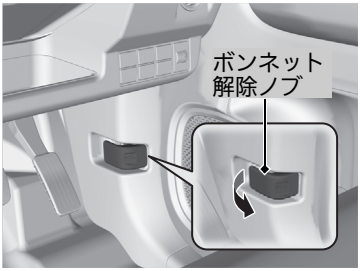
※: 点検整備については、別冊の「メンテナンスノート点検整備について」をご覧ください。

ターボ装備車

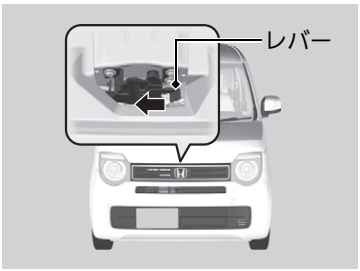


※: 点検整備については、別冊の「メンテナンスノート点検整備について」をご覧ください。

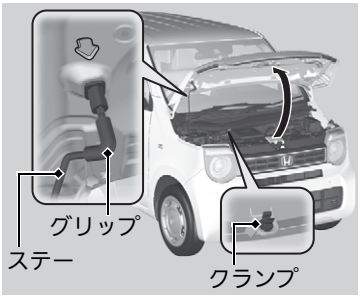
ボンネットを開ける



1. 車を停め、パーキングブレーキをかける。
2. 運転席足元にある、ボンネット解除ノブを引く。
   ▶ ボンネットが少し浮き上がります。



3. ボンネット中央のレバーを左に押してロック機構を解除し、ボンネットを開ける。



4. グリップを持ってステーをクランプから取り外し、ステーをボンネットにかける。

閉めるときは、ステーを外しクランプに納めてからボンネットを静かに下げて、約 30cm の高さから手を離します。

⚠注意

ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意する。

アドバイス

ワイパーアームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。

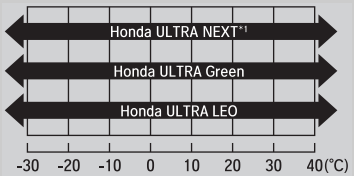
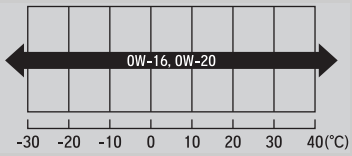
ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷することがあります。

推奨エンジンオイル

純正および市販のエンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。

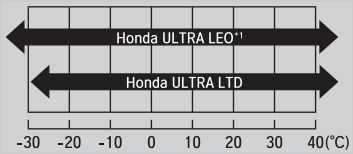
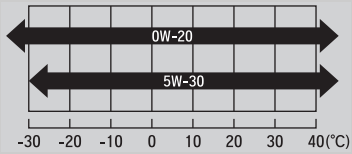
エンジンオイルは、量が少なかったり劣化したものを使用していると、エンジンの不調や破損につながることがあります。

ターボ非装備車

純正エンジンオイル	市販エンジンオイル
Honda 純正油 • Honda ULTRA NEXT*1 • Honda ULTRA Green • Honda ULTRA LEO	API SM 級以上かオイル缶に API CERTIFICATION（エーピーアイサーティフィケーション）マークの入ったエンジンオイル
	

*1：最も省燃費性に優れた Honda 純正オイルです。

ターボ装備車

純正エンジンオイル	市販エンジンオイル
Honda 純正油 • Honda ULTRA LEO*1 • Honda ULTRA LTD	API SM 級以上かオイル缶に API CERTIFICATION(エーピーアイサーティフィケーション)マークの入ったエンジンオイル
	

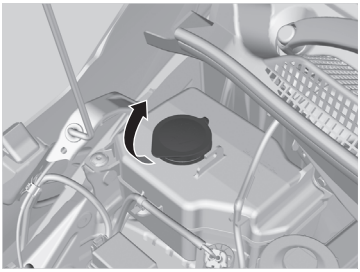
*1:最も省燃費性に優れた Honda 純正オイルです。

API CERTIFICATION(エーピーアイサーティフィケーション)マークは下記のとおりです。



ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液の量を確認します。



減っていた場合は、ウォッシャー液キャップを外し、ウォッシャータンクに補給します。

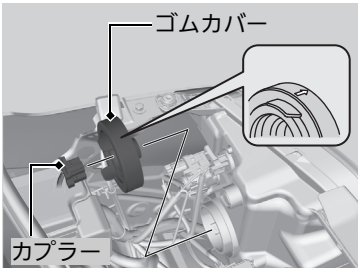
電球の交換

ヘッドライト電球

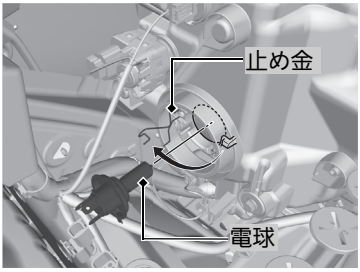
■ ハロゲンヘッドライト*

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

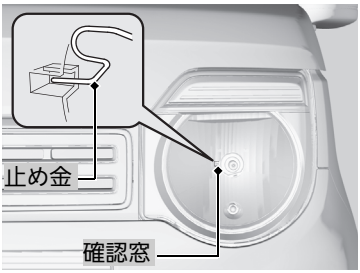
ハイ / ロービームハロゲンヘッドライト :12V−60/55W



1. カプラーを抜き取る。
2. ゴムカバーを取り外す。



3. 止め金を外し、古い電球を取り外す。
4. 新しい電球を取り付ける。



5. 止め金を元に戻し、ゴムカバーを取り付ける。
   ▶ 止め金の状態は、ヘッドライトの確認窓より確認できます。
6. カプラーを取り付ける。

アドバイス

ハロゲン球は非常に熱くなります。取り扱うときは、熱が冷めてから行ってください。
また、ガラスに油、汗、傷がつくと、電球が過熱し割れるおそれがあります。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

扱うときは口金の部分を持ち、ガラスが肌や固いものに触れないようにしてください。
ガラスに汚れがついたときは、中性洗剤の薄い水溶液を含ませたきれいな布で拭いてください。

■LED ヘッドライト*

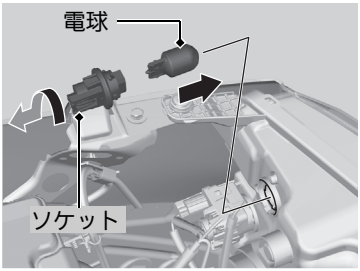
点検や交換は Honda 販売店に依頼してください。

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯電球

電球タイプ

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯:12V−21W(橙色)



1. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
2. 新しい電球を差し込む。

LED タイプ

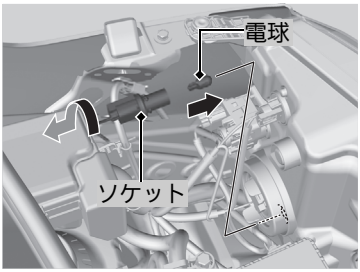
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

車幅灯電球

電球タイプ

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

車幅灯: 12V−5W



1. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
2. 新しい電球を差し込む。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

LED タイプ

車幅灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

フォグライト電球*

フォグライトは LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯電球

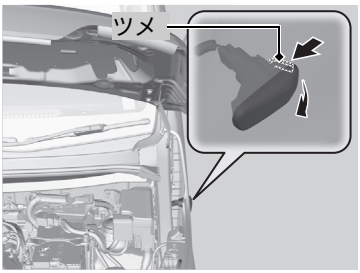
ドアミラーウィンカー装備車

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

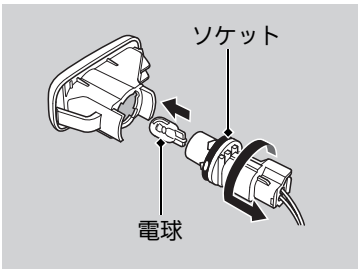
ドアミラーウィンカー非装備車

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯: 12V−5W(橙色)



1. ツメを押してランプ本体を取り外す。



2. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

制動灯 / 尾灯電球

制動灯 / 尾灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

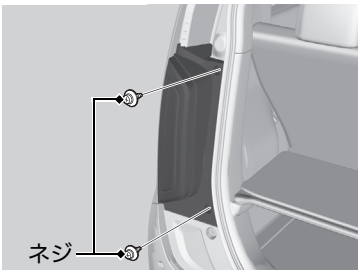
この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯電球、後退灯電球

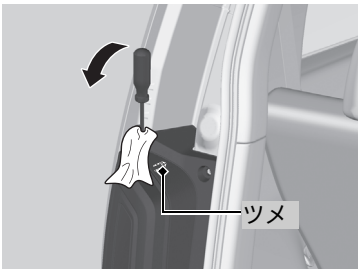
電球タイプ

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

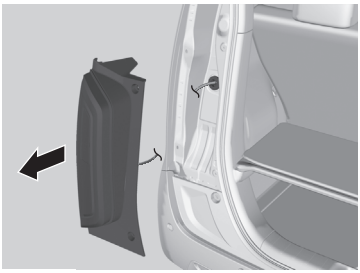
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯	:12V−21W(橙色)
後退灯	:12V−16W



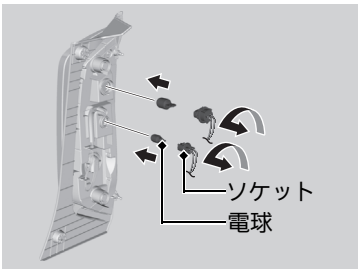
1. ネジを外す。



2. ドライバーを差し込み、矢印の方向に動かしてツメを外す。
   ▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



3. ランプ本体を矢印の方向に引き抜いて取り外す。



4. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
5. 新しい電球を差し込む。

LED タイプ

後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯、後退灯は LED を使用しています。
点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

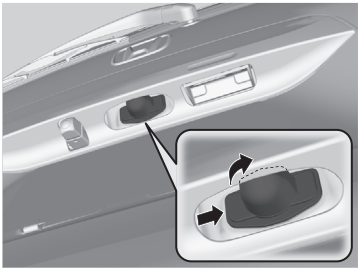
ハイマウントストップランプ電球

ハイマウントストップランプは LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

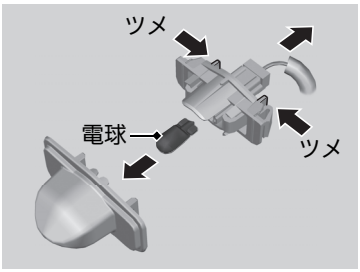
番号灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

番号灯: 12V−5W



1. レンズの側面を押してランプ本体を外す。



2. ツメを押してレンズを外す。
3. 古い電球を抜き取る。
4. 新しい電球を差し込む。

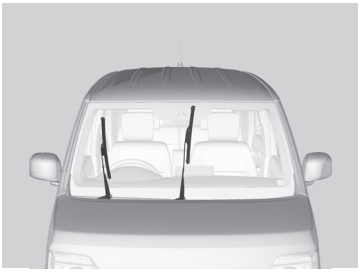
➡ **その他の電球については左の QR コードから詳細取扱説明書(HTML 版)を参照してください。**

ワイパーブレードラバーの点検と整備

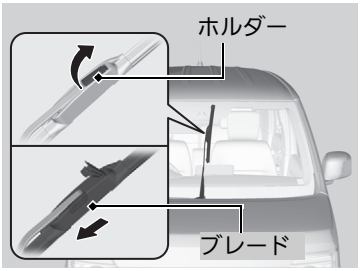
ワイパーブレードラバーの点検

ワイパーブレードラバーが傷んでいると、拭きムラになったり、ウィンドーガラスを傷つけたりします。定期的にワイパーブレードラバーの状態を点検し、傷んでいる場合は交換してください。

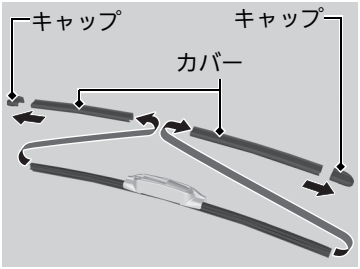
フロントワイパーブレードラバーの交換



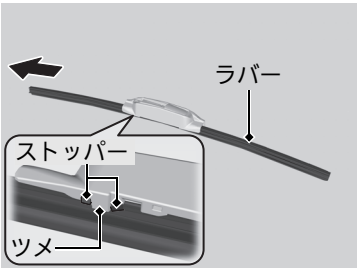
1. 運転席側、助手席側の順にワイパーアームを起こす。



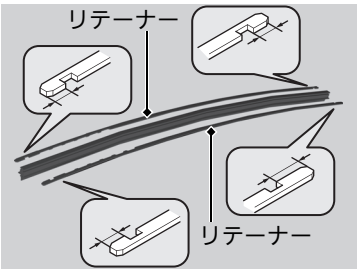
2. ホルダーを起こす。
3. ブレードをスライドさせ、ワイパーアームから取り外す。



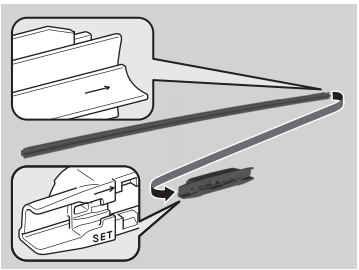
4. ブレードの両端のキャップとカバーを取り外す。



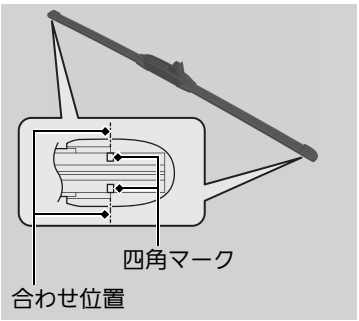
5. ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜く。



6. 引き抜いたラバーからリテーナーを外し、新しいラバーに取り付ける。
   ▶ リテーナーの切欠き部が、正しくラバーに取り付けられているか確認してください。



7. ラバーをブレードの端から差し込む。
   ▶ 正しく固定されているか確認してください。



8. ブレードの両端のカバーとキャップを取り付ける。
   ▶ キャップの合わせ位置がラバーの四角マーク内に収まっているか確認してください。
9. ブレードをワイパーアームに取り付けてホルダーを閉じる。
10. ワイパーアームを戻すときは、助手席側、運転席側の順に戻してください。

アドバイス

ワイパーアームを起こした状態でボンネットを開けたりワイパーを作動させたりすると、ボンネットとワイパーアームを損傷します。

アドバイス

ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。

リヤワイパーブレードラバーの交換

アドバイス

ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。

タイヤの点検

■ タイヤの点検について

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができないばかりか乗り心地も損なわれます。
安全な走行のために求められるタイヤの条件は下記のとおりです。

- 種類とサイズが適正であること
- 接地面の状態が良好であること
- 空気圧が適正であること
- 摩耗、傷、亀裂、異物などがないこと

これらの条件を満たすために下記の点検を行い、常にタイヤを最適な状態に保ってください。

⚠警告

摩耗が激しいタイヤ、空気圧が適正でないタイヤを使用しない。
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

タイヤの空気圧は、タイヤ温度が低いときに測定してください。
必要な場合は、指定空気圧になるまで空気を注入または排出してください。
タイヤが高温のときに空気圧を測っても、低温のときより高めになるため正しく測定できません。

指定空気圧は、運転席横の車体に貼ってあるラベルにも記載されています。
取扱説明書が手元にない場合は、車のラベルをご覧ください。

■日常的な点検

乗車前に必ず行う点検です。下記の項目を確認し、状況によってはメンテナンスをしてください。

- タイヤがつぶれているように見えないか？
  ▶ つぶれているように見えたら、すぐに空気圧をチェックしてください。
- 激しい摩耗、傷、亀裂、異物はないか？
  ▶ 状況に応じて、タイヤを交換してください。

■空気圧測定器による点検

すべてのタイヤの空気圧を測定してください。空気圧が下がっている場合は、パンクを入念に調べます。

タイヤの指定空気圧は、巻末の資料を参照してください。

➔ **仕様** P.255,257

■損傷、異物、摩耗の点検

下記の項目を点検してください。

- タイヤの接地面と側面の突起、膨らみが正常か？
  ▶異常が見られた場合は、タイヤを交換する必要があります。
- タイヤ側面に、裂け目、亀裂がないか？
  ▶裂け目や亀裂がある場合は、タイヤを交換する必要があります。
- 接地面とウェアインジケーターが同じ高さになっていないか？

ホイールカバー装備車

■ホイールカバーの脱着方法

⚠注意

ホイールカバーを取り外すときは、手などをはさまないように十分注意する。

タイヤとホイールの交換

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを使用すると、運転に関わるシステムが正常に機能しなくなったり、動力伝達装置に悪影響を与えたりします。

同時にすべての４つのタイヤを交換することをお勧めします。それができない場合は、前輪または後輪タイヤの左右を一緒に交換してください。

ホイールの仕様が純正ホイールと同一のものか確認してください。

⚠警告

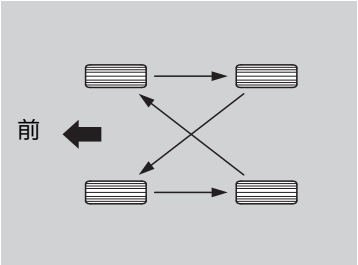
必ず、サイズと種類が適切なタイヤを使用する。

不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

タイヤのローテーション

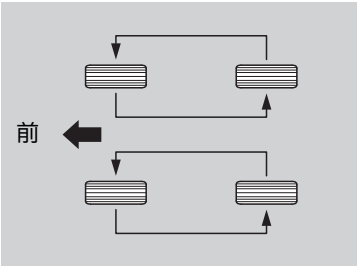
5,000km 走行したときタイヤのローテーションをしてください。
タイヤのローテーションを行うのは、特定のタイヤが摩耗するのを防ぐためです。

■回転指示マークがないタイヤの場合



図のように、タイヤをローテーションさせます。

■回転指示マークがあるタイヤの場合



図のように、タイヤをローテーションさせます。

締め付けトルク
108 N・m(11 kgf・m)

冬期のタイヤ

雪道や凍結した道路を走行する場合は、スノータイヤやタイヤチェーンを装着し、速度を落として十分に車間距離をとって運転してください。
また、横滑りの原因となりますのでハンドルやブレーキの操作は、特に慎重に行ってください。

スノータイヤの場合:
- 四輪とも同じ種類、指定サイズのタイヤを選ぶ
- 四輪すべてにスノータイヤを装着する

タイヤチェーンの場合:
- Honda 純正スチールチェーンを、付属の取扱説明書にしたがって前輪に装着する
- タイヤサイズに適合したチェーンを装着する
- ブレーキラインやサスペンションと接触していないか確認する
- ゆっくり走行する

アドバイス

サイズが不適切なチェーンを装着したり、装着のしかたが不適切だと、車のブレーキライン、サスペンション、ボディー、ホイールを損傷するおそれがあります。
チェーンが車のどこかに当たる場合、ただちに走行をやめてください。

タイヤチェーンは前輪に装着します。
後輪には、タイヤチェーンを装着しないでください。

Honda スマートキーの取り扱いと電池交換

⚠警告

ボタン電池は、お子さまが飲み込まないように注意する。
重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
飲み込んだ時は、ただちに医師の診察を受けてください。

➡ Honda スマートキーの取り扱いと電池交換については右の QR コードから詳細取扱説明書(HTML 版)を参照してください。

清掃

オーディオ、スイッチなどの電装品にシリコン系のスプレーを塗布しないでください。
故障や車両火災の原因となるおそれがあります。
万一、電装品にシリコン系のスプレーを塗布したときは、Honda 販売店にご相談ください。

■ ワックスをかけるとき

アドバイス

みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは、使わないでください。塗装面に細かい傷が残ることがあります。
ワックスは Honda 純正ケミカル用品をお使いください。

■ 親水ミラー* のお手入れ

アドバイス

ミラーの親水効果が失われますので、以下の点にご注意ください。

- ミラー表面に撥水剤やワックスを付着させない
- 砂の付いた布や油膜取り剤(コンパウンドなど)でミラー表面をこすらない

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

アクセサリーと改造

アクセサリー

アクセサリーを取り付ける場合は、下記の項目を確認してください。

- アクセサリーをフロントガラスに取り付けていないか？
  ▶ アクセサリーの揺れる動きが車外の状況認識を遅らせることがあります。
  また、吸盤がレンズのはたらきをして、火災につながるおそれがあります。
- フロントガラス、ドアガラスやフロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーを取り付けていないか？
  ▶ サイドカーテンエアバッグの作動の妨げになるので、上記の場所にはアクセサリーを取り付けないでください。

改造や部品交換について

車の改造はしないでください。
Honda 純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。
Honda が国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違反になることがあります。

診断コネクターは、故障診断用の診断装置などの機器のみを接続するためのものです。
それ以外の機器を接続すると、車の電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがるなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。

無線装置などの取り付けの際には、必ず Honda 販売店にご相談ください。
装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。

⚠警告

不正改造は、法律に触れることはもちろん、思わぬ事故につながる可能性があります。
適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故につながる可能性があります。

電装品の分解、改造は行わないでください。
故障や火災など思わぬ事故につながる可能性があります。

7 万一の場合には

この章では、万一の場合の対応方法について記載しています。

発炎筒

高速道路や踏切などの危険な場所で故障したときに使います。
発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

- 使いかた
- 使用上の注意
- 発炎時間
- 有効期限

➡ **発炎筒** P.6

⚠警告

ガソリンなどの燃えやすいもののそばで使わない。
火災や爆発のおそれがあります。

⚠注意

発炎筒を使うときは、以下のことに注意する。

- お子さまにさわらせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火して思わぬ事故ややけどの原因になります。
- 顔や身体に向けないでください。思わぬ事故ややけどの原因になります。
- トンネル内では視界を悪くするので使用しないでください。トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

パンクしたとき

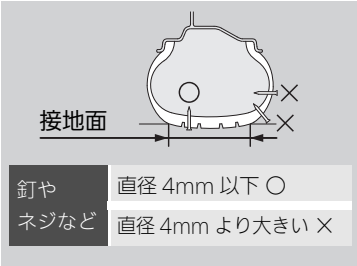
パンクしたタイヤの応急修理

スペアタイヤの装備はありません。タイヤの損傷が激しい場合は、乗り物をけん引する必要があります。
単にタイヤに小さな穴がある場合、永久的な修理をするために最寄りの販売店へ運転することができるよう、損傷を一時的に補修するタイヤパンク応急修理キットで応急修理ができます。
パンクしたときは、ハンドルをしっかり握り徐々にブレーキをかけてスピードを落とし安全な場所に停車してください。

1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. セレクトレバーを P に入れる。
3. パーキングブレーキをかける。
4. 非常点滅表示灯を点滅させ、パワーモードを OFF モードにする。

以下のような場合、タイヤパンク応急修理キットは使用できません。Honda 販売店またはロードサービスにご連絡ください。

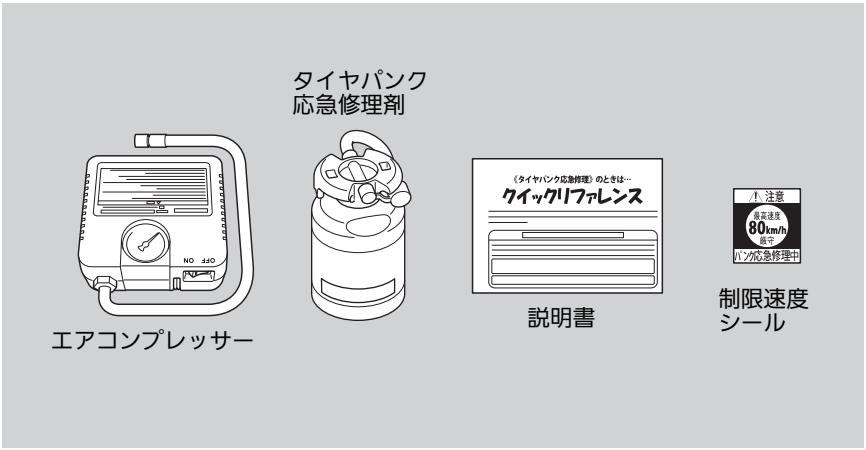
- 応急修理剤の有効期限が切れているとき
- タイヤが 2 本以上パンクしているとき
- 約 4mm 以上の切り傷や刺し傷によるパンクのとき
- 路面接地部以外が損傷を受けパンクしたとき

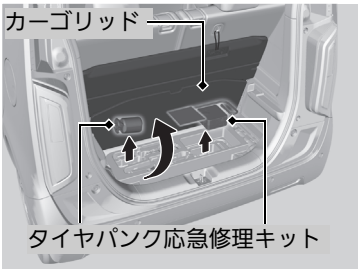


- ほとんど空気が抜けた状態で走行したとき
- タイヤがホイールから外れているとき
- ホイールが破損しているとき

タイヤに刺さったクギなどは抜かないでください。
抜いてしまうと、タイヤパンクの応急修理キットでは応急修理が不可能になる場合があります。

■ タイヤ応急修理の準備

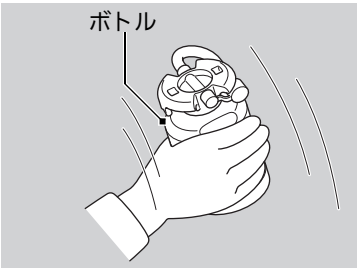




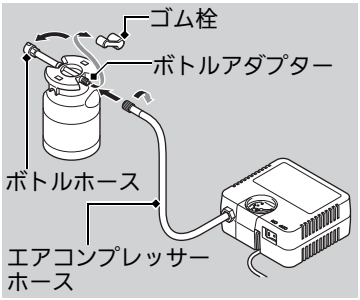
1. スライドボードとフロアボードを上げて、フロアボードを固定する。
   ➡ **フロアボード** P.111
2. カーゴリッドを開けて、タイヤパンク応急修理キットを取り出す。
3. 交通から遠ざけ、パンクしたタイヤ付近にキットを水平に置く。

応急修理をスムーズに行うため、タイヤパンク応急修理キットに付属の説明書をお読みください。

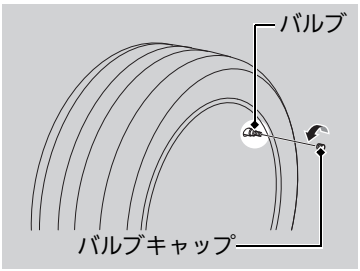
■ 応急修理剤とエアの注入



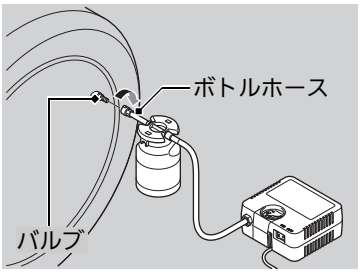
1. 応急修理剤のボトルをよく振る。



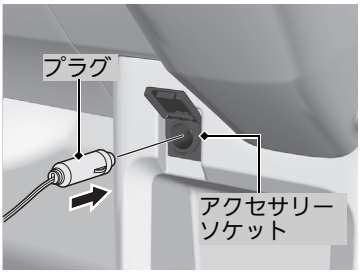
2. ボトルアダプターとボトルホースからゴム栓を外す。
3. ボトルホースを伸ばし、ボトルアダプターにエアコンプレッサーホースをきつく締め付ける。



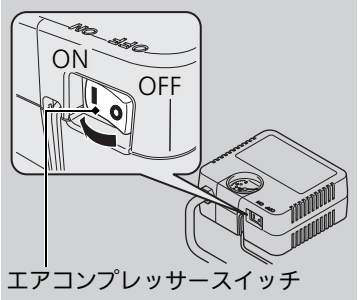
4. バルブからバルブキャップを取り外す。



5. タイヤのバルブにボトルホースをきつく締め付ける。
   ▶ 応急修理剤がすべてタイヤに流れ込むようにボトルを垂直にする。



6. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットに差し込む。
   ▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。
   ➔ **アクセサリーソケット** P.112
7. エンジンを始動する。
   ➔ **一酸化炭素について** P.40



8. エアコンプレッサーのスイッチを ON にして、指定の空気圧まで高める。
   指定空気圧:
   14 インチタイヤ装備車
   前輪:240 kPa(2.4 kgf/cm²)
   後輪:230 kPa(2.3 kgf/cm²)
   15 インチタイヤ装備車
   前輪:210 kPa(2.1 kgf/cm²)
   後輪:210 kPa(2.1 kgf/cm²)
   ▶ コンプレッサーはタイヤに応急修理剤と空気を注入し始めます。
9. 指定の空気圧に達したら、エアコンプレッサーの電源を OFF にする。
   ▶ エアコンプレッサーの空気圧計を確認してください。
10. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットから外す。
11. エンジンを停止する。
12. タイヤバルブからボトルホースを外しバルブキャップを取り付ける。

⚠警告

応急用修理剤は、飲用すると有害で、致命的になりうる物質を含んでいます。
誤って飲用した場合、
- できるだけたくさんの水を飲んでください。
- ただちに医師の診察を受けてください。

目に入ったり皮膚に付いた場合
- 水でよく洗い流してください。
- 異常を感じたときはただちに医師の診察を受けてください。

お子さまが誤って手を触れないよう、保管、取り扱いに注意してください。
ゴム栓を外した後、ボトルを振らないでください。修理剤がホースから飛び出るおそれがあります。

外気温が氷点下以下のときは応急修理剤は容易に流れないかもしれません。車内で温めると流れやすくなります。

応急修理剤が衣類などに付着すると、落ちないおそれがありますのでご注意ください。

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

アドバイス

15 分以上コンプレッサーを使用しないでください。

エアコンプレッサーは過熱し、破損するおそれがあります。

エアコンプレッサーホースを取り付けるときは、エアコンプレッサーの電源を OFF にしてください。

エアコンプレッサーの電源を ON にすると、振動して音が聞こえますが、故障ではありません。

応急修理剤が注入されている間、圧力は一時的に高くなります。注入が完了すると圧力は落ちますが、再度上昇します。これは正常です。
正しい空気圧を測定するためには、応急修理剤が注入された後にコンプレッサーの電源を OFF にしてください。

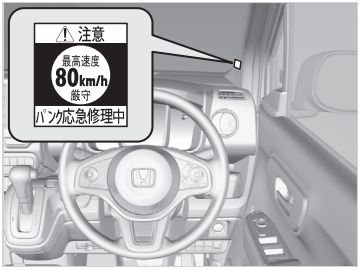
10 分以内に指定空気圧にならないときは、応急修理剤による応急修理はできません。Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。

Honda 販売店やロードサービスにタイヤ交換または修理を依頼する際には、タイヤパンク応急修理剤を使用したことを知らせてください。

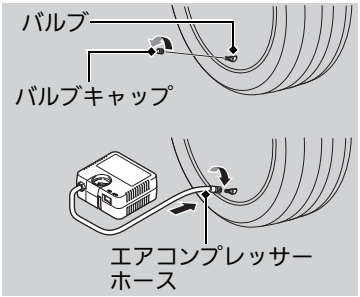
備え付けのコンプレッサーは、乗用車タイプの空気充填用です。取り扱いの際には、以下の点にご注意ください。
- エアコンプレッサーの電源は自動車用 12V 専用です。他の電源は使用しないでください。
- 使用中、エアコンプレッサーの表面が熱くなります。15分以上は連続して使用しないでください。また、再使用する場合は、エアコンプレッサーが冷えてからお使いください。

空きボトルはゴム栓を元通りつけて、元の位置に収納してください。
タイヤパンク応急修理剤の購入および空きボトルの適切な処分については販売店にお尋ねください。

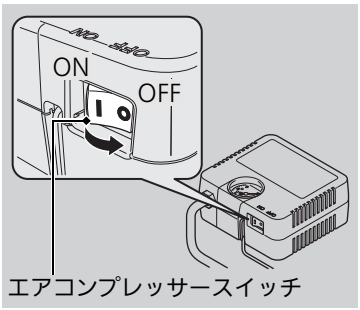
■ 点検走行



1. 速度制限シールを、運転者のよく見える位置に貼る。
2. 点検走行を開始する。
   ▶ 法定速度を守ってください。高速道路では 80 km/h 以下を厳守してください。
3. 10分または5 km走行したあと安全な場所に車を停める。



4. バルブからバルブキャップを取り外す。
5. エアコンプレッサーホースをタイヤのバルブにきつく締め付ける。
6. エアコンプレッサーに付属の空気圧計で空気圧を点検する。
   ▶ エアコンプレッサーの電源をONにしないでください。
   - 空気圧が 130 kPa(1.3 kgf/cm²)未満の場合:
     応急修理剤では修理はできません。
     運転を中止して Honda 販売店またはロードサービスに連絡してください。
   - 空気圧が指定空気圧の場合、応急修理は完了です。
     指定空気圧:
     14 インチタイヤ装備車
     前輪:240 kPa(2.4 kgf/cm²)
     後輪:230 kPa(2.3 kgf/cm²)
     15 インチタイヤ装備車
     前輪:210 kPa(2.1 kgf/cm²)
     後輪:210 kPa(2.1 kgf/cm²)
   - 空気圧が 130 kPa(1.3 kgf/cm²)以上、指定空気圧以下の場合はエアコンプレッサーを使って指定空気圧まで高めてください。
     指定空気圧:
     14 インチタイヤ装備車
     前輪:240 kPa(2.4 kgf/cm²)
     後輪:230 kPa(2.3 kgf/cm²)
     15 インチタイヤ装備車
     前輪:210 kPa(2.1 kgf/cm²)
     後輪:210 kPa(2.1 kgf/cm²)
     Honda 販売店または専門修理工場に到着するまで、ステップ 2 から 6 までを繰り返す。



▶高速道路では 80 km/h 以下で、法定速度を守って指定の Honda 販売店または専門修理工場でタイヤの修理、交換を行ってください。

7. タイヤバルブからエアコンプレッサーホースを外しバルブキャップを取り付ける。
8. キットをカーゴスペースに収納する。

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

⚠注意

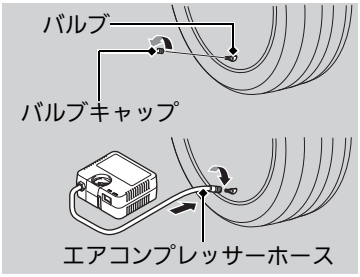
ハンドルのパッドにシールを貼らない。
SRS エアバッグが正常に機能しなくなります。

警告灯やスピードメーターが見えない位置に貼らない。
安全運転の妨げとなります。

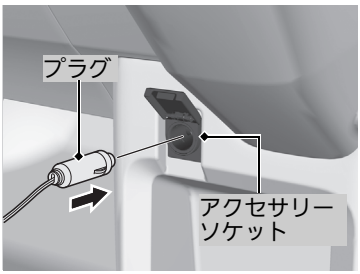
走行前に、エアコンプレッサー、空ボトルなどの積み忘れがないか、しっかりと確認してください。

■ タイヤ空気圧の補充

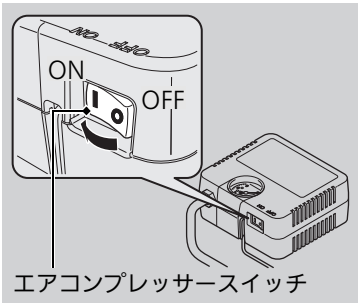
装備されているエアコンプレッサーを使用して、パンクしていないタイヤの空気圧を補充することができます。



1. エアコンプレッサーを準備する。
2. 交通から遠ざけ、空気を補充するタイヤ付近にエアコンプレッサーを水平に置く。
3. バルブからバルブキャップを取り外す。
4. エアコンプレッサーホースをタイヤのバルブにきつく締め付ける。



5. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットに差し込む。
   ▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。
   ➔ **アクセサリーソケット** P.112
6. エンジンを始動する。
   ➔ **一酸化炭素について** P.40



7. エアコンプレッサーのスイッチを ON にして、指定の空気圧まで高める。
   指定空気圧:
   14 インチタイヤ装備車
   前輪:240 kPa(2.4 kgf/cm²)
   後輪:230 kPa(2.3 kgf/cm²)
   15 インチタイヤ装備車
   前輪:210 kPa(2.1 kgf/cm²)
   後輪:210 kPa(2.1 kgf/cm²)
   ▶ コンプレッサーはタイヤに空気を注入し始めます。
8. エアコンプレッサーの電源を OFF にする。
   ▶ エアコンプレッサーに付属の空気圧計で、空気圧を確認します。
   ▶ 指定空気圧より高い場合は、エアコンプレッサーホースを緩めて減圧します。
9. エンジンを止め、エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットから外す。
10. タイヤバルブからエアコンプレッサーホースを外しバルブキャップを取り付ける。
11. エアコンプレッサーをカーゴスペースに収納する。

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

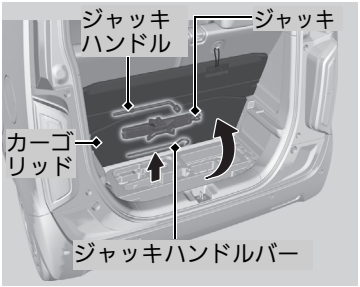
エアコンプレッサーの電源を ON にすると、振動して音が聞こえますが、故障ではありません。

備え付けのコンプレッサーは、乗用車タイプの空気充填用です。取り扱いの際には、以下の点にご注意ください。

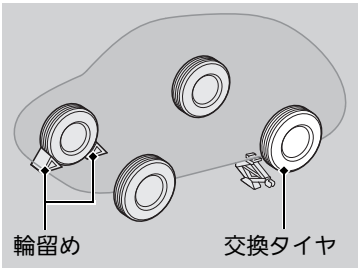
- エアコンプレッサーの電源は自動車用 12V 専用です。他の電源は使用しないでください。
- 使用中、エアコンプレッサーの表面が熱くなります。15 分以上は連続して使用しないでください。また、再使用する場合は、エアコンプレッサーが冷えてからお使いください。

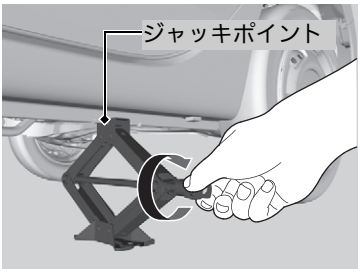
タイヤの空気圧を空気圧計で確認するときは、エアコンプレッサーの電源を OFF にしてください。

ジャッキのかけかた

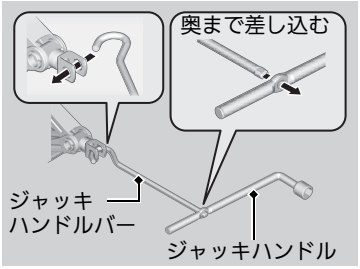


1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. セレクトレバーを[P]に入れる。
3. パーキングブレーキをかける。
4. パワーモードを OFF モードにする。
5. スライドボードとフロアボードを上げて、フロアボードを固定する。
   ➡ **フロアボード** P.111
6. カーゴリッドを開けて、ジャッキ、ジャッキハンドルバー、ジャッキハンドルを取り出す。
7. 交換するタイヤの対角線上にあるタイヤの前後に、石などで輪留めをする。
8. 交換するタイヤに最も近いジャッキポイントの下にジャッキを置く。





9. ジャッキの上部がジャッキポイントに接触するまで図の部分を矢印の方向に回す。
   ▶ ジャッキの溝にジャッキポイントがはまったことを確認します。



10. ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを使って、タイヤが地面から離れるまで車体を上げる。

⚠警告

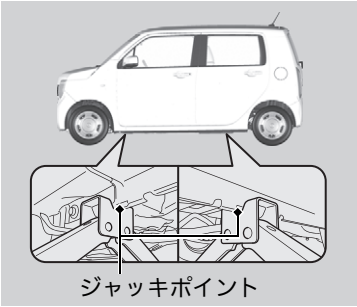
車がジャッキだけで支えられているときは、車の下に入らない。
車がジャッキから外れて、車の下にいる人が重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠注意

ジャッキを使うときは安全のため、次のことを必ず守る。
- エンジンをかけたままにしない
- 地面が固い平らなところ以外では使用しない
- ジャッキポイント以外にかけない
- 人や荷物を乗せたままにしない
- ジャッキ使用中に車内に入らない
- ジャッキの上や下にものを入れたりしない

この車に搭載されているジャッキをお使いください。
他のジャッキでは支えられる重量(呼荷重)が不足したり、形状が合わないことがあります。

ジャッキポイントは、下記の通りです。



エンジンが始動しない

エンジンの状態の確認

エンジンが始動しない場合、スターターの状態を確認してください。

スターターの状態	確認項目
スターターが全く回らない！ **スターターの回転が非常に遅い！** バッテリーがあがっていることなどが考えられます。右記の項目をチェックして適切な対応をしてください。	**マルチインフォメーションディスプレイ* の表示を確認する** 「キーでスイッチに触れて下さい」のメッセージが表示されているとき ➡ **Honda スマートキーの電池が切れたとき** P.233 • エンジン始動の作動範囲を確認します。 ➡ **ENGINE START/STOP スイッチ** P.91 • ボタンを押してもキーのインジケーターが点灯しないときは ➡ **Honda スマートキーの電池が切れたとき** P.233 **室内灯などの明るさを確認する** 室内灯などを点灯し、明るさを確認します。 • 室内灯などが非常に暗い、または全く点灯しない場合 • 室内灯などの明るさに問題がない場合 ➡ **ヒューズの点検と交換** P.245
スターターは正常に回るが… ヒューズに問題があることなどが考えられます。右記の項目をチェックして適切な対応をしてください。	**エンジン始動の手順を実行する** もう一度、正しいエンジン始動操作をしてみてください。 ➡ **エンジンの始動** P.119 **イモビライザーシステム表示灯を確認する** イモビライザーシステム表示灯が点滅しているときは、エンジンの始動ができません。 ➡ **イモビライザーシステム** P.87 **燃料の量を点検する** 燃料が入っているか確認してください。 ➡ **燃料計** P.72 **ヒューズを点検する** 全てのヒューズを確認してください。 ➡ **ヒューズの点検と交換** P.245

以上の確認をしてもエンジンが始動しない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

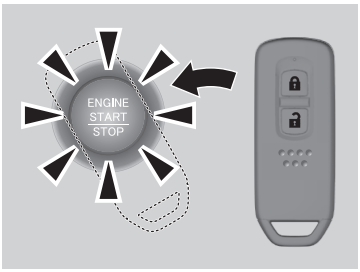
すぐに車を動かす必要がある場合は、ブースターバッテリーを利用してジャンプスタートさせます。

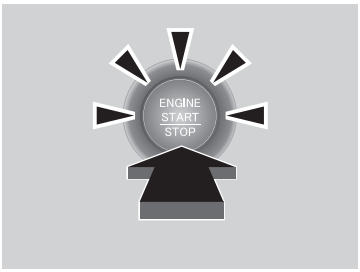
➡ **ジャンプスタートの方法** P.235

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

Honda スマートキーの電池が切れたとき

ENGINE START/STOP によるパワーモードの操作やエンジンの始動ができない場合、以下の手順を行ってください。





1. ENGINE START/STOP を押す。
   ▶「ピーピーピーピーピーピー」とブザーが鳴り、ENGINE START/STOP が約 30 秒間点滅します。
2. ENGINE START/STOP が点滅している間に、HondaスマートキーのHondaエンブレムをスイッチに接触させる。
   ▶「ピッ」とブザーが鳴り、ENGINE START/STOP が約 10 秒間点灯します。
3. ENGINE START/STOP が点灯している間に、右足でブレーキペダルを踏みながら、ENGINE START/STOP を押す。
   ▶ ブレーキペダルを踏んでいないときは、アクセサリーモードになります。

➡ **Honda スマートキーの取り扱いと電池交換については右の QR コードから詳細取扱説明書(HTML 版)を参照してください。**

緊急時のエンジン停止方法

ENGINE START/STOP ボタンは走行中、緊急事態の場合にエンジンを停止するために使用することができます。
エンジンを停止しなければならない場合は、以下のいずれかを行ってください:

- ENGINE START/STOP を約 2 秒間以上押す
- ENGINE START/STOP を連続して 3 回押す

このときハンドルはロックしません。

エンジンが停止すると、パワーモードはアクセサリーモードになります。
パワーモードを OFF にするには、車両が完全に停止後に以下の操作を行ってください:
1. シフトポジションを P にする
2. ブレーキペダルを踏まずに ENGINE START/STOP を 2 回連続して押す

緊急時など必要な場合以外は、走行中に ENGINE START/STOP を押さないでください。
走行中に ENGINE START/STOP を押すとブザーが鳴ります。

ジャンプスタート

ジャンプスタートの方法

⚠警告

ジャンプスタートは、正しい手順で慎重に行う。
ジャンプスタートの操作を間違えると、バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けるおそれがあります。
タバコの火、火花、炎をバッテリーから遠ざけ、正しい手順で行ってください。

アドバイス

気温が極端に低い場所にバッテリーを長時間にわたって置くと、内部のバッテリー液が凍結するおそれがあります。
バッテリー液が凍結したバッテリーでジャンプスタートすると、バッテリーが壊れることがあります。

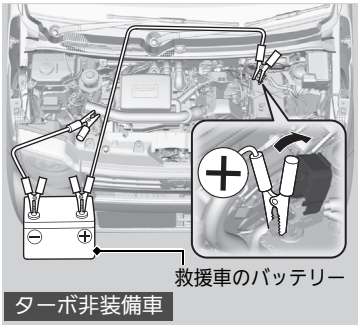
寒冷時は、バッテリーの性能が低下します。
エンジン始動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

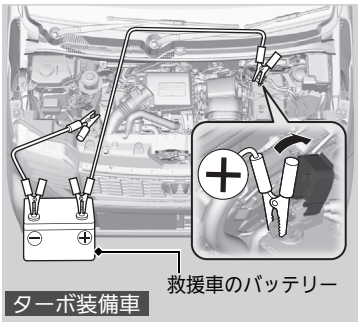
金属どうしがきちんと接続されているか確認してください。
ケーブルをエンジンのスタッドボルト以外に接続しないでください。

バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。
バッテリー内部の劣化が進むおそれがあります。

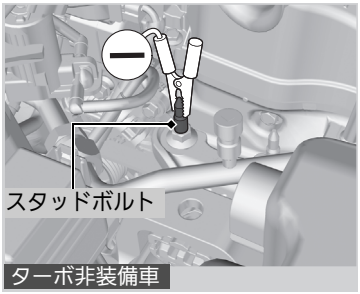
■ 処置のしかた

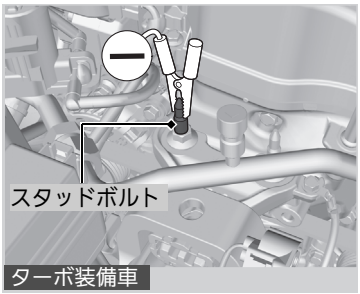
まず、ボンネットを開け、バッテリーの状態を確認します。バッテリー液が凍っている場合はバッテリー液が溶けるまでジャンプスタートはできません。
次に、オーディオやライトなどの電源を OFF にしてください。
ブースターケーブルのクリップは、エンジンの振動などで外れないように確実に固定してください。また、ケーブルの巻き込みに注意してください。





1. 自車と救援車のパワーモードを OFF モード / エンジンスイッチを 0 にする。
2. ブースターケーブルを、自車のバッテリーの ⊕ 端子に接続する。
3. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子に接続する。
   ▶ 救援車には、12V のバッテリーを装着している車を使用してください。
   ▶ 自動車用充電器を使用する場合は、電圧を 15V 以下に設定してください。





4. もう1本のブースターケーブルを、救援車のバッテリーの ⊖ 端子に接続する。
5. ケーブルの反対側を、自車のエンジンのスタッドボルトに接続する。
6. 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにする。
7. 自車のエンジンを始動する。

■ エンジン始動後の作業

自車のエンジンが始動したら、下記の手順でブースターケーブルを取り外します。

1. 自車のエンジンのスタッドボルトからケーブルを外す。
2. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊖ 端子から外す。
3. 自車のバッテリーの ⊕ 端子からケーブルを外す。
4. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子から外す。

Honda 販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。

⚠警告

バッテリーを扱うときは、火気を近づけない。
バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると、バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
バッテリーを扱うときは、保護衣・保護面を着用するか、Honda 販売店でバッテリーのメンテナンスを受けてください。

バッテリー液の取り扱いに注意する。
バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに付くとその部分が侵されますので十分注意してください。
- 万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも 5 分間以上洗浄する
- 飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲む

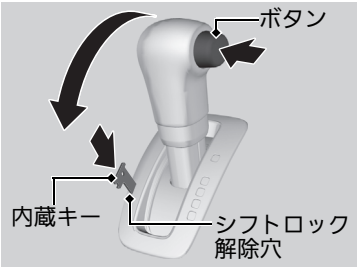
応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

ブースターケーブルの端子どうしが接触しないよう注意してください。

セレクトレバーが動かない

セレクトレバーが、[P]の位置でロックされて動かなくなったら、下記の方法で解除してください。

■ ロックを解除する



1. パーキングブレーキをかける。
2. パワーモードを OFF モードにする。
3. シフトロック解除穴に内蔵キーを差し込む。
4. キーを押しながらセレクトレバーのボタンを押し、セレクトレバーを[N]に入れる。
   ▶ ロックが解除されました。Honda 販売店で、早めに点検を受けてください。

オーバーヒート

オーバーヒートしたときの対処方法

次のようなときは、オーバーヒートです。

インフォメーションディスプレイ装備車

- 高水温警告灯(レッド)が点灯したり、エンジンの力が急に落ちる

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

- マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温」と表示される
- エンジンの力が急に落ちる

共通

- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている

⚠警告

蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けない。
ラジエーターから噴き出る蒸気や熱湯に触れると、重大な傷害を受けるおそれがあります。

エンジンが熱いうちにラジエーターキャップを外さない。
冷却水が噴き出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずラジエーターが十分に冷えてからキャップを外してください。

アドバイス

インフォメーションディスプレイ装備車

高水温警告灯が点灯した状態で運転すると、エンジンを著しく損傷するおそれがあります。

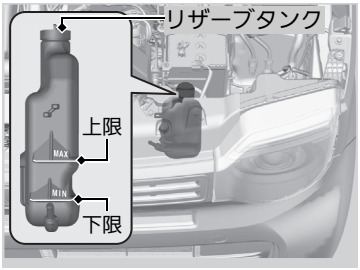
マルチインフォメーションディスプレイ装備車

マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温」とメッセージが表示された状態で運転すると、エンジンを著しく損傷するおそれがあります。

■最初にすること

1. ただちに車を安全な場所に停める。
   ▶ セレクトレバーを[P]に入れ、パーキングブレーキをかけます。
2. すべてのアクセサリーの電源を切り、非常点滅表示灯を点滅させます。
   ▶ **蒸気が出ていない場合:** エンジンをかけたままボンネットを開ける。
   ▶ **蒸気が出ている場合:** エンジンを停止し、蒸気が出なくなってからボンネットを開ける。

■次にすること



インフォメーションディスプレイ装備車

1. 冷却ファンの作動を確認し、高水温警告灯が消灯してからエンジンを停止する。
   ▶冷却ファンが作動していない場合は、すぐにエンジンを停止します。

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

1. 冷却ファンの作動を確認し、マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温」のメッセージが表示されなくなったらエンジンを停止する。
   ▶冷却ファンが作動していない場合は、すぐにエンジンを停止します。

共通

2. エンジンが冷えてから冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検する。
   ▶冷却水量が不足していたら、ラジエーターとリザーブタンクに冷却水を補給します。冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

■最後にすること

インフォメーションディスプレイ装備車

- 十分にエンジンが冷えたら、エンジンを始動し高水温警告灯を確認する。警告灯が消灯している場合は、運転を再開します。点灯しているときは、Honda販売店に修理を依頼します。

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

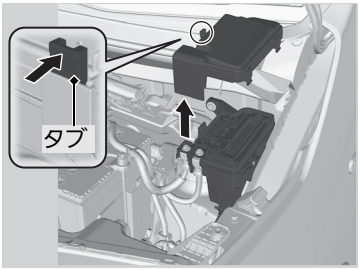
- 十分にエンジンが冷えたら、エンジンを始動する。「エンジン冷却水高温」のメッセージが消えた場合は、運転を再開します。消えないときは、Honda販売店に修理を依頼します。

ヒューズ

ヒューズの設置場所

電気装置が作動しない場合、パワーモードを OFF モードにして、ヒューズが切れていないか確認します。ヒューズは、エンジンルームと室内のヒューズボックスに入っています。

■ エンジンルーム内のヒューズボックス



エンジンルーム内の助手席側に付いているバッテリーの隣にあります。タブを押して開けてください。

ヒューズボックスのフタに、ヒューズの場所が表示してあります。
ヒューズ番号とフタの表示で、該当するヒューズの位置を確認してください。

■各ヒューズの装備と容量

容量に( )がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

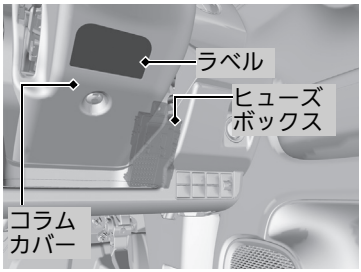
	表示	装備	容量
1		ヒューズボックス メイン 2	40A
		DC/DC 2	30A
		ABS/VSA FSR (EPB)*	(40A)
		EPS	40A
		DC/DC 1	30A
		ABS/VSA モーター	40A
		MAIN	100A
2		IG MAIN	50A
		ヒューズボックス メイン 1	60A
3	—	—	—
4	—	—	—
5		ホーン・制動灯	10A
6	—	—	—
7		ABS/VSA FSR (NO EPB)*	(20A)
8	—	—	—
9		非常点滅表示灯	10A
10		フォグライト*	(7.5A)
11	—	—	—
12		バックアップ (PB)	10A
13		バックアップ (VST)	15A
14	—	—	—
15		スターター	30A

	表示	装備	容量
16		冷却ファン	30A
17		ワイパー	20A
18		MG クラッチ	7.5A
19	—	—	—※1
		VBACT	10A※2
20		LAF	7.5A
21	L	LCM L	10A※3
	L	左側ヘッドライト ロービーム	10A※4
22	R	LCM R	10A※3
	R	右側ヘッドライト ロービーム	10A※4
23		ドライブバイワイヤ	15A※1 20A※2
24		スモールライト	10A※3 7.5A※4
25		IG COIL	15A
26		IGP	15A
27	—	—	—※3
	L	左側ヘッドライト ハイビーム	10A※4
28	—	—	—※3
	R	右側ヘッドライト ハイビーム	10A※4

※1: ターボ非装備車
※2: ターボ装備車
※3: LED ヘッドライト装備車
※4: ハロゲンヘッドライト装備車

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ 室内のヒューズボックス



インストルメントパネルの奥にあります。
▶ 下から確認できます。

コラムカバーの下に貼ってあるラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。
ヒューズ番号とラベルの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。

■各ヒューズの装備と容量

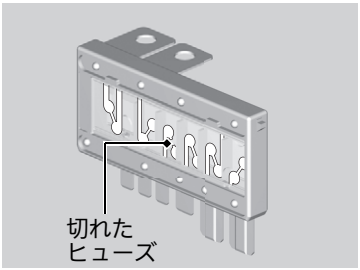
容量に( )がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

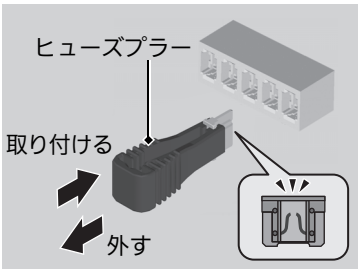
	表示	装備	容量
1		ヒーターモーター	30A
2	—	—	—
3		ウォッシャー	10A
4		SRS エアバッグ システム (+B)	10A
5	RR	運転席側 リヤパワーウィンドー	15A
6	RR	助手席側 リヤパワーウィンドー	15A
7	AS	助手席 パワーウィンドー	15A
8		オーディオ (VST)*	10A
9	—	—	—
10	—	—	—
11		E-LATCH	7.5A
12	—	—	—
13		VSA(VST)	5A
14		アクセサリーソケット	20A
15		アクセサリー	5A
16		Honda スマートキー システム	10A
17	—	—	—
18	DR	運転席 パワーウィンドー	20A
19		リヤデフロスター	20A
20		SRS エアバッグ システム (IG1)	5A
21		リヤワイパー	10A

	表示	装備	容量
22		後退灯	5A
23	—	—	—
24	—	—	—
25		ヒーテッドドアミラー*	10A
26		電動ドアミラー	7.5A
27		エアコン	5A
28	—	—	—
29		シートヒーター*	10A
30		ドアロックモーター1 (アンロック)	15A
31	—	—	—
32		ドアロックモーター2 (アンロック)	15A
33		ドアロックモーター2 (ロック)	15A
34		ドアロックモーター1 (ロック)	15A
35		メーター(VST)	7.5A
36		ACC(VST)	5A
37		フューエルポンプ	15A
38		スターターカット コイル	5A
39		FI(EM)	10A
40		フロントワイパー	5A
41		メーター	7.5A
42		VSA CNTL(VST)	5A
43		バックアップ 2	10A

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

ヒューズの点検と交換





1. パワーモードを OFF モードにし、ヘッドライトとすべてのアクセサリーを OFF にする。
2. エンジンルーム内のヒューズボックスのフタを取り外す。
3. エンジンルーム内の大きいヒューズを点検する。
   ▶ 切れているヒューズがあったら、プラスドライバーでネジを外し、新しいものと交換してください。
4. エンジンルーム内と、室内の小さいヒューズを点検する。
   ▶ 切れているヒューズがあったら、ヒューズプラーで引き抜き、新しいものと交換してください。

アドバイス

規定容量より大きいヒューズに交換すると、電気系統を損傷する危険性が高くなります。
交換したあと、すぐにヒューズが切れるような場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

ヒューズは同じ規定容量のヒューズと交換してください。

各ヒューズの装備と容量 P.242, 244

けん引

非常時のけん引

けん引するときは、Honda 販売店にご連絡ください。
けん引は専門業者に依頼して 2WD 車は四輪または前輪、4WD 車は四輪を持ち上げて行ってください。

車輪が動かないときなど動力伝達装置に異常があると思われるときは、2WD 車は四輪または前輪、4WD 車は四輪を持ち上げてけん引してください。

アドバイス

バンパーで車を持ち上げたり、けん引すると、バンパーがいちじるしく損傷します。
バンパーは車の重量を支えるようにはできていません。

ロープやチェーンなどを使ってけん引されるときは、車体に当たる部分に布を巻いてください。
そのままけん引されると、車体に傷が付くことがあります。

電子制御パーキングブレーキ装備車

パーキングブレーキが解除されていることをブレーキ警告灯(レッド)で確認してください。
パーキングブレーキが解除できないときは、必ず四輪を持ち上げてけん引してください。

➔ **電子制御パーキングブレーキ** P.181

アドバイス

アイボルト以外のところにロープをかけないでください。
車体が破損、変形する場合があります。

長い下り坂では、ブレーキの温度が上がりブレーキが効かなくなるおそれがありますので、レッカー車にけん引してもらってください。

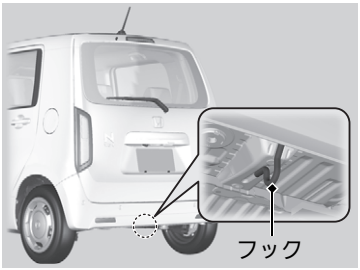
アドバイス

エンジンが停止している状態でのけん引は、以下のことに注意してください。

- ハンドルがロックしていないか確認する
- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる
- 無段変速オートマチック車は、トランスミッションが破損するおそれがある

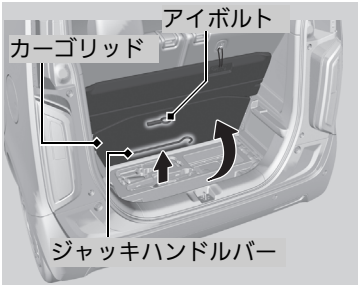
車両後方についているフックを他車のけん引や緊急時の脱出に使用することはできません。

フックが破損するおそれがあります。後方からけん引する必要がある場合は、Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。

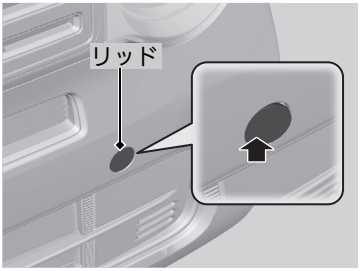


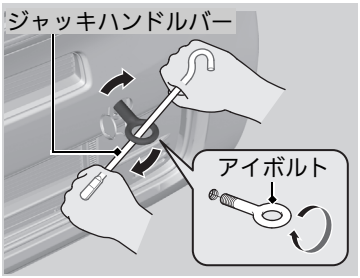
■ やむをえずけん引される場合

やむをえず四輪を接地させてロープでけん引を行う場合、次の方法で行ってください。

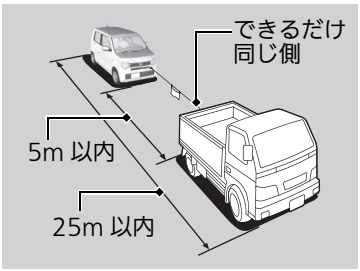


1. エンジンルームの下からトランスミッションフルード（オイル）などが漏れていないことを確認する。
   ▶ 異常がある場合は、四輪または前輪を接地させてのけん引は行わないでください。
2. スライドボードとフロアボードを上げて、フロアボードを固定する。
   ➔ **フロアボード** P.111
3. カーゴリッドを開けて、ジャッキハンドルバー、アイボルトを取り出す。
   ▶ ジャッキハンドルバーは、ジャッキの下に収納されています
4. リッドの左側を押し込んで外す。





5. アイボルトがガタつかない程度まで手で締めつけてから、ジャッキハンドルバーで確実に締め付ける。

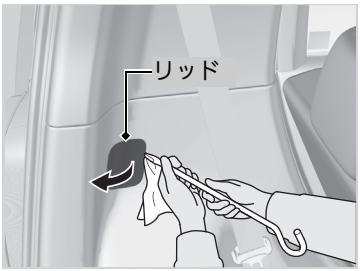


6. ロープをアイボルトにかけ、ロープ中央部に白い布(0.3m 平方以上)を付ける。
7. エンジンをかけてセレクトレバーを[D]にし、約5秒間保持する。
   ▶ エンジンが始動しないときは、パワーモードをアクセサリーモードまたは ON モードにします。
8. セレクトレバーを[N]にする。
9. パーキングブレーキを解除する。
10. 速度30km/h以下、走行距離80km以内でけん引する。
    ▶ けん引中は、前の車の制動灯に注意してロープをたるませないようにしてください。

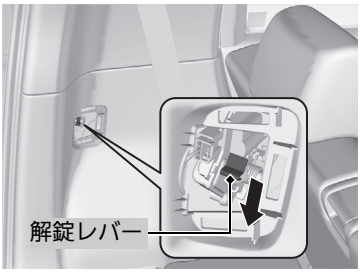
フューエルリッドが解錠できないとき

■ 解錠できないときの対処方法

万一、フューエルリッドが解錠できなくなったときは、応急処置として次の方法で解錠してください。



1. テールゲートを開ける。
2. リヤシートを前方いっぱいに動かす。
   ➡ **リヤシートの調節** P.104
3. ジャッキハンドルバーの先でカーゴスペース助手席側にあるリッドを開ける。
   ▶ リッドが傷付かないよう、ジャッキハンドルバーの先に布などを巻き付けてください。



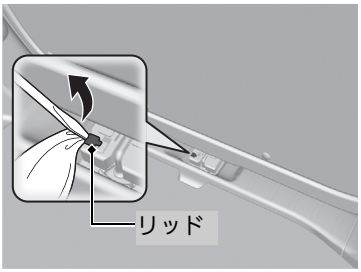
4. 解錠レバーを下げる。
   ▶ 解錠レバーを下げるとフューエルリッドが解錠されます。
5. フューエルリッドを開ける。
   ➡ **給油のしかた** P.194

応急処置後は、Honda 販売店で点検を受けてください。

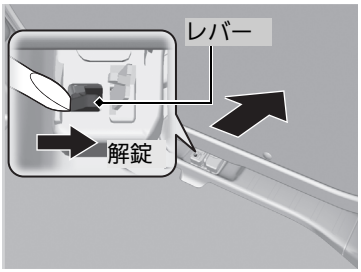
テールゲートが開かないとき

■ 開かないときの対処方法

万一、テールゲートを開けることができなくなったときは、応急処置として次の方法で開けてください。



1. テールゲートのロック部分のリッドに、マイナスドライバーの先端を差し込み、リッドを開ける。
   ▶ リッドが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



2. マイナスドライバーを使ってレバーを右に動かしたままの状態で、テールゲートを押し開ける。

⚠注意

テールゲートを内側から開けるときは、周囲の安全と車の上方や後方に十分なスペースがあることを確認する。
人やものにぶつかり思わぬけがをするおそれがあります。

応急処置後は、Honda 販売店で点検を受けてください。

Q **ENGINE START/STOP のパワーモードが OFF モードからアクセサリーモードにならない**

A
- ハンドルがロックされていませんか？
- ハンドルを左右に回しながら、ENGINE START/STOP を押してください。

Q **ENGINE START/STOP のパワーモードが OFF モードにならない**

A
- セレクトレバーが P 以外の位置になっていませんか？

Q **ブレーキペダルを踏んだらガタガタと振動した**

A
- ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが小刻みに動くことがあります。これは ABS が作動しているときの現象で異常ではありません。そのまま、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。

➡ ABS（アンチロックブレーキシステム）（P. 189）

Q **後席ドアが車内から開けられない**

A
- チャイルドプルーフが施錠の位置になっていませんか？後席ドアを外から開け、チャイルドプルーフのツマミを解錠の位置にしてください。

Q **ドアを解錠したはずなのに施錠されている**

A
- キーレスエントリーシステム、Honda スマートキーシステムで解錠してから、約 30 秒以内にドア、テールゲートを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。

Q **運転席ドアを開けるとブザーが鳴る**

A
- パワーモードを OFF モード以外にしていませんか？
- ライトを消し忘れていませんか？
- アイドリングストップ中に運転席ドアを開けていませんか？

Q 降車時オートドアロック装備車
ドアを閉めた後､車から離れるとブザーが鳴る

A
- ドアが閉まりきる前に降車時オートドアロックの作動範囲から離れていませんか？

➡ **施錠するには(降車時オートドアロック機能)***（P. 83）

Q **走行するとブザーが鳴る**

A
- 運転席または助手席シートベルトを着用していますか？

電子制御パーキングブレーキ非装備車
- パーキングブレーキを完全に戻していますか？

Q 電子制御パーキングブレーキ装備車
パーキングブレーキスイッチを押してもパーキングブレーキが解除できない

A
- ブレーキペダルを踏んでスイッチを操作していますか？

Q 電子制御パーキングブレーキ装備車
アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが自動で解除できない

A
- 運転席シートベルトを着用していますか？
- シフトポジションが P 、N 以外になっていますか？

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

Q 走行中にブレーキを踏むと金属的な摩擦音がする

A

- ブレーキパッドが摩耗して使用限界になっているおそれがあります。Honda 販売店で点検を受けてください。

Q レギュラーガソリン仕様車にプレミアム(ハイオク)ガソリンを使用しても大丈夫ですか?

A

- プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

9 仕様

この章には、仕様に関する情報が記載されています。

N-WGN

■仕様

名称	N-WGN
排気量	658cm^3
車体形状	4ドアステーションワゴン
乗車定員	4名

■点火プラグ

NGK	DILMAR7A11S※1 ILMAR8D8S※2

※1： ターボ非装備車
※2： ターボ装備車

点火プラグは、イリジウムプラグを使用しています。交換時期は「メンテナンスノート」をご覧ください。

■確認

ブレーキペダル	遊び	3.0-11.0mm
	床板とのすき間	134mm以上※1 131mm以上※2 130mm以上※3 { 約196N(20kgf)の力 }
	カーペットとのすき間(参考値)	99.8mm以上※1 96.7mm以上※2 95.7mm以上※3 { 約196N(20kgf)の力 }
パーキングブレーキ	踏みしろ※1, ※2	5～7ノッチ { 約294N(30kgf)の力 }

※1： 2WD 電子制御パーキングブレーキ非装備車
※2： 4WD 電子制御パーキングブレーキ非装備車
※3： 電子制御パーキングブレーキ装備車

■燃料

燃料種類	無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン (E10/ETBE22)
燃料タンク容量	27L※1 25L※2

※1： 2WD 車
※2： 4WD 車

■エアクリーナーエレメント

タイプ	湿式

■バッテリー

容量 / タイプ	32AH(5), 40AH(20)/M-42R※1

※1： アイドリングストップシステム専用バッテリー

■ウォッシャー液

タンク容量	1.5L

■電球

ヘッドライト(ハイ / ロービーム)	12V-60/55W※1 LED※2
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯	12V-21W(橙色)
車幅灯	12V-5W※1 LED※2
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯	12V-5W(橙色)
制動灯	LED
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯	12V-21W(橙色)
尾灯	LED
後退灯	12V-16W
ハイマウントストップランプ	LED
番号灯	12V-5W
室内灯	12V-8W

※1： ハロゲンヘッドライト装備車
※2： LED ヘッドライト装備車

■ディファレンシャルオイル

4WD 車のみ

指定液	Honda 純正ウルトラ HGO-μ
規定量	0.33L(交換時)

■トランスファーフルード

4WD 車のみ

指定液	Honda 純正ウルトラ DPSF- II
規定量	0.43L(交換時)

■ブレーキフルード

指定液	Honda 純正ブレーキフルード DOT3 または DOT4

■トランスミッションフルード

指定液	Honda 純正ウルトラ HCF-2
規定量	2.5L※1(交換時) 2.55L※2(交換時)

※1： 2WD 車
※2： 4WD 車

■エンジンオイル

ターボ非装備車

推奨	・Honda ULTRA NEXT※1 ・Honda ULTRA Green ・Honda ULTRA LEO ・API SM 級以上 0W-16, 0W-20	
規定量	オイル交換時	2.4L
	オイル、オイルフィルター同時交換時	2.8L

※1： 最も省燃費性に優れたオイルです。

ターボ装備車

推奨	・Honda ULTRA LEO※1 ・Honda ULTRA LTD ・API SM 級以上 0W-20, 5W-30	
規定量	オイル交換時	2.4L
	オイル、オイルフィルター同時交換時	2.8L

※1： 最も省燃費性に優れたオイルです。

■冷却水

指定液	Honda 純正ウルトラ e クーラント
規定濃度	50%
規定量	2.79L※1(交換時:リザーブタンク 0.31L 含む) 2.78L※2(交換時:リザーブタンク 0.31L 含む)

※1： ターボ非装備車
※2： ターボ装備車

■タイヤ

サイズ	155/65R14 75S	
空気圧 kPa(kgf/cm²)	前輪	240(2.4)
	後輪	230(2.3)
リムサイズ	14×4 1/2J	

N-WGN Custom

■仕様

名称	N-WGN Custom
排気量	658cm^3
車体形状	4 ドアステーションワゴン
乗車定員	4 名

■点火プラグ

NGK	DILMAR7A11S※1 ILMAR8D8S※2

※1 : ターボ非装備車
※2 : ターボ装備車

点火プラグは、イリジウムプラグを使用しています。交換時期は「メンテナンスノート」をご覧ください。

■確認

ブレーキペダル	遊び	3.0-11.0mm
	床板とのすき間	130mm 以上 { 約 196N(20kgf)の力 }
	カーペットとのすき間(参考値)	95.7mm 以上 { 約 196N(20kgf)の力 }

■燃料

燃料種類	無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン (E10/ETBE22)
燃料タンク容量	27L※1 25L※2

※1 : 2WD 車
※2 : 4WD 車

■エアクリーナーエレメント

タイプ	湿式

■バッテリー

容量 / タイプ	32AH(5), 40AH(20)/M-42R※1

※1 : アイドリングストップシステム専用バッテリー

■ウォッシャー液

タンク容量	1.5L

■電球

ヘッドライト(ロービーム)	LED
ヘッドライト(ハイビーム)	LED
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯	LED
車幅灯	LED
フォグライト	LED
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯	LED
制動灯 / 尾灯	LED
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯	LED
後退灯	LED
ハイマウントストップランプ	LED
番号灯	12V-5W
室内灯	LED
前席フットランプ	LED
ドリンクホルダーランプ	LED
インパネトレーランプ	LED

■ディファレンシャルオイル

4WD 車のみ

指定液	Honda 純正ウルトラ HGO-μ
規定量	0.33L(交換時)

■トランスファーフルード

4WD 車のみ

指定液	Honda 純正ウルトラ DPSF- II
規定量	0.43L(交換時)

■ブレーキフルード

指定液	Honda 純正ブレーキフルード DOT3 または DOT4

■トランスミッションフルード

指定液	Honda 純正ウルトラ HCF-2
規定量	2.5L※1(交換時) 2.55L※2(交換時)

※1： 2WD 車
※2： 4WD 車

■エンジンオイル

ターボ非装備車

推奨	・Honda ULTRA NEXT※1 ・Honda ULTRA Green ・Honda ULTRA LEO ・API SM 級以上 0W-16, 0W-20	
規定量	オイル交換時	2.4L
	オイル、オイルフィルター同時交換時	2.8L

※1： 最も省燃費性に優れたオイルです。

ターボ装備車

推奨	・Honda ULTRA LEO※1 ・Honda ULTRA LTD ・API SM 級以上 0W-20, 5W-30	
規定量	オイル交換時	2.4L
	オイル、オイルフィルター同時交換時	2.8L

※1： 最も省燃費性に優れたオイルです。

■冷却水

指定液	Honda 純正ウルトラ e クーラント
規定濃度	50%
規定量	2.79L※1(交換時:リザーブタンク 0.31L 含む) 2.78L※2(交換時:リザーブタンク 0.31L 含む)

※1： ターボ非装備車
※2： ターボ装備車

■タイヤ

サイズ	155/65R14 75S※1	
	165/55R15 75V※2	
空気圧 kPa(kgf/cm²)	前輪	240(2.4)※1
		210(2.1)※2
	後輪	230(2.3)※1
		210(2.1)※2
リムサイズ	14×4 1/2J※1 15×4 1/2J※2	

※1： ターボ非装備車
※2： ターボ装備車

索引

数字

4WD(四輪駆動機構) 129
7 速マニュアルシフトモード 124
シフトインジケーター/M
(7 速マニュアルシフトモード)
表示灯 123

A

ABS
(アンチロックブレーキシステム) ... 189
ABS 警告灯 48
ACC(アダプティブクルーズ
コントロール) 147
ACC 警告灯 48
ACC 表示灯 57
A/C(エアコン) 114

C

CMBS(衝突軽減ブレーキ) 132
CMBS 警告灯 50

E

ECON スイッチ 127
ENGINE START/STOP
スイッチ 5, 91
EPS(電動パワーステアリング)システム
警告灯 52
ETC 車載器 6

H

Honda スマートキー 81
ENGINE START/STOP
スイッチ 5, 91
Honda スマートキーシステム
警告灯 47
緊急時のエンジン停止方法 234
電池交換のしかた 217

I

ISOFIX/i-Size 35

L

LKAS(車線維持支援システム) 161
LKAS 警告灯 48
LKAS 表示灯 57

M

M(7 速マニュアルシフトモード)
表示灯 123

P

PGM-FI 警告灯 46

S

SRS エアバッグ 19
エアバッグシステム警告灯 26, 48

T

TRIP/CLOCK ノブ 73
TRIP スイッチ 75

U

USB ジャック 116

V

VSA
(ビークルスタビリティアシスト) 128
VSA OFF 警告灯 49, 129
VSA 警告灯 49, 128

W

W(ワット数) 254, 256

あ

アームレスト 110
アイドリングストップシステム 126
　アイドリングストップシステム
　　警告灯 52
　アイドリングストップ表示灯
　（グリーン）..... 57, 126
アイボルト 248
アクセサリー 219
アクセサリーソケット 112, 223, 228
安全なドライブのために 12
安全に関する表示 2
安全のための確認事項 12
アンチロックブレーキシステム
　（ABS）..... 189
　ABS 警告灯 48
アンビエントメーター 76

い

一酸化炭素の危険性 40
イモビライザーシステム 87
　セキュリティアラームシステム
　　作動表示灯 57
イルミネーションコントロール 100
インフォメーションスイッチ 74
インフォメーションディスプレイ 73
インフォメーション表示灯 56

う

ウィンカースイッチ(方向指示器)
　方向指示器表示灯 55
ウィンドウォッシャー
　ウィンドウォッシャー液の補給 205
ウィンドーの開閉 89
運転
　エンジンの始動 119
　シフト操作 122
　ブレーキ操作 181

え

エアクリーナーエレメント 254, 256
エアコン 114
　エアコンの使いかた 115
　モード切り換えスイッチ 115
エアバッグ 19
　SRS エアバッグ 19
　エアバッグシステム警告灯 26, 48
　エアバッグシステム故障診断記録
　　装置 3
　エアバッグのお手入れ 27
　サイドエアバッグ 22
　サイドカーテンエアバッグ 24
エコアシストシステム 76
　アンビエントメーター 76
エマージェンシーストップシグナル 190
エンジンオイル 204
　推奨エンジンオイル 204, 255, 257
　油圧警告 62
　油圧警告灯 45
エンジンスイッチ 91
エンジンの始動 119
　エンジンが始動しない 232
　ジャンプスタート 235
エンジンルーム内のメンテナンス 202
　ウィンドウォッシャー液の補給 205
　エンジンルーム内の
　　メンテナンス項目 202
　推奨エンジンオイル 204, 255, 257
　ボンネットを開ける 203
　冷却水の点検と補給 239
エンジン冷却水 240, 255, 257

お

オイルメンテナンス表示 200
応急修理剤(タイヤパンク) 221
オーディオ装置 116
オートエアコン 115

オートハイビーム 94
オートハイビーム表示灯 58
オートマチックブレーキホールド 186
オートマチックブレーキホールド システム表示灯 58
オートマチックブレーキホールド 表示灯 58
オーバーヒート 239

か

鍵(かぎ) 80
ガソリン 194, 254, 256
下部取付金具 35

き

キー 80
Honda スマートキー 80, 81
Honda スマートキーの電池が 切れたとき 233
キーレスエントリー 84
キーレスエントリーでドアが 開かない 251
後席ドアが開かない 251
内蔵キー 80
キーレスエントリー 84
給油 194
給油のしかた 194
指定燃料 194, 254, 256
燃料計 72
燃料残量警告灯 48

く

空気圧 255, 257
空気圧測定器による点検 215
グラブレール 7
車の改造 219
グローブボックス 110

け

計器 41
警告灯 43
ABS(アンチロックブレーキシステム) 警告灯 48
CMBS(衝突軽減ブレーキ)警告灯 50
EPS(電動パワーステアリング) システム警告灯 52
Honda スマートキーシステム 警告灯 47
Honda スマートキー電池消耗 警告灯 52
Honda スマートキー持ち去り 警告灯 52
LKAS(車線維持支援システム)警告灯 (オレンジ) 48
PGM-FI 警告灯 46
VSA OFF 警告灯 49, 129
VSA(ビークルスタビリティアシスト) 警告灯 49, 128
アイドリングストップシステム警告灯 (オレンジ) 52
エアバッグシステム警告灯 26, 48
オートライトコントロール警告灯 53
高水温警告灯(レッド) 49
シートベルト非着用警告灯 47
シフトポジション P 移動警告灯 52
渋滞追従機能付 ACC (アダプティブクルーズコントロール) 警告灯(オレンジ) 48
充電警告灯 46
スターティングシステム警告灯 53
ドア / テールゲート開閉警告灯 52
トランスミッション警告灯 46
燃料残量警告灯 48
ブレーキ警告灯(レッド) 43
ブレーキシステム警告灯 (オレンジ) 44
油圧警告灯 45
リヤシートベルト非着用警告灯 47

路外逸脱抑制機能警告灯 53, 54
けん引 246

こ

交換
後退灯電球 209
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯電球 209
車幅灯電球 207
制動灯 / 尾灯電球 208
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯電球 207
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯電球 208
ハイマウントストップランプ電球 210
番号灯電球 210
フォグライト電球 208
ヘッドライト電球 206
ワイパーブレードラバー 211, 213
後退灯 209
後方誤発進抑制機能 140
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯 209
誤発進抑制機能 138
コンビニフック 113

さ

サービス診断記録装置 3
データの開示について 3
サイドエアバッグ 22
サイドカーテンエアバッグ 24
サンバイザー 7

し

シートの調節 102
アームレスト 110
フロントシート 102
ヘッドレスト 108
リヤシート 104
シートヒーター 113
シートベルト 13
シートベルトのアンカーポイント 18
シートベルトの着用 16
シートベルトの点検 18
シートベルト非着用警告灯 47
シートベルトプリテンショナー 15
シートベルトリマインダー 14
妊娠中のかたのシートベルトの着用のしかた 17
リヤシートベルトリマインダー 14
室内装備品 110
室内灯 110
シフトインジケーター 123
シフトスイッチ 125
シフト操作 122
シフトポジション 122
シフトポジション表示灯 57, 123
シフトポジション P 移動警告灯 52
車線維持支援システム(LKAS) 161
LKAS 警告灯 48
LKAS 表示灯 57
ジャッキ 230
ジャッキハンドル（ホイールナットレンチ） 230
ジャッキハンドルバー 230
車幅灯 207
ジャンプスタート 235
渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール) 147
充電警告灯 46
仕様 254, 256
衝突軽減ブレーキ(CMBS) 132

す

スイッチ
TRIP/CLOCK ノブ 73
イルミネーションコントロール 100
オートマチックブレーキホールド スイッチ 186
パーキングブレーキスイッチ 182
スイッチ操作
ECON スイッチ 127
ENGINE START/STOP スイッチ 91
ステアリング 100
ヘッドライトレベリング ダイヤル 93
リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラースイッチ 99
ワイパー/ ウォッシャー 98
スイッチと表示 131
ステアリング 100
ステアリングスイッチ 131
スノータイヤ 217
スパークプラグ 254, 256
スライドボード 104

せ

清掃 218
制動灯 208
セキュリティシステム 87
イモビライザーシステム 87
セキュリティアラームシステム 87
セレクトレバー
セレクトレバーが動かない 238
セレクトレバーの操作 123
先行車発進お知らせ機能 172
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯 207

そ

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯 208
ソナーセンサー 180

た

ターボ車 197
タイヤ 214
指定空気圧 255, 257
タイヤの点検 214
タイヤのローテーション 216
タイヤパンク応急修理キット 221
冬期のタイヤ 217
パンク 221
タイヤ角度モニター 76
タイヤチェーン 217
タコメーター 72

ち

チェーン 217
チャイルドシート 28
ジュニアシート 38
乳児のチャイルドシート 29
幼児のチャイルドシート 30
チャイルドプルーフ 85
駐停車操作 191

て

低水温表示灯(ブルー) 55
データの開示について 3
テールゲートの開閉 86
テールゲートが開かないとき 250
ドア / テールゲート開閉警告 64
ドア / テールゲート開閉警告灯 52
デフロスター
リヤデフロスタースイッチ 99
点火プラグ 254, 256
電子制御パーキングブレーキ 181

電子制御ブレーキアシスト 189
電池交換 217

と

ドアの施錠と解錠 80
Honda スマートキー 80, 81
解錠してもドアが開かない 251
キーレスエントリーシステム 84
後席ドアが開かない 251
車外でのドアの施錠 / 解錠 82
車内でのドアの施錠 / 解錠 85
チャイルドプルーフ 85
ドア / テールゲート開閉警告 64
ドア / テールゲート開閉警告灯 52
ドアミラー 101
冬期のタイヤ 217
スノータイヤ 217
タイヤチェーン 217
トップテザーストラップ 36
トップテザー取付金具 36
トラブルシューティング
ENGINE START/STOP スイッチのパワーモードが OFF モードからアクセサリーモードにならない 251
ENGINE START/STOP スイッチのパワーモードが OFF モードにならない 251
アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが自動で解除できない ... 252
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る 252
エンジンが始動しない 232
オーバーヒートした 239
解錠してもドアが開かない 251
けん引してもらいたい 246
後席ドアが開かない 251
ジャンプスタートしたい 235
セレクトレバーが動かない 238
走行するとブザーが鳴る 252
パーキングブレーキスイッチを押してもパーキングブレーキが解除できない 252
ハイオクガソリンは使える？ 253
パンクした 221
ヒューズが切れた 241
フューエルリッドが解錠できない 249
ブレーキを踏むと音がする 253
ブレーキを踏むと振動する 251
トランスミッション警告灯 46
トランスミッションフルード 255, 257
トリップメーター 73, 75
ドリンクホルダー 112

な

内蔵キー 80

ね

燃料 254, 256
燃料計 72
燃料残量警告灯 48

は

パーキングセンサーシステム 192
パーキングブレーキ 184
排気ガスの危険性 40
ハイビーム 92
ハイビーム表示灯 55
ハイマウントストップランプ 210
ハザードスイッチ 4
発炎筒 6, 220
バッテリー
ジャンプスタート 235
充電警告灯 46
容量 / タイプ 254, 256
バニティミラー 7
パワーウィンドーの開閉 89

パワーモード 91
パワーモードの切り換えかた 91
パンク 221
番号灯 210
ハンドル 100
ハンドル位置調節レバー 100
ハンドル操作表示灯 58

ひ

ヒーテッドドアミラースイッチ 99
非常点滅表示灯スイッチ 4
尾灯 208
ヒューズ
各ヒューズの装備と容量 242, 244
ヒューズの設置場所 241
ヒューズの点検と交換 245
標識認識機能 174
表示灯 55
LKAS(車線維持支援システム)表示灯（グリーン） 57
アイドリングストップ表示灯（グリーン） 57, 126
イモビライザーシステム表示灯 56
インフォメーション表示灯 56
オートハイビーム表示灯 58
オートマチックブレーキホールドシステム表示灯 58
オートマチックブレーキホールド表示灯 58
シフトインジケーター/M（7 速マニュアルシフトモード）表示灯 123
シフトポジション表示灯 57, 123
渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)表示灯（グリーン） 57
セキュリティアラームシステム作動表示灯 57
低水温表示灯(ブルー) 55
ハイビーム表示灯 55
ハンドル操作表示灯 58
ブレーキ踏み込み不足表示灯 57
方向指示器表示灯 / 非常点滅表示灯 55
ライト点灯表示灯 55

ふ

ブースターケーブル 235
フォグライト 93
電球の交換 208
ブザー
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る 252
走行するとブザーが鳴る 252
フューエルリッド
フューエルリッドが解錠できないとき 249
フューエルリッドの開けかた 194
フューエルリッドの開けかた 194
ブレーキ警告灯(レッド) 43
ブレーキシステム 181
ABS(アンチロックブレーキシステム) 189
アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが自動で解除できない 252
エマージェンシーストップシグナル 190
オートマチックブレーキホールド 186
電子制御パーキングブレーキ 181
電子制御ブレーキアシスト 189
パーキングブレーキスイッチを押してもパーキングブレーキが解除できない 252
パーキングブレーキ 184
フットブレーキ 185
ブレーキ警告灯(レッド) 43

ブレーキシステム警告灯
（オレンジ）....44
ブレーキを踏むと音がする 253
ブレーキを踏むと振動する 251
ブレーキシステム警告灯(オレンジ) 44
ブレーキ踏み込み不足表示灯 57
ブレーキフルード 255, 257
ブレーキ警告灯(レッド) 43
ブレーキシステム警告灯
（オレンジ）....44
フロアボード 104
フロントシート 102
フロントシート
ヘッドレスト 102, 108
フロントセンサーカメラ 178

へ

ヘッドライト
オートハイビーム 94
電球の交換 206
ハイビーム表示灯 55
ライト点灯表示灯 55
ヘッドライトレベリングダイヤル 93
ヘッドレスト
フロントシート 102, 108
リヤシート 109

ほ

ホイールカバー 215
ホイールサイズ 255, 257
ホイールナットレンチ
（ジャッキハンドル）....230
方向指示器(ウィンカースイッチ)
方向指示器表示灯 55
ホーンスイッチ 5
歩行者事故低減ステアリング 142
ホンダセンシング 130

ま

マルチインフォメーション
ディスプレイ 74
マルチインフォメーションディスプレイ
警告メッセージ 59

み

ミラー 101
ドアミラー 101
バニティミラー 7
ルームミラー 101

む

無段変速オートマチック
トランスミッション 121

め

メーター
インフォメーションディスプレイ 73
タコメーター 72
燃料計 72
マルチインフォメーション
ディスプレイ 74
メンテナンス 198
Honda スマートキー 217
エンジンルーム内の
メンテナンス項目 202
清掃 218
タイヤの点検と整備 214
メンテナンスを安全に
行うために 199
ライト類の点検と整備 206
ワイパーブレードラバーの点検と
整備 211

も

モード切り換え(エアコン) 115

ゆ

油圧警告灯 45

よ

四輪駆動機構(4WD) 129

ら

ライトスイッチ
オートハイビーム 94
ハイビーム表示灯 55
ライト点灯表示灯 55
ライト類の点検と整備 206
後退灯電球 209
後面方向指示器 /
後面非常点滅表示灯電球 209
車幅灯電球 207
制動灯 / 尾灯電球 208
前面方向指示器 /
前面非常点滅表示灯電球 207
側面方向指示器 /
側面非常点滅表示灯電球 208
ハイマウントストップランプ
電球 210
番号灯電球 210
フォグライト電球 208
ヘッドライト電球 206
ラジエーター 240

り

リザーブタンク 202, 240
リムサイズ 255, 257
リヤシート 104
リヤシートヘッドレスト 109
リヤシートアンダートレイ 110
リヤシートベルトリマインダー 14
リヤデフロスタースイッチ /
ヒーテッドドアミラースイッチ 99

る

ルームミラー 101

れ

冷却水 240, 255, 257
オーバーヒート 239
低水温表示灯(ブルー) 55
補給 240
レーダーセンサー 179

ろ

路外逸脱抑制機能 167

わ

ワイパー/ ウォッシャー 98
ワイパーブレードラバー 211

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まずHonda販売店にお気軽にご相談ください。
下記アドレスより最新のHonda販売店を検索することが可能です。
Hondaホームページ　https://www.honda.co.jp
（Hondaホームページにある検索ボックスに『販売店』と入力してください）

携帯電話からは、携帯電話用Hondaホームページをご覧ください。
https://shopsearch.honda.co.jp/auto/area/
※：QRコード読み取り機能付きの携帯電話をお持ちの場合は、右のQRコードをご利用ください。
ご利用にあたっては、お持ちの携帯電話取扱説明書をご確認ください。
QRコードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　お客様相談センター

フリーダイヤル　0120-112010（イイフレアイオ）

受付時間　9:00～12:00　13:00～17:00
〒351-0188　埼玉県和光市本町8ー1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速に対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

① 車検証記載事項：車両型式、車台番号、エンジン型式、車両番号、登録年月日
② 車種名、タイプ名、走行距離　③ ご購入年月日　④ 販売店名